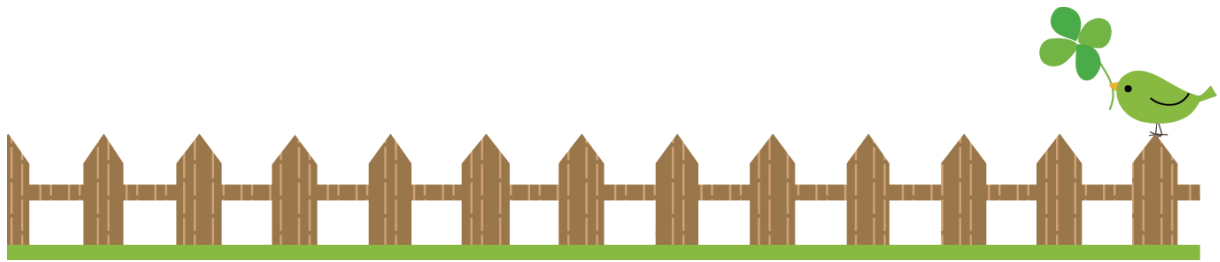


わたしの^{せいしよ}聖書が^{いちばん}一番！ ^{かん}1巻

天地創造～アブラハムの犠牲

～創世記 1-22 章～





もくじ

第1章	わたしたちのすばらしい神様	1
第2章	ルシファーの悲しい選び	9
第3章	すばらしい創造のみわざ	17
第4章	すばらしい創造の完成	25
第5章	神様からの特別なおくりもの	33
第6章	とても悲しい一日	40
第7章	ふたりの兄弟の選んだ道	48
第8章	ノアの箱舟建設	57
第9章	空の中の神様の約束	65
第10章	おろかな建築者たち	73
第11章	決していいことのない利己心	81
第12章	天使たちがロトを救出する	89
第13章	神様に信頼したアブラハムとイサク	97

だい しょう 第1章



わたしたちのすばらしい神様

子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句



「主は大なる神であって、われらの神の都、
その聖なる山で、大いにほめたたえらるべき方である」。

詩篇 48 編 1 節



にちようび 日曜日

聖書は、世界中でもっと
も素晴らしい本です。

全部、本当のことが書かれてい
ます。その中には子ども、お母
さん、お父さん、おじいさん、
おばあさんなどいろんな人が出
てきて、その人たちに起こった
出来事が書かれています。

聖書は、一人の美しい天使が
イエスをうらやましく思い、イ
エス様についてひどいそを言
いふらしたことから、天で始
まった恐ろしい戦いに
ついて語っています。

また聖書は、イ
エス様を愛し、信じ
て従った人々と、イエス
様をねたんだ天使が言い
つづけているうそを信じた人々

についても語っています。

今週は、聖書の一番最初の
部分を学びます。聖書の最初の
本の名前は、何ですか？

創世記というのは“世界の始
まり”という意味です。では、
最初の聖句を読んでください。
そこには誰のことが書かれてい
ますか？神様ですね。

神様ってだれのことでしょう？
どんな顔をして、どんな格好を
しているのかしら？神様はどこ
に住んでいるのでしょうか？神様の
ことを考えるとうれしくなりませ
うか？神様があなたをとっても
愛しているって知ってま
すか？

わたしたちが
住んでいるこの
世界が造られた
お話しをする前に、
この素晴らしい神様につい
て少し勉強しましょう。





© DARREL TANK
USED BY PERMISSION

むかし、男の子や女の子、お父さんやお母さん、さらに川や山、空や海のあるこの地球が造られるずっと前、ここには何もなく、空間が広がっていて、神様以外にだれもいませんでした。

考えてみよう： 今日のお話をもう一度読みましょう。質問にひとつひとつ答えてください。聖書は、「神様は愛である」といっています<ヨハネの第一の手紙4：8>。ある人たちは、神様を怖がります。どうしてかという、そういう人たちは、人がよい人である時だけ神様は愛して下さると考えているからです。あなたは どう思いますか？神様は、いつでもわたしたちを愛しておられます。わたしたちはこれから、神様がお嫌いになることも学ぶでしょう。わたしたちは、神様のことを知れば知るほど大好きになります。

げつようび 月曜日

神様について考える時に、わたしたちにはわからないことがたくさんあります。なぜなら、わたしたちは、人間だからです。たとえば、同時にどこにでもいることができる、ということが、わたしたちには理解できません。でも神様にはそれができるのです。

わたしたちには、始まりもなければ終わりもない、ということは考えられません。この世界にあるものには、みんな始まりと終わりがあります。人間だってそうです。でも、神様には始まりもなかったし、終わりもないのです。

わたしたちには、言葉を使うだけで何もないところから物を作り出すって考えられません。でも、神様にはそれができるのです。

とても頭のいい人はいますが、すべてのことについて何でも知っている人っていませんね。でも、神様はそういうおかなのです。神様は、今まで起こったことを全部ご存知なだけでなく、これから起こることについても全部ご存知なのです。

そうなのです。わたしたちはただの人間なので、素晴らしい神様について全部知ることはできません。でも、わかることもたくさんあります。

神様は、わたしたちひとりひとりのことを、とてもよく知っておられます。神様はわたしたちをとても愛しておられるので、できるだけたくさん神様のことを知ってほ

しいのです。そして神様は、わたしたちと
とても仲のよいともだちになりたいと望ん
でおられるのです。

神様はどこにでもおられると知ったダ
ビデはうれしくて、神様についての歌を
たくさん作りました。そのひとつが詩篇
139：1～12です。読んでみてくだ
さい。

かんが
考えてみよう：神様が一度にどこにで
もいることができるのであれば、神様は、
今、この時もあなたのそばにいらっしや
いますか？はい、いらっしやるのですよ。そ
して神様は、あなたから決してはなれない
と約束してくださっています。こんなに強く
てやさしい愛の神様が、いつもそば近く
いてくださるってうれしいですね。

かようび 火曜日

この世界には、たくさんの家族が
いますね。あなたの家族の名前
は何ですか？何人家族ですか？みんなち
がう名前がつけられていますか？年もそれ
ぞれちがいますか？あなたと同じ名字の
家族を知っていますか？

あなたの名字が鈴木や佐藤だったら、
あなたの兄弟も同じ名字でしょう。でも、
みんなちがう人ですね。

神様にも家族がいらっしやるって知っ
てますか？そして、だれでも神様の家族に入
りたいと思っただけならば、神様の家族にな
れるって知ってましたか？

わたしたちが「神様」という時、本当

は、三人のちがうおかたのことを言ってい
るのです。この三人は、みな同じ「神様」
という名前をもっています（ちょうど人間
の家族が同じ名字をもっているように）。
それぞれの名前は、父なる神様、子なる
神様（イエス様とも呼ばれます）、そして
聖霊なる神様です。わたしたちは、この
神様のことを“三位一体の神様”と言いま
す。それぞれが神様であり、三人ですが
ひとりの神様です。そしてこのかた以外に
神様はいません。

牧師がバプテスマをさずける時に言う
言葉をおぼえていますか？「わたしは今か
ら、父とみ子と聖霊の名によってあなたに
バプテスマをさずけます。」と言いますね。

バプテスマを受ける時、その人は、
自分が神様の家族に入る決心をしたこと
をまわりの人たちみんなに示しているの
です。そして、聖書は神様の言葉だから信
じますと言います。聖書は、神様がわた
したちにお話しする大事な方法のひとつ
です。

家族の人たちといっしょに計画して何か



© AMAZING FACTS, USED BY PERMISSION

をするのは楽しいですね。でも、ひとりひとりがちがう仕事をもっているでしょう。

この三人の神様も、それぞれに特別なお仕事があります。しかし、どのおかたもなんでもできる力を持っているし、なんでも知っています。

この三人の神様は、何をするにもいっしょに計画を立て、同じ思いをもってすべてのことをします。そして、わたしたちが考えている以上に、この神様は、わたしたちを愛しておられるのです。

かんが 考えてみよう:もし自分で決心するならば、バプテスマを受ける前でも、子供たちは神様の家族に入ることができます。あなたは、神様の家族の一員になりたいですか?だったら今、イエス様にそのことを伝えましょう。そうしたら、毎日神様を愛し、信頼し、従えるように、イエス様はあなたをずっと助けてくださいます。

すいようび 水曜日

せい 聖書を通して、神様がわたしたちに何かお話になったり、何かをされたりする時、父なる神様と子なる神様と聖霊なる神様が、みんな同じ思いをもっていることがわかります。

神様が何かをつくらうとされる時、イエス様(子なる神様)がそれを実際に造ります。どうするかというと、イエス様は、ことばで何でもお造りになるのです。だからイエス様は、時々“ことば”とも呼ばれています。そのことについて、聖書のヨハ

ネによる福音書 1:1~3 を読みましょう。

あなたはお話する時、ことばを使いますね。でも、ことばを出すだけで生き物を作れますか?神様だけが、人や物を生きたものにすることができるのです。なぜなら、いのちはすべて神様からくるものだからです。神様は、わたしたちを、ぜんまいや電池で動くおもちゃのようにはつくられませんでした。この神様が、すべてのものを生かし続けているのです。

聖霊なる神様は、よく“助け主”とか“なぐさめ主”と呼ばれています。この神様は、いつでもどこでもいることができ、わたしたちと、いつも一緒にいることができます。この聖霊は、わたしたちの心(思い)に語りかけてくれたり、いろんな方法で助けてくださいます。わたしたちが親切で、いつも本当のことを言うように助けてくださるのです。また、サタンが悪いことをさせようと誘惑しても、「やらない!」と言えるように、わたしたちを助けます。聖霊なる神様は、すばらしい友だちであり、たすけ主なのです。

かんが 考えてみよう:あなたは絵をかくとき、何を使いますか?クッキーを作るときは、何が必要でしょう?人間はだれでも、ことばを出しただけで絵をかいたり、クッキーを作ることはできませんね。でも、イエス様は言葉だけで、何でもお造りになるのです。

あなたがいけないことをしたり、怒ったり、めそめそしたくなくても、それをがまんしてイエス様を喜ばせることをするとき、それは、聖霊があなたを助けているので

す。神様に従うことが、わたしたちを幸せにすることを、聖霊は知っています。ですから、いつも聖霊の声に耳をすませ、従いましょう。

もくようび 木曜日



© AMAZING FACTS
USED BY PERMISSION

く らい夜空を見上げると、何が見えますか？わたしたちが見ることのできる月や星や太陽は、イエス様がつくられたたくさんの太陽や他世界の中のほんの一部にすぎないって知ってましたか？

もちろん、神様は他世界をただ美しくおつくりになって、からっぽにしておきたかったのではありません。人がその星で幸せにくらせるように、おつくりになったのです。神様は、自分で考えたりお話しができて、神様を愛し、ともだちになってくれる人たちがほしかったのです。

神様は、その仕事を手伝わせるために、何百万もの天使をおつくりになりました。

その天使のうちの一ひとは、神様の特別な仕事をしたり、ほかの天使たちのリーダーになるはずでした。その天使は、ほかの天使よりも背



BETTY LUKENS FELTS

が高く、美しくて頭もよかったです。この天使は、名前をルシファーと言いました。

ルシファーは、神様の特別なお手伝いをしたり、神様と仲のよい友だちであることを、とても喜んでいました。時には、神様のおつかいで他世界に行ったり、また、コワイヤーのリーダーでもありました。ルシファーの歌声のなんと美しかったこと!!ほかの天使たちは、ルシファーのことが大好きで、ルシファーにたのまれたことは何でも喜んでしました。

天国の天使たちと他世界の人々は、ひとつの大きな楽しい家族のようなものでした。天使たちも人々も、みんなおたがいを愛し、楽しくくらしていました。だれもねたんだり、いじわるしたり、わがままをしようと思いませんでした。

かんがえてみよう: あなたは、神様がつくられたほかの世界へ行って、そこの人々と会いたいですか。神様の家族の一員になったら、そんな夢もかかないですよ!!

きんようび 金曜日

かみさまがつくられた天使やほかの世界の人々は、まったく罪がなく、しあわせでした。

どうして、わたしたちのこの世界で

は、不幸な人がこんなにたくさんいるのか、考えたことがありますか？どうしてみんな、けんかしたり、殺しあったり、おたがいに恐ろしいことをするのでしょう？考えてみましょう。

神様が天使や人をつくられたとき、それぞれが自由に選べるようにつくってくださいました。神様は、わたしたちが、自分から神様を愛したがるのを喜びになるのであって、無理やりにさせたりはしません。もし、わたしたちに選ぶ自由がなかったら、本当に自由とはいえませんね。

神様は、何でも、ものごとがおこる前から知っておられますか？もちろん、ご存じです。ずっとむかし、神様がたくさんのせかいや天使やにんげんをつくり始めたころ、だれかが、神様を愛さなくなり、従わなくなることを、神様はご存じでした。そのとき、もし神様が、「その人をつくるのはやめよう。そして、このことはだれにも言わないことにしよう。」とおっしゃっていたらどうでしょう。そんな神様を信じることはできないですよ。神様は、わたしたちを本当に自由につくってくださいました。うれしいですね。自分で選べるってうれしいことです。来週は、ひとつのまちがった選びによって、天国とこの地球の幸福がこわされてしまったお話をします。

でも、よい知らせがあります。神様は、これから起こる将来のこともぜんぶご存じです。そしてもうすぐ、悲しみや不幸はすべてなくなると、神様は約束してくださっています。そしてそのあとは、もう二度と悪をもちこむ人はあらわれないと、神様は

ご存じなのです。この地球はまた、完全で美しいすがたになって、そこに住む人たちは、いつまでも幸せにくらすのです。このことを考えると、あなたもうれしくなりませんか？

かんが **考えてみよう**：“三位一体”の神様のみつつの名前が言えますか？神の子とよばれるイエス様は、何をしましたか？聖霊の神様は、どのようにわたしたちを助けてくださいますか？あなたも、神様のすばらしい家族になれることをうれしく思いますか？イエス様に、かんしゃのお祈りをしたいですね。

まな もっと学ぼう！

★詩編 139:1-12

★箴言 8:22-36

★人類のあけぼの上巻 p. 1-3



すばらしい贈り物— パート1

パティ・リン・ガスリー

「えっ、赤ちゃん?わたしたちに赤ちゃんが生まれるの?」お母さんの目は、うれしさでかがやきました。お医者さまは、なんてすばらしいことを教えてくださいましたのでしょ! 赤ちゃんが生まれる!お父さんに話すのが、待ちどおしくてたまりません。

お父さんが仕事から帰ってくると、お母さんのうれしそうな顔を見て、何か特別なことがおきたことが、すぐわかりました。

「今日、何があったかわかる?」とお母さんは言いました。

「何があったの?」とお父さんはたずねました。

「赤ちゃんが生まれるのよ!」

今度はお父さんがこうふんして「それは、すばらしい!」とさけび、お母さんをぎゅっと抱きしめました。「想像できる?はじめの赤ちゃんだ!わたしたちは本当の家族になるんだね!」



「そうね。」お母さんがうなずきました。「もう、待ちきれないほどうれしいんだけど、赤ちゃんが生まれるまでに準備しなければならいも

のが、山ほどあるわ。赤ちゃんにはいろいろ必要ですものね!

ふたりはすぐにけいかくを立てはじめました。じゅんびにおわけて、月日はどんどんとぶように過ぎていきました。

まず、あかちゃんのためのとくべつなへやをよういしました。かべを白くぬり、そのふちをきれいなかべがみでかざりました。お母さんは、あかちゃん

ふとんを作るために、ぬのをかいました。おばあちゃんからは、あかちゃんよのベッドをいただきました。

おみせで買うものもありました。あかちゃんにはおむつやおしりふきが必要ですよ。そのほかにも、ベビーパウダー、シャンプー、あかちゃんベッドのシーツやねまきも必要です。それから、あかちゃん用のおふろやタオルなど、たくさんのもをいきました。お友だちからは、お洋服やもうふ、おもちゃなどをいただきました。なにかもが、うれしくてしかたがありません。

お母さんは、定期的にお医者さまのところに行きましたが、ときどきお医者さまは、あかちゃんのお心の音を聞かせてくれました。ちいさなトントントンという音が聞こえます。それで、あかちゃんが順調に



おお
大きくなっているのがわかりました。

ある日、お父さんが「あかちゃんの名
まえを決めなくては」といいました。

「そうですね」おかあさんも賛成しまし
た。

それから、名まえの本を買ってきていろ
いろな名まえを書き出しました。すてきな
名まえがたくさんありました。その中から
どれをえらぶか、お父さんもお母さんもと
ても迷いました。そして、やっと決まりました。「ローレル・アンと呼びましょう」

じゅんぴがととのったら、あとはローレ
ル・アンがうまれるのをまつばかりです。
ついに、お医者さまがうまれるとおっしゃっ
ていた日がやってきました。でも、その日
ローレル・アンはでてきませんでした。次
の日もまた次の日もローレル・アンは生ま
れません。

(つづく)



だい しょう 第2章

ルシファーの**かな**悲**えら**しい**えら**選び



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

りっぽう まも もの
「律法を守る者はさいわいである。」

しんげん しょう せつ
箴言 29章 18節

にちようび 日曜日

規則がとっても大事だってこと知っていますか？規則ってとってもとてもありがたいんです。手巻きのおもちゃや車、コンピューター、私たちの体ですら、規則がなければ作動しないんです。では、一つだけ例えをあげましょう。



信号が赤の時は止まらなければいけないという規則がありますね。もしみんなが、いつでも破りたい時にその規則をやぶることができたとしたら、どうなるでしょうか。どれだけの車がぶつかり合って、交通事故を起こしてしまうか想像できますか？またどれだけの人が、大ケガをしたり死んでしまったりすることでしょう。

賢い人たちが良い規則を作ってくれるおかげで、私たちは守られ、安全でいられるのです。ふだん私たちは、いろいろな規則を守っていても、あまりそれらの

規則のことは考えていません。交通規則を守っている運転手は、パトカーを見ても何もこわくはありません。お巡りさんは、私たちが安全でいられるように手助けしてくれていることを、かえって喜ぶべきです。

神様が造られたものは数えきれないほどありますが、それらすべて、規則によって動いているのです。もしそうでなかったら、世界中のすべてのものが、めちゃくちゃになってしまうでしょう。



かんが 考えてみよう：**しよくぶつ** 植物や **どうぶつ** 動物は、どれも自動的に **かみさま** 神様の規則に従っているの

です。リンゴの木が規則に逆らって、リンゴの代わりにイチゴを実らせることがあるでしょうか？もちろんないですね。植物はそれぞれ、神様に決められた通りの働きをします。ネコが子犬を産むのでしょうか？いいえ、ネコは子ネコを産むのです。植物や動物は、どれも神様が作られた規則に従っているのです。他にも何か良い規則を思いうかべることができますか？

たいよう つき ほし
太陽や月や星のためには、どんな規則が
つく
作られたのでしょうか？神様は人のためにも
かみさま ひと
規則を作られましたか？その規則に、何か
きそく つく きそく なに
言うことができますか？

げつようび 月曜日

しよくぶつ どうぶつ にんげん たが に
植物と動物と人間は、互いに似て
いるところがあるのでしょうか？どれ
みず ひつよう た もの しんせん
も水が必要でしょうか？食べ物？新鮮
くうき にっこう ひつよう
な空気は？日光は？そう、どれも必要で
しよくぶつ どうぶつ
す。でも植物と動物ではずいぶ
ちが どうぶつ
ん違いますよね？動物にでき
しよくぶつ
ることを、植物ができないこ
とがあります。



また、動物たちは、人間のように話し
かんが
たり考えたりはできません。ビーバーは木
いし
や石でダムをつくることはできますが、車
うんでん とり
を運転したことがあるのでしょうか？鳥は飛
べますが、飛行機をつくることはできます
ひこうき
か？宇宙船はつくれますか？動物はたい
うちゅうせん どうぶつ
てい、神様がその動物に与えられた規則
かみさま どうぶつ あた きそく
に自動的に従って生きています。これを
じどうてき したが い
本能と呼びます。動物は私たちのように
ほんのう よ どうぶつ わたし
かんが けいかく た えら
考えたり、計画を立てたり、選んだりしま
せん。

えら ちから かみさま にんげん あた とくべつ
選ぶ力は、神様が人間に与えた特別な
おく もの にんげん はな かんが
贈り物なんです。人間は話したり考えたり、
けいかく えら
計画したり、選んだりすることができます。
わたし しょうぶつ た どうぶつ ちが
私たちは、植物とも、他の動物とも違
かみさま わたし あた
います。神様が私たちに与えてくださった
きそく わたし まな したが
ような規則を私たちが学び、従うことを、
かみさま のぞ
神様は望んでおられます。なぜなら、そう
わたし しあわ
すれば私たちが幸せになることを、神様

ぞんじ わたし あい
はご存知だからです。私たちが愛しておら
かみさま わたし ふこう
れる神様が、私たちに不幸にしようとして
なに もと ぜったい
何かを求めるようなことは、絶対にありま
せん。

わたし かみさま あい しんらい
私たちは、神様を愛し信頼しているか
したが かみさま わたし むり
ら従いたいのです。神様が私たちに無理
したが けつ
やり従わせようとするのは、決してあり
ません。そんなことをしたら、私たちは
かみさま
神様をこわがるようになるはずですよ。

かみさま きそく よ
神様の規則はなんと呼ばれています
じっかい よ じっかい しゅつ
か？十戒と呼ばれています。十戒は、**出**
エジプト記 20:3~17 にあります。では
よ
そこをよんでみましょう！

かんが
考えてみよう：どうして私たちは、神様
わたし かみさま
が人間のために規則をつくったことを喜ぶ
にんげん きそく よろこ
ことができるのでしょうか。もしわたしたち
きそく
に規則がなかったならこの世界はどんな
せかい
風になるのでしょうか。みんなが好き勝手に
ふう
殺したり、盗んだり、ウソをついてだまし
ころ ぬす
たりできる世界に、あなたは住みたいと思
いますか？

かようび 火曜日

あ あなたは、天使たちも選ぶことが
てんし えら
できるように造られたと思います
つく おも
か？もちろん、その通りです。

かみさま とくべつ たす て てつだ
神様の特別な助け手（お手伝いをす
もの なか
る者）にするために、またとっても仲の
よ ともだち つく うつく
良いお友達になるために造られた美しい
てんし なまえ し
天使の名前を知っていますか？それはル
なまえ ひかり ししや
シファーです。その名前は「光の使者」

という意味です。ルシファーは、天で最も重要で最も美しい天使でした。また、すばらしい声で歌うことができ、天の聖歌隊の指揮者でもありました。

すべての天使たち、また神様がお造りになった他世界の人々の誰もが、最高に幸せでした。ルシファーもとても幸せでした。彼は、神様の特別な使者であることが好きでしたし、神様の近くにいることが大好きでした。

ところが、とても悲しいことが起こりました。ルシファーは、自分がどんなに美しく特別であるかを考えるようになってきました。さらに自分のことばかり考えるようになると、神様の愛と知恵についてはあまり考えなくなっていました。

ルシファーは、第一の戒めに従っていませんでした。彼は、天使として造られたのですが、それ以上の存在になりたいと思いました。彼は神になりたかったのです。

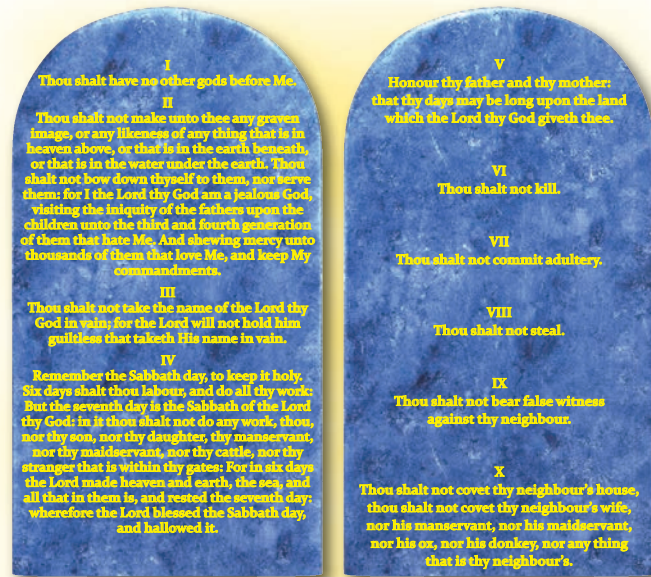
父なる神様と子なる神様（キリスト）が、この世界とそこに住む人間を造る計画を立てられたときに、ルシファーは御子

（キリスト）をねたみ始めました。当然、自分も計画に加わると考えていたからでしたが、それはとても愚かなことでした。彼は天使として造られたのですから、神になれるわけではないのです。

ルシファーには、神様のような創造（星や生き物などをつくること）の力はありませんでした。つまり、私たちと同じ、造られた者だったのです。父なる神様と子なる神様、そして聖霊なる神様だけに、創造の力が

あります。そして、創造のときにも言葉を語られたのが子なる神様、つまり御子キリストでした。だから、彼は私たちの造り主と呼ばれているのです。彼が、ルシ

ファーを含む、一人ひとりの天使を造られました。



TEN COMMANDMENTS

考えてみよう:ルシファーには不幸せになる理由がなにかありましたか？彼は自分を不幸にするどんな考えを選んだのでしょうか？いばることやわがままやねたむ（うらやむ）ことは、私たちを不幸にしますか？私たちがそのような考えを選ぶとき、他の人たちを幸せにしますか？それとも不幸にしますか？

すいようび
水曜日

ルシファーが自分勝手に考え、ね
たむようになつてから、も

ちろん、もう前のよう
に幸せではなく

なっていました

た。彼は

神様につい

て、本当で

はない事を

他の天使たち

に話し始めました。

ある日彼は「なぜ規則に

従わなければならないのだろう」と言いま

した。

規則？天使たちは、自分たちが規則に

従っているとさえ思っていました。

彼らは最高に幸せでしたし、心から神様

を愛していました。

またルシファーは「自分たち天使に

規則はいらない」と言うようになりました。

「規則がなければもっと幸せになるはず

だ。私たちは完全なのだから」と言うわ

けです。

最初、天使たちはどう考えていいか分

かりませんでした。これまでずっと、ルシ

ファーを愛し、信頼し、あこがれていま

した。彼が言っていることは正しいように聞

こえました。何かがおかしいと思われま

した。ルシファーは、これまでと同じよう

に神を愛していると言いましたが、自分の

計画は神様よりも素晴らしいと言いつ張った



Betty Lukens felts

のです。

それから神様に向かって、自分は忠実
に従いたいのだけど、他のたくさんの
天使たちが文句を言っているかのように
話し始めました。

神様は、ルシファーの考えや、
彼のやっていたことを、

ちゃんと知ってお

られたのでしょ

うか。もちろ

ん、ご存知で

した。そのこと

が、どんなに悲

しかったことでしよ

う。辛抱強く、また優し

く、神様はルシファーのひどいやり

方を止めさせようとした。

実は、ルシファーも自分が正しくない考

えを選んだことを知っていました。自分が

もう幸せでなくなっていたことも分かって

いました。そしてもう少しで、ルシファー

は考え直して、ごめんなさいと言うところ

でした—もう少しで。けれども、自分がう

そをついていたことを天使たちの前で認

めるのは恥ずかしいと思いました。うぬぼ

れて「自分が誰よりもえらいという気持ち」

が強すぎたからです。

考えてみよう：自分が悪いのに、意地を

張ってしまって、ごめんなさいと言えなかつ

たことがありますか？反抗したり、誰かを

傷つけてしまったとき、すぐにどうするべき

ですか？

もくようび 木曜日

何百、何千万もの天使たちの一人
ひとりが、神様に従うか、それ
ともルシファーに従うかを選ぶことになり
ました。神様は誰かを、無理やりに従わ
せようとするのは絶対にないということ
を、いつも覚えていて下さい。半分以上
の天使たちが神様に従うことを選び

ましたが、ルシ
ファーに従うこ
とを選んだ天使
も多くいました。

むかし、天国
において、神様
の天使たちとルシ

ファーの天使たちとの間で闘いがあった
と、聖書に書かれています。それは、と
てもとても悲しい出来事であったに違いあ
りません!

とうとう、ルシファーに従うことを選んだ
天使たちは、天国から出て行かなくては
いけないと神様が言われました。そして、
ルシファーの名前はサタンに変えられたの
です。

ルシファーは、自分が天国の支配者
になろうと思っていました。そんな彼が、
天国を追い出されることになりました。
自分が間違った道を選んでしまったため
に、幸せではなくなったことを知っていま
した。また、彼のうそを信じることにした
何千、何万という天使たちも、もう幸せで



©Amazing Facts, Used by permission

はありませんでした。

ルシファーのうそを信じ込んで、天国を
でることになった天使たちの、怒り狂った
悲しそうな様子を想像できますか?天国で
は最高に幸せだったのに、もうそこにはい
られなくなったのです。

ルシファーの約束したことはどれもこれ
もその通りにはなりませんでした。ようや
く、彼にだまされたことが分かったので
す。だまされた天使たち

は、天国に戻り
たいと思いまし
た。サタンも戻
りたいと思いまし
た。そして自分た
ちが、戻れるよ
うに神様に願い
求めたのでした。

自分がうそをつい
たことも認めました。そして自分が一番の
天使ではなくても、神様に喜んで従うと
約束したのです。

サタンと彼の天使たちが心から悪かった
と思っていたのかどうか、神様は知ってお
られたのでしょうか。もちろん、ご存知で
した。神様は、サタンの心が本当には変
わっていないことを知っておられました。

自分たちの願いがかなわないことを
知ったサタンと彼の天使たちは、神様を
傷つけるために出来るだけのことをしよう
と決心しました。

考えてみよう: 自分たちが悪かったとサ
タンが言ったときに、彼が心から誤ってい

なかつたことをあなただつたらどうやって分
かりますか？子どもたちはこれまでに、た
だ単に罰を受けたくないから謝つたとい
うことがあるでしょうか。私たちが本当に
謝っているかどうか神様がご存じであるこ
とをあなたはどう思いますか？私たちのお
父さんやお母さんは、どうして分かるので
しょうか？

きんようび 金曜日

御子（キリスト）が新しい世界とそ
こに住む特別な人々を創造する
ことになっていたのので、サタンは彼をねた
みました。神様を傷つける一番いい方法
は、彼がちょうど天でやったようにめちゃ
くちやにすることだと考えました。そうす
れば、この世界は自分のものになると。
そうすれば、彼と彼の天使たちは世界の
支配者になることができ、そうすることが
神様を傷つけ、悲しませると考えたのでし
た。

彼が悪天使たちにその計画を話したと
き、彼らはできるだけのことをやって彼を
手伝うと約束しました。

ルシファーは、なんて意地悪で残酷な
ものになったのでしょうか！すでに彼は、多く
の不幸を生み出していたのです。

考えてみよう：罪とは神様の律法に従わ
ないことを選ぶことです。罪はルシファー
の選びにより天国で始まりましたね？どの
規則にルシファーは従わなかったのです

か？一番目の規則はどうですか？彼は、
神様と同じくらい自分を偉い者にしようとし
ましたか？神様のやり方よりも自分のやり
方のほうがいいと考えたのです。彼はうそ
をつきましたか？神様から天使たちの愛を
奪おうとしましたか？もし私たちが安全で
幸せでありたいなら、いつでも神様の律法
に従えるように助けてくださいとお願いま
しょう。

まな もっと学ぼう！

★イザヤ 14:12-15

★エゼキエル 28:2-10, 12-19

★人類のあけぼの上巻 p. 3-15

★あがないの歴史 p. 19-25



すば 素晴らしい贈り物— パート 2

パティ・リン・ガスリー

前回のあらすじ：お父さんとお母さんは赤ちゃんが生まれるのをわくわくしながら待っていました、けれども、ローレル・アンはお医者さんがこの日に生まれるでしょうと言った日には生まれてきませんでした。次の日も、またその次の日も！

予定通りに生まれてこなかったローレル・アンを待っているのは、とてもつらいことでした。でもようやく、生まれてくると思われていた日から12日後に、ローレル・アンは生まれたのでした。かわいい赤ちゃんを迎えるために、お父さんはお母さんのすぐそばにいました。おばあちゃんもジョアンおばさんも一緒でした。

たくさんのお友だちも、その知らせを待っていました。みんなが赤ちゃんのことを知りたがっていました。多くの人がローレル・アンを見に来たり、電話をかけてきたり、手紙やカードを送りました。その人たちは、「どのくらいの重さなの?」とか「名前はなに?」、「誰に似ているの? 髪の毛は生えているの? 何色?」というようなことを質問しました。

おうちでは、ローレル・アンが生まれる前とはすべてが変わりました。生ま

れたばかりの赤ちゃんは、眠ること、ミルクを飲むこと、泣くこと以外、あまり大したことはできません。赤ちゃんは目もあまり良くないのです。もちろん、お父さんとお母さんは、きちんとローレル・アンの世話をしました。彼女をとてまかわいがり、彼女のために何でもやってあげました。

お父さんはしょっちゅう、ローレル・アンを優しく抱っこしました。時には彼女の目をのぞきこみ、歌ってあげるのでした。

お母さんはこの大切な赤ちゃんを腕に抱きながら、心は幸せでいっぱいになりました。あまりに幸せなので、この子は本当に自分たちの赤ちゃんだらうかと思うこともありました。わが子にはいつも神を愛し、信頼し、その素晴らしい律法に従うことを教えますと、神様に約束しました。

赤ちゃんは、いつまでも赤ちゃんのままではいません。ローレル・アンも他の赤ちゃんたちと同じように、またあなたもそうであったように、すぐに大きくなりました。しかも、生まれた赤ちゃんは、ローレル・アンだけではありませんでした。彼女の後に三人、かわいい赤ちゃんが生



まれました。2番目はウィリアムと名づけられました。つぎにメリッサ、最後にリトル・ジャネルが生まれました。どの子もローレル・アンと同じくらいかわいがられています。

ウィリアムとジャネルは、赤毛でそばかすがあります。ローレル・アンとメリッサは、濃い色の髪の毛をしています。一人一人がいろんな面で違って、それがかえって面白いのです。みんながお互いを大切に思っています。彼らは一緒に遊び、共にいろんなことを学びながら、成長してきました。なんて幸せな家族なんでしょう！

アダムとエバ以外の全ての人は、赤ちゃんとして生まれてきました。あなたも、赤ちゃんだったころがありましたね。あなたのお父さんもお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも、赤ちゃんだったころがありました。そして、たとえ双子として生まれてきた人でも、自分と全く同じ人間は、どこにもいないのです。ですから、赤ちゃんはみんな特別なのです。あなたも特別な人間です。

神様は私たちみんなを愛しておられます。私たちが何者なのか、どこで生まれたのか、どこに住んでいるのか、どれだけお金持ちか、どれだけ貧しいかは問題ではないのです。神様は一人ひとりを同じように愛しておられ、一人ひとりが、とても特別な存在なんです。私もあなたも特別です。私たちひとりひとりが本当に特別なのです。

だい しょう 第3章

すばらしい創造のみわざ



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「はじめに神は、天と地とを創造された。」
創世記1章1節

にちようび 日曜日

これまで、私たちのすばらしい神様について学んできました。また、かつては天国で、もっとも美しく、力ある天使であったのに、神様の律法に逆らってサタンとなった、ルシファーについても学んできました。

神様をねたむようになったルシファーは、神様が実は愛のお方ではなく、不公平な神であると、天使たちに信じ込ませようとしていました。

しかしついに、サタンを信じることにした天使たちも、彼にだまされていたことを知るようになります。

神様は愛であり、私たちが幸福にすることしか



なさいません。ただし、私たちが無理やり従わせるようなことは、決してなさいません。

今週は、神様がどのようにして、この美しい世界をつくられたかについて学びます。それは、ずっと前から、つまりルシファーがまだ天国にいるときから計画されていた。

聖書の最初の書である創世記の、最初の2節を読んでみましょう。創世記1：1，2。

創世記の最初のところに、私たちの世界がどのように始まったかが書かれています。

第一日目の前、そこには、からっぽの



くら
暗やみしかありませんでした。そのような
ところ、^{かみさま わたし せかい}神様は、私たちの世界をつくら
れたのでした。^{さいしょ}最初は、^{ちきゅうぜんたい}地球全体が、^{みず}水
でおおわれていました。^{かみさま れい}神様の霊が、す
べてのものを、^{みまも}愛情ぶかく見守っていました
た。そこで、^{かみさま なん い}神様は何と言われましたか？
3～5節を読んでみましょう。

^{とつぜん ひかり あらわ}突然、光が現れます。これで、^{かんぜん}完全な
くら
暗やみではなくなりました。^{だいいちにちめ}第一日目に、
^{ひかり やみ わ}光と闇とが分けられました。^{こんにち ひ}今日、この日
^{にちようび よ}は日曜日と呼ばれていますね。

^{いちにち はじ あさ おも}一日の始まりは朝のように思われます
が、^{せいしょ}聖書によると、^{ゆうがた たいよう しず}夕方、太陽が沈むと
きに一日が始まります。^{いちにち はじ つぎ ひ たいよう}次の日も、太陽
^{しず はじ あさ たいよう のぼ}が沈むときに始まります。朝、太陽が昇る
ときではありません。

かんが
考えてみよう：^{わたし からだ あさ め}私たちの体は、朝、目
を覚まして、^{さ ひる あか じかん かつどう}昼の明るい時間に活動する
ためには、^{よる くら あいだ すいみん やす}夜の暗い間に睡眠をとって休
^{ひつよう}む必要があることを、^{かみさま ぞんじ}神様はご存知でした
か？^{とう かあ わたし ひる}お父さんとお母さんは、私たちが、^{あいだ ひつよう}昼
の間にたくさんのエネルギーを必要とする
ことを知っているの、^{し よる はや}夜になったら早く
^{ね なさい い}寝なさいと言うのです。^{りょうしん い}両親の言うことに
^{したが わたし まいにち げんき たの}従うなら、私たちは毎日、元気に楽しく
^す過ごすことができるでしょう。^{いちにち たの}一日を楽しく
^{かつぱつ す}活発に過ごすのと、^{かな おも}悲しい思いでだらだら
^す過ごすのと、どちらがいいですか？

げつようび 月曜日

^{だ い いちにちめ お わたし}第一日目が終わるころ、私たちの
第^{せかい}世界はどんな姿をしていました
^{みず}か？まだ、ぶあつい水におおわれた状態
でしたね。

^{だいににちめ なん よ}第二日目は、何と呼ばれていますか？
^{げつようび}月曜日です。月曜日、^{かみさま なに}神様は何をな
^{そうせいき}さいましたか？**創世記 1：6～8**で、^{かみさま}神様
^{なん い}は何と言われましたか？

^{かみさま}神様は、^{ことば はつ}ここでも言葉を発しておられ
るだけです。^{わたし せかい みず}私たちの世界は、まだ水に
おおわれていましたが、^{なん}ほかにも何か
^{あらわ}現れました。それは何でしたか。^{そら}空です。
^{かみさま あおぞら くうき}神様が、青空と空気をおつくりになりました
^{あお うみ}た。また、青い海もつくられました。

^{わたし けんこう こうふく ひつよう}私たちが健康で幸福になるために必要
なものを、^{かみさま}神様はすべてご存知でした。
さらに神様は、^{かみさま かんが}ほかのことも考えておられ
ました。^{わたし にんげん ま}私たち人間だけでなく、間もなく
つくられる、^{もの ひつよう}すべての物の必要について
も、^{かんが}考えておられたのでした。

^{かみさま}神様が^{もの}つくろうとしておられたすべての
物は、^{まえ}前もって、^{ちゆうい けいかく}注意ぶかく計画されてい
ました。^{かみさま ちい}神様は、どんな小さなことも、お
ろそかになさいませんでした。すべての
^い生き物は、^{くうき ひつよう}空気を必要とするように、つく
られようとしていました。

すべての^い生き物は、^{みず ひつよう}水も必要とするよう
に、^{みず なか}つくられようとしていました。水の中
で泳ぐのも楽しいことではありますが、^{およ たの みず}水

がつくられるのは、もっと大切な理由があったからでした。生きるために、私たちは水をたくさん飲まなくてはなりません。

かんが **考えてみよう**：毎日外に出て、きれいな空気を吸っていますか？夜の間に、窓を開けて、きれいで新鮮な空気を部屋に入れていますか？私たちは、毎日どれだけの水を飲んでいきますか？体を健康にたもつために、私たちは、食事と食事の間にたくさん水を飲む必要があります。食事と食事の間に必要なのは、ジュースやソーダではなく、きれいなお水なのです。

かようび 火曜日

さい 初の二日間で、神様は何をおつくりになりましたか？まず神様は、私たちの世界を水でおおわれました。それから光と空気がつくられました。さて、三日目になりました。その日は今の何曜日ですか。火曜日ですね。

神様は、さらに何か言おうとしておられました。その日には、何と言われましたか？
そうせいき (創世記 1 : 9、10)。



水の中から陸が現れるようすを、その場で見ていたかとは思いませんか？いつしか、広い陸地ができていました。

陸地にも、いろんな湖や川や、泉がありました。海のそばには、美しい砂浜があったかもしれません。しかし、あたりはまだ、茶色の山や丘や谷ばかりでした。

その日の仕事は、まだ終わっていませんでした。草や木や花はまだなく、茶色い地面しかありませんでした。そこで神様



は、ふたたび何か言われました。何と言われましたか？ **11、12 節** を読んでください。

わくわくするような話ですね。いつしか茶色い地面が、とても美しい、緑の草におおわれていたのです。それは、冬になると、茶色くなって枯れてしまうような草ではありませんでした。ありとあらゆる種類の緑におおわれた草原が、そよ風にゆられて波うっていました。

花もたくさん咲いていました。神様がおつくりになった花は、私たちの想像をはるかにこえるほど、美しいものばかりでした。赤い花、黄色い花、青い花、他にもあり



とあらゆる色や形の花が咲いていました。
花の香りも、素晴らしいものでした。

木もたくさん生えていました。ありとあらゆる形や大きさの木があり、葉っぱも、形や大きさ、緑の明るさがどれも異なっていました。たくさんの、異なった種類の果物を実らせる木もありました。どれもみなおいしそうです。あなたは、どれだけの種類の果物をあげることができますか？神様はその日、たくさんの種類の果物をつくられました。

ナッツは好きですか？ナッツの木も、ありとあらゆる種類のものがありました。

イチゴは好きですか？いろんな種類のイチゴの茂みが、いたるところにありました。甘いにおいのする、赤や緑やむらさきのブドウを実らせている美しいつるも、いたるところにありました。

茶色く枯れた葉っぱや、枯れてみにくくなった枝は、ひとつもありませんでした。雑草や、とげのある草木もありませんでした。そんな素晴らしい世界を、想像することができますか？

その日、神様が、これらの美しいもの

をどうやっておつくりになったのか、くわしくは分かりません。もしかしら、映画を早送りで見るように、植えられた種があったという間に芽を出し、どんどん成長していったのかもしれませんが、いずれにしても、神様が創造なさるようすを見ることができたら、きっとすばらしかったでしょうね。

かんが **考えてみよう**：わたしのからだを強くし、健康にたもつために、神様がおつくりになった素晴らしい食べ物を、あなたは喜んで食べていますか？サタンは、あなたの体を傷つけて病気にするような食べ物を、あなたに食べさせようとしています。体に悪い食べ物とは、どういったものですか？体によい食べ物を、いつも選んで食べるようにしましょう。今度お店に行ったら、どれくらいの種類の果物や野菜があるか、数えてみましょう。

すいようび 水曜日

第四日目になりました。その日は何曜日でしたか？水曜日ですね。

すでに、見た目は美しい世界になっていました。夜になると空は暗くなり、昼になると明るくなりました。その日の夜が始まると、神様は、ある特別なことをなさいました。神様が言葉を発すると、何が起こりましたか？**創世記 1：14～19**を読んでください。

その日の夜、大きな銀色の月が、空に浮びあがりました。さらに、ダイヤモンド



のようにキラキラ光る、数えきれないほどの星が、空にちりばめられました。

朝になると、大きな暖かい太陽が、東の丘の間から顔を出しました。ゆっくりと空をのぼっていき、それからゆっくりと西のほうにおりていき、丘の後ろにかくれて見えなくなりました。特に、太陽が昇ってくるときと沈むときは、空をどうかな美しい色に染めてくれました。

神様はただ、一日の終わりに暗やみで世界をおおって、「もう寝なさい」と言い、毎朝その暗やみのおおいをはずして「さあ起きなさい」と言うことができたはずです。しかし、そうはなさらないで、私たちが、美しい夕焼けと朝日を楽しめるようにしてくださいました。

かんが **考えてみよう：**月の光はどこから来ているか、知っていますか？太陽からですね。月そのものに、光はありません。聖書は、イエス様が世の光であると教えています。ヨハネ8：12。私たちが光であると、聖書は教えています。マタイ5：14、16。ちよ

うど月のように、私たちも、自分自身の光をもっていません。しかし、イエス様が心の中に住んでくださるような選びをするとき、私たちは、イエス様の光を輝かすことができるようになるのです。主の助けによって、私たちは、イエス様のようになることで、光を輝かすのです。あなたも、イエス様の光になりたいですか？もしそうなら、そのことをイエス様に伝えましょう。そうすれば、必ず助けが与えられ、明るく輝くことができるようになります。

もくようび 木曜日

第四日目が終わるまでに、私たちの世界は、美しいものであふれていました。けれども、水の流れる音、そよ風に揺れる木の葉や草の音以外に、音を立てるものはなく、とても静かな世界でした。

第五日目に、神様はふたたび言葉を発せられました。何と言われましたか？
創世記1：20～23を読んでください。

とつぜん、すばらしい音が、あちらこちらから聞こえてきました。ありとあらゆる種類の鳥たちが、美しい声で神様をた





たえています。鳥たちの色も、赤、青、黄色、紫、オレンジ色と、実にさまざまでした。

背の高い鳥もいました。小さな鳥もいました。空高く飛ぶ鳥もいれば、地面の上を走りまわる鳥もいました。さっそく、木の上に巣をつくり始める鳥もいました。鳥たちはみんな仲良しで、おどおどして怖がっている鳥は一羽もいませんでした。

神様はその日、他にどんなものをつくられましたか？水の生き物がつくられました。とつぜん、湖や川には、あらゆる形や大きさや色の生き物があふれました。大きいものもあれば、とても小さいものもいました。美しい花のように見えるものもいました。水の深いところに住むものもあれば、時には水面をジャンプして泳ぐものも



いました。

神様がつくられた生き物は、とてもすばらしくて、興味深いものばかりでした。これらの生き物については、どんなに学んでも、学び尽くして飽きることはありません。第五日目は、何曜日でしたか？木曜日ですね。

考えてみよう：少なくとも十種類の鳥と、十種類の水の生き物をあげてみてください。あなたがあげた生き物について、何か知っていることはありますか？

きんようび 金曜日

来週の学びでは、一週間かけて、もっとも興味深い、第六日目について勉強します。

考えてみよう：第一日目から第五日目まで、それぞれの日に何が起こったか、思い出すことができますか？第五日にさまざまな生き物がつくられましたが、その日まで、生き物に必要なすべてのものが、世界に備わっていましたか？

まな もっと学ぼう！

★創世記 1:1-23

★詩編 33:6-9; ヨハネ 1:1-3

★人類のあけぼの上巻 p. 17

★あがないの歴史 p. 26



ぼくが先^{さき}

パティ・リン・ガスリー

「お父さん、見て。」台所の窓の外^{そと}にかけてある鳥のエサ入れ^いを指^{ゆび}さして、ウィリアムが言いました。「エサ入れのまわりに、1、2、3、4、5、… 8羽^わのヒワ^{とり}（鳥の種類^{しゅるい}）がいるよ。」

毎朝^{まいあさ}、ウィリアムが朝食^{ちょうしょく}を食べている間^{あいだ}、ヒワたちも、外^{そと}にかかっているエサ入れ^いから、種^{たね}をついばんでいました。鳥

たちは、エサ入れ^いの両側^{りょうがわ}にあるとまり木^きにまいおりに、エサ入れ^いの小さな穴^{あな}にくちばしを突^つっ込むのでした。ところが、穴^{あな}はとまり木^きよりも下

にあるので、鳥^{とり}たちは、くちばしをけん命^{めい}に下のほうに伸ばさなくてははいけませんでした。時には、とまり木^きに逆^{さか}さにぶら下が^さりながら、種^{たね}をついばんでいるものもいました。

ウィリアムは黄色^{きいろ}が大好き^{だいす}でした。冬^{ふゆ}になると、ヒワたちは灰色^{はいいろ}の羽毛^{うもう}をまといましたが、夏^{なつ}になると、鳥^{とり}たちの羽毛^{うもう}は黄色^{きいろ}くなり、さらに黒^{くろ}と白^{しろ}のしまもようがま^ま混^まじっていました。ウィリアムは、次^{つぎ}から次^{つぎ}へとエサ入れ^いめがけて飛^とんでくるヒワたち^なを眺^ためるのが大好き^{だいす}でした。



ところがある朝^{あさ}、1羽^わのヒワだけ、ようすが少し変^{へん}でした。そのヒワは、エサ入れ^いをひとり占^じめしようとしていました。他のヒワたち^{ちか}が近づ^{ちか}づいてくると、そのヒワは、怒^{おこ}ったように羽^{はね}をバタバタさせて、彼^{かれ}らを追^おい払^{はら}おうとしました。ところが、1羽^わを追^おい払^{はら}っている間に、別のヒワ^{べつ}がとまり木^ぎにまいおりに、エサ^えを食^たべ始め^{はじ}めます。いち

どは、頭^{あたま}をくるりと回^{まわ}して、1羽^わのヒワの背^せ中^{なか}を、くちばしでつついたことがありました。

「なんというおバカ^{ばか}さんだ!」他の

ヒワ^おをみんな追^おい払^{はら}おうとけん命^{めい}になっているわがま^わまな鳥^{とり}を見て、ウィリアムは笑^{わら}いました。

お父^{とう}さんも、そのようすを見ていました。ウィリアムに向^むかって、「あの鳥^{とり}は、まるでガキ大将^{だいしやうき}気^きどりだな」と言^いいました。「エサ入れ^いをひとり占^じめするために、他の鳥^{ほか}たち^{こわ}を怖^{こわ}がらせようとしている。」

それからお父^{とう}さんは、ウィリアムにある質^{しつもん}問^{もん}をしました。「神^{かみさま}様^{さま}はいつ、最^{さいしよ}初^との鳥^{とり}をつくられたのかな?」ウィリアムは自^じ信^{しん}たっぷりに、「創^{そうぞう}造^{ぞう}の第^{だい}五^ご日^{にち}目^め」と答^{こた}えま^ました。

「その通り、よく覚えていたね」と言って、お父さんはにっこりしました。「その時、鳥たちの中に、あのような、いじわるでわがままなガキ大将がいたと思うかい？」

ウィリアムは、首を横にふりました。あのような鳥は、絶対にいなかったはずだと、彼は思いました。

「あのガキ大将は、どうしてあんなに自分勝手な行動をとっているのだろうか？」と、お父さんが尋ねました。

ウィリアムは、しばらく考えてから、「罪のためでしょう？」と言いました。お父さんは、うなずきました。

「罪がこの世に入ってきてから、すべてが変わってしまったんだ。人間も、動物も、鳥たちも、植物も、また天気さえも、ことごとく変わってしまった。でも、神様の愛だけは、変わらなかった。」話をしながらも、お父さんは、ガキ大将の鳥を見つめていました。それから、ウィリアムのほうを向いて、「お前の知っている子供たちの中にも、時々あんなばかなふるまいをする人がいるかい？」と尋ねました。「ぼくがいちばん先だ、と言って、何人かで押し合っけんかになったり、自動車のいちばんいい座席や、いちばん大きいデザートを取り合ったりすることがあるかもしれないね。」

ウィリアムがニヤッと笑うと、お父さんもにっこりしました。お父さんは、つづけて言いました。「罪がこの世に入ってから、私たちのだれもが、生まれつき自分中心であることを、覚えておく必要がある。ほ

とんどの場合、私たちのだれもが、自分が先だ、と思ってしまうようになっている。だから、自分よりもまず他の人のことを考えてあげる、無我の愛を学ぶ必要があるんだ。」

ウィリアムは、あのガキ大将の鳥を見ながら、「お父さんもお母さんも、そのような無我の愛を教えてくれるので、ぼくはうれしいよ」と言いました。彼は、心から、「ぼくは、あんな愚かでいじわるな人間にはなりたくない」と思ったのでした。



だい しょう 第4章

そうぞう かんせい すばらしい創造の完成



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「あなたのみ手はわたしを造り、
わたしを形づくりました。」

詩編 119 編 73 節

にちようび 日曜日

先週は、神様が世界をおつくりになつたときの、最初の五日間でなされたことについて学びました。さて、いよいよ第六日目です。その日は、今では何と呼ばれていますか？

金曜日までに、私たちの世界は、すでに美しいものになっていました。けれども、神様の創造のみわざ

は、まだ完成していませんでした。次に、何が起こったと思いますか？ 創世記 1:24、25 を読んでください。

ありとあらゆる種類の動物たちがつくられました。どの種類の動物も、2匹づつつくられました。

もし私たちがその場にいたら、大きな長い鼻をゆらしながら楽しそうに歩きまわる、最初の象に出会ったことでしょうか。木の葉や草や、もしかしたら、サトウキビを食べていたかもしれません。これら2頭の象は、池に行つて水を飲んでから、おたがいに水をかけ合つて遊んだかもしれませんね。喜んで、あなたを背中に乗せてくれたことでしょう。



黒と白のしまもようが美しいシマウマもいたことでしょう。

キャツキャツと声をあげながら、木から木へと飛びうつつて遊んでいる、ゆかいなサルもいたことでしょう。

長い首のキリンは、背の高い木の葉を、もぐもぐと食べていたことでしょう。





りっぱなたてがみの雄ライオンと、美しい雌ライオンは、あなたと友だちになろうと近づいてきたことでしょう。

犬と猫は、仲良くおにごっこをして遊んでいたかもしれません。

美しい2頭の馬たちは、かけっこをしながら、果てしない大草原を飛ぶように駆けていたことでしょう。

トラたちは、やわらかい草の上でねっころがっていたかもしれません。シカや羊たちは仲良く草を食べ、決してけんかになることはありません。ライオンに出会ってもこわがることはなく、かえってじゃれ合っていたかもしれません。

動物たちは、人間のように深く考えたり、計画を立てたりすることはできませんが、人間を愛し、助けることができるようにつくられました。動物たちは、人間をこわがるようにつくられていませんでした。それは、神様の心ではなかったのです。

考えてみよう: ほかに、どんな動物の名をあげることができますか? そのころの動物たちは、今の動物たちと、どのように違っていましたか? 神様がおつくりになった動物たちを、私たちはどのように扱うべ

きですか? 人間が動物を殺して食べるようになることを、神様は望んでおられたと思いますか? もちろん、そうではありませんでした。

げつようび 月曜日

さて、神様が人間をおつくりになる用意が、すっかりととのいました。創造の最後の仕上げとなる、特別な仕事です。

エデンの園と呼ばれる美しい場所に、神様は、人間のための特別な住まいをつくられました。世界で最初の住まいです。

それは、私たちがこれまで見たこともないような、すばらしいものでした。木でつくられたものでも、レンガでつくられたものでも、ブロックでつくられたものでもありませんでした。やわらかい草が、その住まいの床で、美しいつるが壁でした。

雨が降ることはなかったので、屋根は必要ありませんでした。暑すぎることも、



寒すぎることも、決してありませんでした。いつでも、ちょうどいい気候でした。夜、ふとんをかぶる必要もありませんでした。美しい香りとお色どりの花も、いたるところにありました。つるにはおいしい果物がなっていて、手を伸ばせばすぐに、とれるようになっていました。

神様がすべてを計画なさったので、どれをとっても、想像以上の美しさであったに違いありません。それは、どんな王様が住んでいた宮殿よりも、はるかに美しい住まいでした。創世記2：8～9には、神様が園におかれた、特別な2本の木の名が書かれています。どちらも、とても重要な木でした。何という名前の木でしたか？



考えてみよう：あなたは、住まいがあることをうれしく思いますか？あなたの住んでいる家は、何でできていますか？もしも、イエス様が家族の一員であられるなら、どんな家に住んでいても、幸福な家庭を過ごすことができます。あなたは、自分の家庭を幸福なものにするために、どんなことをしていますか？

かようび 火曜日

創造の第一日目から、特に神様は、あるふたりの人たちのために、この世界を準備しておられました。それぞれ

の日に、神様が言葉を発せられると、ご計画どおりのことが起こりました。それぞれの日の終わりに、神様は、おつくりになったものをご覧になって、とても喜ばれました。そして、大変よろしい、と言われたのでした。

神様が言葉を発せられると、私たちが生きるのに必要な、いろいろなものが現れました。土や水や太陽や空気は、どれも私たちを健康にたもつために協力するよう、神様が計画なさったのでした。

私たちは、眠るために、暗い時間帯が必要です。私たちは、土からとれる食べ物が必要です。新鮮な空気も、水も、日光も必要です。第四日目が終わるまでに、神様は、生き物に必要なすべてのものをつくられました。

人類最初の両親のために、すべての準備がととのっていました。彼らは、どのような姿かたちをしていましたか？創世記1：26～27を読んでみましょう。「神のかたちに」とは、どういう意味ですか？神様に似せてつくられた、ということです。ね。だれか、見かけもやることも、お父さんかお母さんにそっくりな子供を知っていますか？

神様こそが、私たちを創造なさった、天のお父さんです。私たちは、神様のすべてを理解することはできません。しかし、私たちは、見かけも行動も思いも、

かみさまにわたし
 神様に似ることができるのです。私たちが、
 せいてんし かみさま りっぼう あい
 聖天使たちのように、神様の律法を愛し、
 したが かみさま
 従うことができるのです。神様のかわいい、
 こうふく こども
 幸福な子供になれるのです。



かんが
考えてみよう: かみさま つち なに
 神様は、土から何を
 くられましたか?なぜ、すいみん みず にっこう
 睡眠や水や日光、
 しんせん くうき しぜん た もの
 新鮮な空気や自然の食べ物が、そんなに
 たいせつ
 も大切なのでしょうか?あなたは、よる
 ぶんにねむり、しんせん くうき みず
 新鮮な空気と水を取り入れ、
 にっこう かみさま わたし
 日光にあたっていますか?神様が私たちの
 ようい た もの えら
 ために用意なされた食べ物を選んでいま
 すか?それとも、とき からだ わる た もの
 時には体に悪い食べ物
 えら かみさま
 を選ぶことがありますか?神様は、どうす
 ればこうふく けんこう おし
 れば幸福で健康になれるかを教えておら
 れますが、あなたはそのことを喜んでいま
 すか?

かみさま そうぞう い もの なか
 神様が創造なされたすべての生き物の中
 で、もっともすばらしいものとなるのです。

また、この地球の人間は、これまで
 かみさま
 神様がおつくりになった、他世界のどの
 存在とも、ちが
 違うものにつくられようとしてい
 ました。私たち人間は、かみさま
 神様にとって、と
 ても特別な者なのです。どちらかといえば、
 てんし わたし
 天使たちと同じくらい特別なのです。私
 たち人間は、じぶん かんが けいかく あい
 自分で考え、計画し、愛し、
 えら
 選ぶことのできる者となるのです。私
 たち人間について、せいしょ なん い
 聖書は何と言っています
 ですか? (詩篇 8 : 4、5 ; 139 : 14)。

すいようび
水曜日

か み さま にんげん どうぶつ
神様は、人間を、ほかの動物たち
 のような存在にしようと計画して
 おられましたか?いいえ。人間は、ほか
 の動物たちとはまったく違った存在とな
 るように、けいかく にんげん
 計画されていました。人間は、

かみさま どうぶつ ち
 神様は、すべての動物たちを、地か
 らだ させられました。人間も、同じよう
 な方法でつくろうとしておられましたか?
 ほうほう
創世記 2 : 7を読んでください。人間の
 そうせいき よ
 場合、ただ言葉を語ってつくるとい
 うことはなさいませんでした。かみさま
 神様はかがまれて、つち
 土のちりをとって、さいしょ にんげん からだ
 最初の人間の体を
 ていねいにかたち
 形づくられたのです。



からだ ぶぶん かんぜん のう かんが
 体のどの部分も、完全でした。脳は考
 えをめぐらすようい
 用意が、め みる ようい
 目が見る用
 いが、みみ き ようい くち た もの あじ
 耳は聞く用意が、口は食べ物を味
 わうようい
 う用意が、はい こきゅう ようい しんぞう
 肺は呼吸する用意が、心臓
 はこどう ようい
 鼓動する用意が、そしてすべての部分
 うご だ ようい
 は動き出す用意ができました。それから



かみさま
神様は、アダムをていねいに抱きかかえて、彼のうちに息を吹き入れました。するとたちまち、彼の心臓はこどう はじ 鼓動を始めました。たちまちのうちに、すべてが完全に動き出したのでした。

かんが
考えてみよう:どの動物も、その本能にしたがって飲み食いし、それぞれの活動をします。しかし人間は、健康で幸福に生きるために必要なことを、学ばなくては いけません。神様はそのために、私たちに両親を与えてくださいました。サタンは、私たちが健康で幸福になることを望んでいますか? いいえ。しかし、お父さんとお母さんは、私たちが健康で幸福になることを望んでいます。そして神様も、そのように望んでおられるのです。

もくようび
木曜日

め
目をあけたアダムの目に、最初にうつつたのは、だれのお顔でしたか? それは、身をかがめて彼を抱きかかえておられる、神様の愛情ぶかいお顔でした。

アダムに美しい住まいをお見せになった神様は、どれほどうれしかったことでしょう。世界が彼を王様として迎える準備は、すべてととのっていました。まさにア



Little Folk Visuals

おうさま
ダムは、王様にふさわしい姿をしていました。彼は背が高く、ハンサムで、たいへん賢い人でした。彼が、どれだけ大きかったか知っていますか? 今日の大い人の、2倍の背丈がありました。

かみさま
神様はまず、アダムに何をしよう言われませんか? (創世記 2:19, 20)。いろんな種類の動物たちを見たアダムは、すぐに、その動物にふさわしい名前が浮かんできました。ところが、動物たちの名前をつけていくうちに、どの動物にも、自分にそっくりの仲間がいることに気づきました。そして、いつの間にか、自分にもそのような仲間がいるのだろうかと思いついていました。

ついに、最後の動物の名前をつけましたが、自分のような姿かたちをした生き物は見当たりません。どの動物も人なつこくて、アダムの心を楽しませてくれましたが、なんだか少しさびしくなりました。自分と同じ人間と、いつも一緒にいることができれば、どんなに素晴らしいだろうと思つたのでした。

もちろんかみさま
神様は、アダムの心の動きをよくご存知でした。そのようなアダムをご覧になって、神様は、にっこりなさったのです。実は、アダムのために、びっくりするような贈り物を考えておられたのでした。そしてその贈り物が、創造の最後の仕上げとなるのでした。その贈り

ものをつくっておられる間、神様は、アダムを深く眠らせました。アダムが眠っている間に何が起こったか、読んでみましょう。
創世記2:21、22。

アダムが目を覚ましたとき、彼はふたたび、自分と同じ人間がほかにいたら、どんなにかすばらしいだろうと考えたかもしれません。そうしたら、その人と話することができるのに。すると突然、神様が、とても美しい人を連れて、こちらに来られるのが見えました。彼と同じように、彼女も、やわらかい光の衣を着ています。彼女は背が高く、まるで女王様のように見えました。アダムはすぐに立ち上がりました。彼女は、彼よりも、ほんの少し背が低いだけでした。

次に、23節を読んでください。アダムは何と言いましたか？それは、世界で最初の結婚式でした。彼らが夫婦となったとき、神様は何と言われましたか？(24節)。

夫は妻のものであり、妻は夫のものであります。神様は、彼らが生きているかぎり、お互いのことを思い、互いに愛し合うことを望んでおられます。

アダムは彼の妻に、何という名前をつけましたか？(創世記3:20)。アダムとエバが、この世界の王様、女王様となり、最初の家族をつくるのが、神様の計画でした。

考えてみよう：私たちの世界では、動物

も人間も、最初は赤ん坊です。神様はなぜ、最初の動物と人間を、はじめから大人としてつくられたのですか？もし最初に赤ん坊がつけられたとしたら、一体だれが、おびたしい数の動物と、人間の赤ん坊の世話をすることになったのでしょうか？神様のなさることは、すべてが最善ですね。

金曜日

第六日目が終わるまでに、神様は、世界中のすべてのものをおつくりになりました。さらに、創造の仕事をする必要はありませんでした。

では、一週間は何日ありますか？7日ですね。第七日は、何と呼ばれていますか？実は、安息日と呼ばれているのです。来週は、なぜ安息日が、もっとも大切な日であるかを勉強します。

考えてみよう：神様がこの世界をつくっておられる間、自分もその場において、そのようすを見ていたと想像してください。それぞれの日に、どんな光景を見ることができたでしょうか？もっとも見ていておもしろいのは、どの日だったと思いますか？

もっと学ぼう！

★創世記 1:24-2:1;2:7

★詩編 8:4,5

★人類のあけぼの上巻 p.17-27

★あがないの歴史 p.26-29



ちい や 小さなパン屋さん

パティエ・リン・ガスリー

「今日は、ぜひともパンを焼かなくてはいけないわ。」最後のパンを切りながら、お母さんが言いました。

「お母さん、私もお手伝いしていい？」とジャネルが尋ねました。

お母さんはにっこりして、「ええ、いいわよ」と言いました。

ジャネルは目を輝かせて、「よかった!私、パン作り大好き」と言いました。パンの生地ですんなりしたものをつくらうかしら、などと考えると、なんだかわくわくしてきます。

「小麦を粉にしている間、ほかの材料を、ぜんぶミキサーに入れてしましましょう。」パンづくりに必要な道具や材料を台所のカウンターにおきながら、お母さんが言いました。

ジャネルは水差しを手にもって、それにぬるま湯を入れました。それから注意ぶかく、ぬるま湯をボウルに注ぎました。次に、お母さんといっしょに、油とはちみつと塩とイーストの量をはかりました。「どの材料も、きっちり正確にはかることが大切よ」と、お母さんが言いました。

小麦が粉になったところで、ジャネルはその粉をボウルに移しました。お母さんが機械のスイッチを入れると、彼女の指示にしたがって、ジャネルは少しずつ、生地がちょうどいい具合になるまで粉を加えていきました。

機械が生地をこねている間、お母さんはパンを焼くためのペンをカウンターの上に並べ、ジャネルは足台を用意しました。

生地ができ上がると、お母さんは、それをボウルからとりだしました。そして、少し

だけ生地をつまみとり、それをジャネルに手渡してくれました。

彼女は、嬉しそうに、「ありがとう、お母さん」と言って、その生地を受け取りました。パン作りが大好きなジャネルは、小さな手で、生地をいろんな形にすることができました。それをたたいたり、伸ばしたり、丸めたり、平たくしたりしていました。生地で遊ぶのは、とても楽しいことでした。

生地を焼く用意ができると、ジャネルは、自分がつくったいろんな形のものを、食パンの生地の上にそっとのせました。それらはまるで、プレゼントの包みの上にある、飾りのように見えました。それから彼女は、



お母さんといっしょに、生地をのせたパンを、注意ぶかくオープンに入れました。しばらくすると、おいしそうなパンの香りが、家じゅうに広がりました。

パンを焼いている間、お母さんが、「ジャネル、パンをつくるのに使った材料を、ぜんぶ思い出せるかしら？」と尋ねました。ジャネルは、一つひとつ思い出しながら答えました。

「よくできました」と言って、お母さんはいっこりしました。それからお母さんは、別の質問をしました。「粉やイーストや、そのほかの材料がなくても、パンを作るとはできるかしら？」

ジャネルは、「いいえ」と笑いながら答えました。「パンを作るには、そのための材料と道具がなくてははいけないわ。」

お母さんが、さらに尋ねます。「じゃあ、この世界に、何の材料もなしにでき上がった物ってあるかしら？」ジャネルはしばらく考えてから、首をよこにふりながら、「ないわ」と答えました。

「今度は、もっとすばらしいことについて考えてみましょう」とお母さんが言いました。「神様がこの世界をおつくりになったとき、何を使って、世界中のいろいろなものをつくられたのかしら？」

ジャネルは、聖書の最初のところに書かれてあったことを思い出して、「私たちが世界をおつくりになったとき、神様は何も使わなかったんじゃないかしら？」と、逆にお母さんに尋ねました。

おかあさんは、「その通りよ」と言って、ジャネルに向かってにっこりしました。「神様は、私たちが想像もできないほど、すばらしい、力強いお方なのよ。そして、神様の愛も、私たちの想像をはるかにこえているの。」

「そんなにも力強くて、なんでもできる神様が、私たちが愛してくださっていることを思うと、幸せな気持ちになるわ。」

「お母さんもよ。」



だい しょう 第5章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

かみさま 神様からの特別なおくりもの

あんしょうせいく 暗唱聖句

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである」。出エジプト記 20章 8 - 10 節

にちようび 日曜日

先週は、神様が、私たちの世界をつくり終えられたところまで学びました。世界を創造するにあたって、神様がどれほど綿密な計画を立てられたか、覚えて

いますか？それぞれの日が終わるころには、すべてが計画どおりに行われていて、次の日の仕事にうつる準備ができていました。

地面は、植物をやすういやすういができました。水は、魚を住まわせる用意ができました。空中は、鳥たちを飛びまわらせる用意ができました。また、すべての生き物に必要な食べ物の用意もできました。

そして最後のさいごに、神様はアダムをおつくりになり、それからエバをおつくりになりました。彼らは、人類最初の夫婦となりました。神様ご自身が彼らを結婚させて、結婚祝いとして、彼らにこの美しい世界をお与えになりました。アダムは、この世界の王様となるのでした。しかし神様は、彼らのために、もうひとつおくりものを用意しておられました。それは、何だったのでしょうか？

それに加えて、神様は、人間のために特別な美しい園をつくられました。そこに、人を住まわせようと計画なされたのでした。園の名前を知っていますか？エデンの園とっていました。

そして最後のさいごに、神様はアダムをおつくりになり、それからエバをおつくりになりました。彼らは、人類最初の夫婦となりました。

神様ご自身が彼らを結婚させて、結婚祝いとして、彼らにこの美しい世界をお与えになりました。アダムは、この世界の王様となるのでした。しかし神様は、彼らのために、もうひとつおくりものを用意しておられました。それは、何だったのでしょうか？



かんが **考えてみよう**： **かみさま** 神様が、 **ひ** それぞれの日に **なに** 何をおつくりになったか、 **おも** 思い出してみま **だ** しょう。 **まえ** ずっと前から、 **かみさま** 神様が **めんみつ** 綿密にたて **けいかく** ておられた **かんせい** 計画が完成し、 **あだむ** アダムと **えは** エバは、 **しあわ** とても幸せでした。

げつようび 月曜日

きん 曜日の夕方、 **ゆうがた** 六日目が **むいかめ** 終わります。 **お** **きんようび** 金曜日の次の日は **つぎ** 何ですか？ **なん** **あんそくにち** 安息日です。

しゅう 週ごとにめぐってくる **あんそくにち** 安息日は、 **かみさま** 神様が **むいかかん** 六日間でこの世界をおつくりになったこと **せかい** を思い出させるための、 **おも** 特別な日 **だ** となる **とくべつ** のでした。

かみさま 神様の **そうぞう** 創造のわざが **かんせい** 完成した、あの **きんようび** 金曜日の夕方について、 **ゆうがた** 聖書から **せいしょ** 読んで **よ** みましょう。 **そうせいき** 創世記 2：1～3。 **わたし** 私たちが **しごと** 仕事をしたあとは **つか** 疲れるように、 **かみさま** 神様も、 **つか** 疲れたから **やす** 休まれた **やす** のでしょうか？ **いい** 違います。 **ちが** 神様が **かみさま** 休まれたというの **かみさま** は、 **やす** 創造のわざを終 **お** えられた、 **そうぞう** または **お** められたという意味 **い** です。 **けいかく** 計画して **い** た **はたら** すべての働きが、 **かんせい** 完成したからです。

あんそくにち 安息日は、いつも、 **きんようび** 金曜日 **にちぼつ** の日没〔**たいよう** 太陽 **しず** が沈む時刻〕から始 **はじ**

まします。そしていつも、 **どようび** 土曜日 **にちぼつ** の日没で **お** 終わります。

いつでも **わたし** 私たちが **あんそくにち** 安息日 **まも** を守ることを **おぼ** 覚える **かみさま** ならば、 **わたし** 神様が **せかい** 私たちの **むいかかん** 世界をつくられたこと、 **むいかかん** しかも **むいかかん** 六日間で **むいかかん** つけられたこと **けつ** を、 **わす** 決して忘れない **はず** でした。



あんそくにち 安息日には、 **かみさま** ちょうど **そうぞう** 神様が **そうぞう** 創造の **わざ** わざ **お** を **やす** 終えて **わたし** 休まれたように、 **わたし** 私たちも、 **ほか** ほかに **しごと** している **やす** 仕事を **やす** 休むべきです。

あんそくにち 安息日の **ようい** 用意をととの **わたし** えるために、 **わたし** 私た **わたし** ちは、 **ほか** ほかに **しごと** どのような **しごと** ことを **しごと** しますか？ **あんそくにち** 安息日の **いえ** ために、 **なか** 家の中 **そと** と外を **きれ** きれいに **きれ** に **きれ** しますか？ **かあ** お母さんが **あんそくにち** 安息日の **とくべつ** 特別な **りようり** な **つく** り **てつだ** 料理を作るときに、 **てつだ** お手伝いを **しごと** しますか？ **きょうかい** 教会に **き** 着て **ふく** いく **せん** 服は、 **せん** きれいに **せん** 洗たくさ **せん** れて **おぼ** いますか？ **あんしやうせい** 暗唱 **おぼ** 聖句は **おぼ** 覚えましたか？ **けんきん** 献金の **じゆんび** 準備は **おぼ** できて **おぼ** いますか？



かんが **考えてみよう**： **せかい** 世界 **な** にあるもので、 **な** 何か **な** ア **な** ダムと **な** エバが **な** つくった **な** もの **な** がありますか？ **な** いい **な** え。 **にんげん** 人間は、 **む** 無 **む** か **な** ら **な** 有 **な** を **な** つくり **な** だす **な** 〔 **な** 何 **な** も **な** ない **な** ところ **な** に **な** 何か **な** を **な** 生 **な** み **な** 出 **な** す〕 **な** こと **な** は **な** でき **な** ません。 **な** もちろん、 **な** 生き **な** 物 **な** を **な** つくり **な** だす **な** こ **な** と **な** も **な** でき **な** ません。 **な** それ **な** が **な** できる **な** のは、 **かみさま** 神 **な** 様

だけです。安息日の備えとして、あなたが
することを、思い出してみてください。

かようび 火曜日

ふ たたび、創世記2：1～3をよ
でみましょう。神様は、アダムと
エバに向かって、次の日は安息日である
と言われました。安息日は、彼らにとって、
もっとも楽しい日となるはずでした。神様
にとっても、もっとも大切な日となるので
した。神様は、安息日の間、ずっと彼ら
とともに過ごそうとしておられました。アダ
ムとエバは、わくわくしました。これ以上
素晴らしいことがあるでしょうか？

安息日は、ほかの日にやらねばならな
いことをしない休みの日になるのだと、
神様は言われました。安息日のたびに、
私たちの神様が、六日間でこの世界をつ
くられたことを思い出すことになっていま
した。

安息日には、神様がおつくりになった、
いろいろな素晴らしいものを楽しみ、さら
に学ぶようと、神様は望んでおられます。
そしてその日は、私たちが、特別な賛美
と礼拝をささげることになっています。

神様はいつも、私たちとともにおられま
すか？もちろんですね。しかし安息日には、
私たちといっしょに、とても特別なことを
なされたいのです。それは、家族がともに
過ごす日であります。また教会の人たちと
いっしょに、特別な礼拝をささげる日でも
あります。

安息日には、ほかに、私たちのでき
る特別なことがたくさんあります。

考えてみよう：あなたは、安息日に何を
することが好きですか？休みの日だからと
いって、ゴロゴロ寝てばかりいるのは正し
いことでしょうか？

すいようび 水曜日

美しい夕焼けを見るのは、好きで
すか？おそらく、きれいな人はい
ませんね。最初の金曜日の夕方、アダム
とエバは、最初の夕焼けを見ました。

その日の夕方、太陽がゆっくり西に沈
むのを見た彼らは、さまざまな色に変わっ
ていく空に感動しました。それは、信じら
れないほど美しい光景でした。

最初の金曜日の夕方、太陽が沈んで
安息日が始まると、天使たちも他世界の
人たちも、美しい地球の誕生を祝いまし



質問がたくさんありました。何でもなんでも、ふたりは、神様のすばらしい創造のみわざに感謝しました。その後も、彼らにとって、安息日は一番のお気に入りの日となるのでした。



Little Folk Visuals

かんが
考えてみよう：アダムとエバにとって、その日をもっとも特別な日となつた理由は、何だったと思えますか？

きんようび
金曜日

安息日は、一週間でいちばん楽しい日です。私たちは、どうやって安息日をきよく守るのでしょうか？お父さんとお母さんがほかの日にやっていることで、安息日にやらないことがありますか？いくつかあげることができますか？（仕事に行く、そうじ、洗たく、料理、買い物、草刈り、修理、新聞を読む、ニュースをきく、などなど）。

子供たちはどうですか？私たちがほかの日にやることで、安息日にやらないことがありますか？（学校に行く、ゲームをして遊ぶ、世の中の本を読む、テレビを見る、ラジオをきく、などなど）。

神様は、いつでも私たちが愛しておられますか？それとおおりですね。では、いつで

も私たちといっしょにおられますか？はい、そのとおりです。けれども安息日には、もっと時間をとって神様といっしょに過ごすことを選ぶならば、もっと特別な方法で私たちといっしょにいてくださいます。その日には、私たちに、特別な祝福を与えようと望んでおられるのです。

かんが
考えてみよう：安息日を特別な日とするために、あなたは何か特別なことをしていますか？

まな
もっと学ぼう！

- ★創世記 2:1-3
- ★出エジプト記 20:8
- ★イザヤ 58:13, 14; 66:22, 23
- ★人類のあけぼの上巻 p. 22-24; 29-36



ウィリアムとホッピング・スティック

パティ・リン・ガスリー

ウィリアムは、ホッピング・スティックでジャンプして遊ぶのが大好きでした。ジャンプしながら、彼は、「1、2、3、・・・」というぐあい、声を出して回数を数えます。時には、300まで数えられることもあります。だいたい、じょうずにとべるようになったウィリアムは、ホッピング・スティックで、さらにいろいろなわざに挑戦するようになりました。それがとても楽しくて、彼はある日、いちどもやったことのないわざに挑戦することにしました。

彼は妹に、「ジャネル、あのfrisbeeをぼくの前に置いてくれないかな」と頼みました。

ジャネルは、ウィリアムの1メートルほど前に、frisbeeをおきました。ホッピング・スティックにのったウィリアムは、そのfrisbeeを見すえました。frisbeeのまん中に飛び乗ることができるでしょうか？いちど、練習のためにジャンプしてから、いよいよfrisbeeのまん中をめざしてとびはねました。

ところが、思ったようにはうまくいきませんでした。frisbeeは、床の上をすするとすべってしまい、ウィリアムは後ろ向きにころんでしまいました。かたいセメン

トの床に頭を強くぶつけた彼は、ちょっとだけ気を失ってしまいました。目を覚ましたとき、「お母さん、早く来てー」というジャネルの叫び声が聞こえました。

立ちあがると、ウィリアムのひざはガタガタふるえていました。頭は痛むし、ふらふらしました。手で頭の後ろをさわってみると、何かぬれたあたたかいものがあります。血が出ていたのです。

お母さんがかけつけて見ると、ウィリアムの頭には、深い傷ができていました。すぐに氷ぶくろを傷口に当てて、急いで病院へ向かいました。

お医者さんに診てもらうころには、血は止まっていた。先生がにこにこしながら、「血はもう止まっているから、傷口を縫う必要はないですよ」と言われたので、ウィリアムはほっとしました。でも念のため、ほかにも傷がないか、注意ぶかく診察していただきました。

診察を終えた先生は、「もう心配ないですよ」とおっしゃってから、「でももう、ホッピング・スティックで危ないことはやらないでね」と最後に言われました。



いえ じどうしゃ なか
家にもどる自動車の中で、ウィリアムは、
ころんだ後に傷口をさわったときの、な
まあたかき血の感触を思い出しました。
きずぐち ま ぼうたい
傷口に巻いてある包帯にそっとふれなが
ら、「血は、どうして止まったの?」と、お
かあ たず
母さんに尋ねました。

かあ ち くうき かた
お母さんは、「血は、空気にふれたら固
まるように、神様がつくられたからよ。じ
きに、血のかたまりはかさぶたになって、
きずぐち まも せつめい
傷口を守ってくれるの」と説明してくださ
いました。「血が固まらないと、けがをし
たら、血が止まらなくて死んでしまうのよ。」

かあ
さらに、お母さんは、「それだけではな
いわ。もし神様が、私たちの脳にヘルメッ
トをかぶらせてくださらなかったら、さっ
きのウィリアムのように、はでにころぶと、
どうなってしまおうでしょうね?」と質問をな
さいました。

ゆか お たまご
おそらく、床に落ちた卵のようになって
しまっだろうと、ウィリアムは思いました。
かんが
そう考えると、ぞっとしてしまいました。

いえ つ
家に着いてから、ウィリアムは、ホッピ
ング・スティックをかたづけました。当分
あいだ の あそ
の間は、それに乗って遊ぶことはないだろ
うと思いました。先生の言ったとおり、お
おもしろいからといって、あまりあぶ
をやるのは、よくないなと考えました。

ひ ゆうらいはい とう
その日の夕礼拝で、お父さんは、ウィリ
アムが守られたことを、神様に感謝しまし
た。よる まえ
夜ねる前には、ウィリアムも、すばら
しい体につくってくださったことを、神様
かんしや
に感謝しました。

だいしょう 第6章

かな いちにち とても悲しい一日



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「^{かみ}神はそのひとり^ご子^{たま}を賜^{たま}わったほどに、この^よ世^{あい}を愛して
^{くだ}下さった。それは御^み子^こを信^{しん}じる者^{もの}がひとりも滅^{ほろ}びないで、
^{えいえん}永遠^{いのち}の命^えを得^えるためである」。ヨハネ3章16節

にちようび 日曜日

^か神^{さま}様は、アダムとエバに^{うつく}美しい園^{その}の家^{いえ}をお見^みせになった時^{とき}、とても特別な^{とくべつ}2本の木^{ほん}をお示^{しめ}しになりました。ひとつは、命^{いのち}の木^きと呼ば^よばれました。彼^{かれ}らがそれを食^たべているかぎり、永遠^{えいえん}に生きる^いるのでした。もうひとつは、善^{ぜん}悪^{あく}を知る木^しでした。神^{かみ}様はその木^きの実^みを食^たべてはならないと彼^{かれ}らに注意^{ちゆうい}しました。もし彼^{かれ}らが食^たべてしまったら、彼^{かれ}らは神^{かみ}様に従^{したが}わない道^{みち}を選^{えら}んだことになり、彼^{かれ}らを傷^きつけたがっていた敵^{てき}に従^{したが}う道^{みち}を選^{えら}ぶことになる^しるのでした。そうして彼^{かれ}らは死^しぬことになる^しるのでした。

それから神^{かみ}様は、かつて天^{てん}で起^{おこ}った悲^{かな}しい物語^{ものがたり}を彼^{かれ}らにお語^{かた}りになりました。神^{かみ}様は、ルシファーのことや、どうして彼^{かれ}と彼のうそ^{しん}を信^{しん}じることを選^{えら}んだ天使^{てんし}たちが天^{てん}を去^さらなければならなかったかをお語^{かた}りになりました。ルシファーの名^な前は変^かえられ、今^{いま}や彼^{かれ}はサタンと呼ば^よばれるようになった^よのでした。



サタンは、^{わたし}私たちの世界^{せかい}をお造^{つく}りになつた神^{かみ}様^{さま}を憎^{にく}んでいた^{せかい}ので、その世界^{せかい}をだいなしにしてやろうと思^{おも}っていました。彼^{かれ}は、もしアダムとエバが神^{かみ}様に従^{したが}わないように誘^{ゆう}惑^{わく}することができたら、アダム^かの代^かわり^{じぶん}に自分^{わたし}が私たちの美しい世界^{うつく}の王^{おう}になれる^{かんが}と考え^{かんが}たのでした。

さて神^{かみ}様は、サタンが彼^{かれ}らを誘^{ゆう}惑^{わく}でき^{かみ}る場所^{ばしょ}は1つしかない^{かた}ことをお語^{かた}りになつていました。それは一体^{いったい}どこだと思^{おも}いますか？それは善^{ぜん}悪^{あく}を知る木^しの^きところ^{ところ}です。

かんが
考えてみよう：サタンがアダムとエバのあとをどこでもついて来ることを許^{ゆる}さなかつた神^{かみ}様はなんと優^{やさ}しいお方^{かた}でしょう。善^{ぜん}悪^{あく}

を知る木に近づくどんな理由が彼らにあった
たでしょうか？彼らは、他の木から彼らの
必要などんな果物でも取ることができたの
でした。もし神様に従うことを選ばなければ、
永遠に安全で幸せでいることができたので
した。

げつようび 月曜日

神様がサタンについて知らせてくだ
さったので、アダムとエバは、な
ぜ善悪を知る木から離れていることがそ
んなに大切なのか分かりました。そして
天使たちは、彼らがお互いに離れないで
いるべきだと教えました。彼らは神様に
従いたかったとあなたは思いますか？もち
ろん彼らは従いたかったのです。そしてそ
うすることは、むずかしくなかったのでは
ないでしょうか？

彼らは、幸せになるためのものをすべ
てもっていました。たりないものはひとつ
もありませんでした。彼らは、自分たちの
園の家が大好きでした。彼らは、神様が
造られたすばらしいものについてたくさん
学んでいました。

毎日夕方になると、神様が彼らをたず
ねてこられたことは、何よりもすばらしい
ことでした。彼らは、その日の出来事を
神様にぜんぶ話したくて、その時間を、も
う待ちきれないほど、とても楽しみにして
いました。ああ、神様と一緒にすごすのは、
何とすばらしい時間だったことでしょう！

一日一日が特別な毎日でしたが、

一週間の中でもっとも特別な日がありまし
た。どの日だったと思いますか？もちろん、
それは安息日でした。安息日には、神様
と一日中いっしょにすごすことができたの
です。

考えてみよう：神様の律法〔規則〕の
1つは、私たちの親に従うことです。な
ぜその律法がそんなに大切だと思います
か？私たちのお父さんやお母さんは、私
たちよりもいろんなことをよく知っていま
すか？彼らは私たちを愛していますか？
不服従〔従わないこと〕を私たちに誘惑し
てくるのは誰ですか？サタンは私たちを愛
していますか？私たちは、いつも自分の親
に従うことを選ぶ必要があるのではないで
しょうか？

かようび 火曜日

アダムとエバが園の家を楽しんでい
たころ、サタンは何をしていたと
思いますか？彼は、彼らの幸せを台なし
にする方法を計画して、待ちかまえていた
のです。サタンがどれくらい待たなければ
ならなかったかは、私たちにはわかりませ
ん。ところがある日、エバは園で忙しくし
ていたので、アダムからはぐれてしまいま
した。彼女があたりを見回すと、アダムが
自分の近くにはいないことに気がつきまし
た。彼女はすぐにどうするべきでしたか？
アダムがいるところへ行くべきでした。し
かし彼女はしばらく、ぐずぐずしてしまし

た。

するとエバは、神様が離れていなさいと注意しておられた木の、すぐ近くに自分

がいることに気がつきました。このようなとき、彼女はどうすべきだったのでしょうか？

彼女は、急いでそこから離れるべきだったのに、そこに立ちどまって、美しい果物をながめていました。それは本当においしそうに見えました。そんな果物がどうして人を殺すことができるのだろうと、彼女はふしぎに思いました。

かんが
考えてみよう：エバ
が最初に選んだまちがいは何だったのでしょうか？私たちが従わないように誘惑されたときは、かえってすぐに従うべきではないのでしょうか？どうしてそうすべきですか？あなたならどうしますか？



すいようび 水曜日

神様はアダムとエバに、サタンが彼らを誘惑できる場所は世界中でたった1つしかないことをお語りになっていました。その場所はどこでしたか？そして、エバはどこにいましたか？神様が近くに行ってもいけないとお命じになった木を、エバがながめて立っていたとき、誰が彼女に語りかけてきたと思いますか？そうです。それはサタンだったのです。サタンは一体どんな格好をしていたと思いますか？創世記 3:1 を読んでみましょう。

私たちは普通、へびのことをこわいと感じます。でも神様がへびをお造りになったときには、へびは神様が創造なさったすべての動物の中で一番賢くて美しかったのです。へびには羽もありました。動物は話すことができないことをエバは知っていました。でも、この動物は話しているではありませんか。へびは何を質問してきたのでしょうか？

(1 節)。エバが答えた時、彼女は何と言いましたか？ (2、3 節)。

これはサタンのチャンスでした。彼は次に何と言いましたか？ (4 節)。これは、神様が彼らにうそをついたと言っているこ

とおなじことですね？神様は、食べたらずぬでしようとおっしゃいました。サタンは、食べても死なないでしようと言いました。エバは、どっちを信じようとしていたでしょう？彼女は、どちらかを選ばなくてはなりません。彼女は、話すへびを信じるのでしょうか？それとも神様がおっしゃったことを信じるのでしょうか？彼女は選ばなくてはならなかったのです。

その次にサタンは何と言ったでしょうか？(5節)。それは、神様は彼らを本当は愛しておられない、それから、神様はわがままであると言っていることと同じことでした。これも大きなうそですね。

かんが
考えてみよう: エバは
いくつの間違った選
びを
してしま
いましたか？その
間違った選
びがど
んなもの
だったか
を言っ
てくださ
い。サタン
は今日、ど
のよ
うに私
たちを誘
惑してき
ますか？サ
タンは、ど
んなもの
をながめ
なさい、聞
きな
さい、ある
いは食
べなさい
と私
たちを誘
惑してき
ます
か？

もくようび 木曜日

ぜん
善
悪を知る木にいたへびは、エバに語りかけながら、その木の実を食べていました。「どれだけすばらしい

か見てください」と、へびは彼女に言いました。「私は、以前は話すことができませんでした。でもこの実を食べたので、今は話せるようになりました。どうぞ、あなたもいくつか食べてみてください。おいしいですよ」

それは、まったく安全のような気がしました。その実はへびを傷つけたわけでもないし、むしろ今は、実際に話すことができるようになっていたようでした。エバはその実を取って、一口食べてみよう

と決心しました。それは本当においしいものでした。彼女は、アダムにもこの実を分け与え、今起こった出来事をぜんぶ彼に教えなければならぬと思

いました。急いで彼女は、その実をいくつか取って、彼をさがしに走って行きました。アダムは、エバの話

を聞いたとき、何が起こったのかを知りました。彼は悲しみと恐ろしさを感じました。サタンがへびを通してエバに語りかけたのだと分かりました。そして、彼女がその実を食べた後どれだけすばらしい気持ちになったかをいくら説明しても、彼女は死ななければならないことが、彼には分かっていた。美しいエバがいなくなれば、彼はどうやって幸せになれるでしょうか？しばらくまよっていましたが、そのあとすぐ、彼は決心して、実を



ひとくちた
一口食べました。

しばらくの間、彼らはうきうきした気分になりました。ところがそのあとで、自分たちの着ていた柔らかな光の服が消えていることに気がつきました。つまり、彼らは裸になってしまったのです。

それから夕方になり、神様が訪ねて来てくださる時間になろうとしていることに、彼らは気づきました。それまでは、いつも神様に会いたくてその時間が待ちどおしかったのですが、その日は大あわてで、自分たちをおおうための大きな葉をさがしていました。やがて彼らは、神様の足音を聞いたので、木の間に隠れました。それから「アダムよ、あなたはどこにいるのか？」と呼びかける、神様のやさしい声を聞きました。

かんが
考えてみよう: あなたは、何か悪いことをした後で、逃げて隠れたことがありますか？ どうして隠れたのですか？ あなたのお父さんお母さんはあなたをいつも見つけますか？ その次にどうなりますか？ 彼らはそれでもなお、あなたを愛していますか？

きんようび 金曜日

アダムとエバは、彼らの服となった葉を着て、ゆっくりと出てきました。彼らは、裸であることをはずかしく思ったので隠れていたと、神様に話しました。

神様は悲しそうに、「食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べた



のか」とききました。もしかすると、彼らはすでに起こった出来事について責め合っていたかもしれません。彼らがどのように答えたかを読んでみましょう。
(創世記 3:12, 13)。

アダムはエバのせいにし、エバはへびのせいになりました。サタンは、彼らが神様に従わないように導き、かわりに、彼に従うように導きました。ですから今や、サタンが天国で行ったひどいことを神様と神様の律法のせいにしたように、アダムとエバも自分の失敗をひとのせいにしていたのです。

悲しいことに、神様はアダムとエバに、これからどうなるかを告げなければなりませんでした。彼らは、美しい園の家を出なければなりませんでした。すべてが変わってしまうのです。植物や動物たちでさえも変わるのです。

あらゆる生き物はさいごには死んでしまうのです。そして、アダムとエバも死ぬことになるのです。しかし神様がサタ

ンに許さなかつたことが一つありました。
神様は、サタンがアダムとエバから選ぶ
自由をうばうことを許さなかつたのです。

かんが
考えてみよう：あなたが何か悪いことを
してしまったとき、それを誰かのせいにし
ようとしたことがありますか？アダムとエバ
が愛する造り主に従わないことを選んだと
きから、子供も大人もみな、自分の罪を
ひとのせいにしてきました。私たちは生ま
れつき、天国でのサタンと同じことをして
しまうのですね。しかし誰も、私たちに悪
いことをむりやりさせることはできないので
す。私たちはいつでも善と悪〔正しいこと
と悪いこと〕を選ぶことができます。

まな もっと学ぼう！

- ★創世記 2:8-17;3章
- ★人類のあけぼの上巻 p. 37-52
- ★あがないの歴史 p. 35-52



まいご 迷子のひよこ

パティ・リン・ガスリー

ローリーおばさんのおん鳥^{どり}が「コケコッコ」と鳴^ないたころ、その色あせた金色^{きんいろ}の羽^{はね}が朝日^{あさひ}の中^{なか}できらきら輝^{かがや}いていました。おばさんの家^{いえ}の近く^{ちか}にある茂^{しげ}みのそば^すの巣^{からだ}で体^うをうずめているお母^{かあ}さん鳥^{どり}は、生^うまれて一週間^{いっしゅうかん}しかたっていない8羽^わのひよこたちに、やさしくコッコと呼^よびかけました。ひよこたちのふわふわしたやわらかいコートは、子猫^{こねこ}の毛皮^{けがわ}のようでした。淡^{あわ}い黄色^{きいろ}のひよこがいれば、茶色^{ちやいろ}のしましまと斑点^{はんてん}のついたソフトクリーム色^{いろ}のひよこもいました。

ひよこたちは、走るのがとても速^{はや}いので捕^{つか}まえるのは大変^{たいへん}です。その上^{うえ}お母^{かあ}さん鳥^{どり}は、自分^{じぶん}のかわいひよこを捕^{つか}まえようとする人を誰^{ひと}でもつつきます。でも、もし運^{うん}よく捕^{つか}まえる人がいたら、ひよこは満足^{まんぞく}そうにその人^{ひと}の手^ての中^{なか}にうずくまります。

ひよこたちが生^うまれた年^{とし}の、ある晴^はれた夏^{なつ}の日^ひのことでした。ローリーおばさんは、裏庭^{うらにわ}のほう^{さわ}がひどく騒^{さわ}がしいのに気づ^ききました。彼女^{かのじよ}は、何^{なに}が起^おこっているかを見^みに急^{いそ}いで外^{そと}に行^いきました。

ニッコという彼女^{かのじよ}の年^{とし}老^おいたシェパード犬^{けん}が、お母^{かあ}さん鳥^{どり}の首^{くび}を捕^{つか}まえていました。そしておびえたひよこたちが、あちこ



ちに、ちりぢりばらばらになっていました。

ローリーおばさんは急^{いそ}いで、ニッコの頭^{あたま}をつかみました。ニッコがお母^{かあ}さん鳥^{どり}を離^{はな}すまでニッコの口^{くち}をこじ開^あけました。

お母^{かあ}さん鳥^{どり}にけがはありませんでしたが、ひよこたちは一体^{いったい}どこにいったのでしょうか？ローリーおばさんはお母^{かあ}さん鳥^{どり}を安全^{あんぜん}なところに置^おいて、おびえたひよこたちをあちこちさがし始め^{はじ}めました。1羽^わずつさがし出し、ようやく7羽^わ見^みつけました。ところが、1羽^わだけ見^みつかりません。その1羽^わはどこにいるのでしょうか？ローリーおばさんは、注意^{ちゅういぶ}深くけんめいにさがしましたが、見^みつけることができませんでした。

その1羽^わは死^しんでしまったのでしょうか？タカかへビに捕^{つか}まってしまったのでしょうか？ローリーおばさんには分^わかりませんでした。

ついに彼女^{かのじよ}は、さがすのをあきらめなければなりませんでした。しかし迷子^{まいご}のひよこのことを忘^{わす}れることができませんでした。

次の日^{つぎ ひ}も、ローリーおばさんは迷子^{まいご}のひよこのことを考^{かんが}えていました。彼女は裏^{かのじよ}の部屋^{へや}でひざまずいてお祈^{いの}りました。「お

ねが 願いです。愛する神様、あのひよこを見
つけられるように私をお助けください。あ
なたは小さなすずめでさえも気に留めら
れます。ですからあなたは、あのひよこ
がどこにいるのかをご存じであると、私は
確信しています。あなたは、あのひよこを
見つけられるように私を助けることがおで
きになることを、私は知っています」。

ローリーおばさんが祈っていると、「ピ
ヨピヨ」という声が聞こえました。これは
あのひよこなののでしょうか？おばさんはお
祈りを終えました。彼女は外へ出て行っ
てもう一度家の裏をくまなくさがしました。
「ピヨピヨ」。また同じ声が聞こえました。
でもその声はどこから聞こえてくるのでしょ
う？

その時、大きな植物の葉をかき分け
ると、地面に穴があることに気がつきました。

ふたたび、「ピヨピヨ」という声が聞
えてきました。その穴をのぞきこんで見
ると、何か黄色いものが見えました。それ
は、あのいなくなっていたひよこだったの
です。

ローリーおばさんは感激しました。彼女
はその穴に手を伸ばして、迷子のひよこ
を優しく取り出しました。24時間以上も
の間、そのひよこは水も食べ物も無しで
過ごしたのです。それは長い時間です
た。その小さなひよこは彼女の温かな手
に心地よさそうにうずくまりましたが、いく
ぶんやせたように見えました。しかし、そ
のひよこはきっと生きのびるだろうと思
いました。おばさんがそのひよこをお母さん



鳥に返そうとすると、彼女の手があまりに
も心地よくて、そこから出たがりません
でした。

家に戻ったローリーおばさんは、天の
神様の小さな動物へのやさしい守りに
感謝するために、再びひざまずきました。
さあ、私たちも、神様のお守りに感謝しま
しょう。

だい しょう 第7章

きょうだい えら みち ふたりの兄弟の選んだ道



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「**信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけに
えを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。**」

ヘブル人への手紙 11章4節

にちようび 日曜日

アダムとエバがご自分の言いつけに
そむいたので、神様はとても悲し
まれました。アダムとエバも悲しみ
ました。さらに、数えきれないほどの天使たち、ま
た他世界の人も悲しみ
ました。

サタンと、彼に従うこと
を選んだ天使たちは、悲
しんでしょうか? いいえ。
これで、神様がアダムと
エバのためにつくられた
美しい世界は、自分たち
のものになるだろうと、彼
らは期待しました。

アダムとエバが命の木
の実を食べて、これから
も罪人としてずっと生き続
けることを、サタンは望みました。もしそ
うなったら、彼も悪天使らも、アダムとエ
バといっしょになって、命の木の実にあり

つけるだろうと考えたのでした。

しかし、そううまくはいきませんでした。
アダムとエバは、美しい住まいであった
エデンの園を、出て行かなくてはなりません
でした。だれも命の木の实を食べるこ
とがないように、炎の剣をもったとても強
そうな天使が、エデンの園と命の木に行
くための門に立っ
て、番をすること
になりました。

サタンに従うこ
とを選んだ人たちは
は、決して幸福に
なれないことを、
神様はごぞんじで
した。すべてのも
のに命を与えるこ
とのできる、ただ
ひとりのお方にそ
むくことを選んだ
彼らを生きながら

えさせるのは、彼らのためにならないので
した。



かんが **考えてみよう:** **かみさま** 神様にそむいてしまい、
かれ 彼らがいつまでも **こうふく** 幸福に生きるようになる
ための申し分のない **けいかく** 計画を台なしにして
かみさま **じぶん** **こども**
もなお、神様はご自分の子供
たちを愛しておられたと思いま
すか? もちろん、愛しておられま
した。明日は、彼らがなおも神様
を愛し、信頼して従うことを選んで、サタ
ンから安全に守られるようになる道がどう
やって開かれたかを学びます。



げつようび 月曜日

サタンに従うことを選ぶとどうなる
のかを、彼らが少しでも味わうこ
とを、神様は望まれたと思いますか?
いいえ、決して望んではおられませんで
した。

しかし、そうなってしまってから、彼らは、
サタンがうそつきで残酷な者であることを
知ったのでした。すべてが変わってしまう
ことを彼らは知りましたが、もう遅すぎま
した。

美しい光の衣は消え去りました。代わ
りに、葉をつづり合わせたものを体に巻
きましたが、それはそまつで、恥ずかし
いかわいかったです。これまで、寒いとい
うことはいちどもありませんでしたが、まわ
りの空気もすでに違ってきていて、なん
だか肌寒く感じられました。神様は、彼ら
のために何をなさいましたか? **創世記 3:
21**。

これから、彼らはどうなってしまうの

かを、神様は悲しそうに話されました。
創世記 3: 14 ~ 19、また **23**、**24** 節を
読んでください。

かみさま **む** **はな**
神様がへびに向かって話
されたとき、本当はだれに
向かって話しておられたのですか? サ
タンに向かって話しておられたのでした。
へびは、サタンのことを人々に思い出させ
る姿に変えられました。かつての美しさは、
なくなっていました。羽もなくなり、人か
らはきらわれ、こわがられる地をほう生き
物となりました。

かみさま **ことば**
神様の言葉を、サタンはひとことももら
さず聞いていたはずですが、**15** 節の言葉
を聞いたとき、サタンも、アダムとエバ
も、それがとても大切な意味をもっている
と分かりました。神様は、何らかの方法
で、この世界の人間を助ける計画をたて
ておられることを、彼らは知ったのでした。
「神様は、何をしようとしておられるのだ
ろう?」と彼らは思いました。

あした **さいしょ** **てんし** **にんげん**
明日は、最初の天使や人間がつくられ
るずっと前に、神様がたてられたすばらし
い計画について学びます。

かんが **考えてみよう:** **ころ** へびを殺すときは、どうし
ますか? **あたま** **き** 頭を切りおとしますか、それとも、
き **そうせいき** **3: 15**
しっぽを切りおとしますか? **かみさま**
において、神様は、たとえサタンがイエス
さま **きず** **お** **さいご**
様に傷を負わせても、最後にやっつけら
れて死ぬのはサタンであると約束なさった
のでした。

かようび 火曜日

人間が罪を犯した後も、サタンではなく、神様に従うことを選べるようになるためには、どのようなことがなされなければならないかを、神様はアダムとエバに理解してほしいと望まれました。そこでアダムに、子羊を連れてくるように言われたのでした。きっとアダムは、いちばんお気に入りの子羊を連れてきたことでしょう。

それから神様は、祭壇のつくり方を、アダムに示されました。いったい何が起ころのだらうと、アダムは思ったはずですよ。

次に神様は、連れてきたかわいい子羊を殺すよう、アダムに言われました。

殺す？アダムはこれまで、生き物が死ぬ



のを見たことがありませんでした。葉っぱが枯れて落ちるのさえ、見たことがありませんでした。きっとアダムとエバは、神様の言いつけに従いながら、泣いていたことでしょう。

彼らは、死んだ子羊を祭壇の上のせました。すると突然、祭壇に火がついて、子羊を焼きつくしました。

神様はやさしく、彼らは、祭壇で焼かれた子羊のように、死んで、永遠に滅びる者となったことを告げられました。ところが、いつの日か、ある特別なお方が生まれてきて、彼らの身代わりとなって死ぬことが、彼らに告げられたのです。

もし彼らが神様の約束を信じるなら、もし神様を愛し、信頼することを選ぶなら、神様は、彼らが律法を守る手助けをしてくださるのでした。彼らはいつか死ななければなりません、いつの日か、ふたたびよみがえらせていただけるのでした。よみがえらせられるその時には、永遠にサタンから守られて、いつまでも神様とともに過ごすのでした。

アダムとエバは、どれほどありがたいと思っただことでしょう！ 今や彼らは、**創世記 3:15**で言われたことを理解しました。また、神様が言われることは、いつでも本当であることも分かりました。神様の助けを借りて、彼らは従う決心をしました。

毎日、朝と夕方に、子羊をいけにえ〔供えものとして神にささげられる生き物〕としてささげなさいと、神様は言われました。いけにえは、神様の約束を彼らに

それでも、カインはサタンの言うことを聞くことにしたのです。



のみ子であられるイエス様が、いつの日か、人としてこの世界に来られ、人間の身代わりとして死なれることになりました。

かんが **考えてみよう:** **なに** **わる** **お** **何か悪いことが起こった**
ときに、だれかが神様のせいにするのを、
聞いたことがありますか? いい人たちでも
病気になるたり、事故にあったりすることは
ありますか? 悪いことを起こさせるのは
神様ですか、それともサタンですか? サタンは私たちの敵であることを、決して忘れないでください。けれども、もし私たちが、何が起ころうとも、神様を愛し、信頼して従うことを選ぶなら、最後に神様は、ふたたび私たちに、幸福な住まいを与えてくださることでしょう。

アベルは、子羊を連れてきました。ところが、子羊をささげることがそれほど大切だと思わなかったカインは、自分の畑でとれた作物を、祭壇にもってきたのです。

天から降ってきた火は、アベルのささげ物だけを焼きつくしました。

神様が自分のささげ物を受け入れなかったのは、まるでアベルのせいであったかのように、カインは弟をにらみつけました。ささげ物が受け入れられなかったことに腹を立てた彼は、しかめっつらをして、どこかへ行ってしまいました。

もくようび 木曜日

カインとアベルも大きくなり、自分でいけにえをささげる年になりました。教えられたように祭壇をつくり、それから犠牲のささげ物をもってきました。

いけにえとして、何をささげることになっていましたか? そう、生まれて間もない、健康な子羊をささげることになっていました。

人は神様にそむいたために、だれもが死ななければならなくなったことを、いけにえはつねに思い出させることになっていました。しかし、私たちがこよなく愛しておられる神様は、人間をサタンから救う計画をたてられたのでした。神



カインが間違った道を選んだので、神様は悲しくなりました。彼のところに来て、彼とお話しなさいました。創世記 4: 3~7 を読んでください。

神様は、カインとアベルを、同じくらい愛しておられました。もしもカインが従うことを選びさえすれば、アベルを祝福なさったように、カインも祝福なさったことでしょう。

もちろんサタンは、カインが自分の罪を悔いる〔悪かったと思う〕のではなく、自分自身をかわいそうに思うようになることを望みました。

カインは、どのような選びをしましたか?



かんが
考えてみよう：わたしのだれもが、いちにち
に何度も、サタンの言うことを聞くか、そ
れとも神様の言うことを聞くか選んでいま
す。たとえ気が向かないときでも、神様は、
従うことができるように、私たちを助けて
くださいます。そして、従ったなら、必ず
幸福になれるのです。

きんようび 金曜日

きっとカインは、神様から言われた
ことについて、よく考えてみたこ
とでしょう。けれども、自分が悪かったこ
とを認める代わりに、これまでの自分の
考えを優先させてしまったのです。やは
り、神様は不公平だと思いました。自分
に問題があるのは、神様のせいだと思い
ました。

それはまるで、天国で神様に逆らったと

きの、サタンのようではないでしょうか？
サタンは何よりも、神様についてのうそを、
私たちに信じ込ませることを好みます。

そうせいき
創世記4：8を読んで、カインがどのよ
うな道を選んだかを見てみましょう。

ああ、何という、悲しむべきことでしょう。
アダムとエバがそのことを知ったとき、ど
のように感じたか想像できますか？植物が
枯れ、動物が死ぬのを見るのは、とても
つらいことでした。ところが今回は、自分
たちの息子が殺されてしまったのです。こ
れもまた、自分たちが神様にそむき、禁
じられた木の実を食べたために起こったこ
とでした。

神様も、ひじょうに悲しまれました。そ
れから、もういちど、カインと話をなさい
ました。**9、10節**を読んでください。カ
インの態度は、とても悪かったですね。
彼は、自分が悪かったことを認めない
決心をしていました。しかし神様は、彼
がしたことを、すべてごぞんじでした。次
に神様は、カインに何と言われましたか。
(11、12節)。

カインはこわくなりましたが、それでも
悪かったとは思っていませんでした。代
わりに、自分の身に起こることについて、
文句を言いました。しかし神様は、彼が
殺されないように守ってあげると約束なさ
いました。最後に、カインはどうしました
か？(16節)。

かんが
考えてみよう：カインは、幸福だったと

おも かみさま わたし
思いますか？神様にそむくとき、私たちは
こうふく
幸福になれますか？いいえ。でも、サタン
よろこ かみさま わたし
は喜びます。神様にそむけば、私たちは
ふこう かみさま かな かれ
不幸になり、神様が悲しまれることを、彼
し
は知っているからです。あなたは、だれに
したが えら わたし ねが
従うことを選んでいきますか？私たちが願
いすれば、神様は、いつでも正しいことを
えら てだす
選ぶ手助けをしてくださいます。

もっと^{まな}学ぼう！

★^{そうせいき}創世記 4:1-16

★^{じんるい}人類のあけぼの^{じょうかん}上巻 p. 53-74

★あがないの^{れきし}歴史 p. 53-70



もうふ リンの毛布

パティ・リン・ガスリー

ルスお婆さんは、子供のころ、
今住んでいるところから遠く離れた、
いなかで育ちました。そのいなかの
村では、ほとんどの人たちが、とても貧しい暮らしをしています。食べ物も、十分にありません。着るものも足りません。きれいな飲み水も、十分ではありません。

ルスお婆さんは、家族に会うために、その故郷の村をたずねる計画を立てていました。彼女は、村の貧しい人たちのために、何かを持っていきたいと思いました。でも、何を持っていったらよいでしょうか？

彼女は、村のお母さんたちが、赤ちゃんをくるんで寝かせるための、やわらかくて暖かい毛布がなくて困っていたのを思い出しました。でも、ルスお婆さんのところには、二、三枚の毛布しかありませんでした。これ以上、新しい毛布を買うお金もありません。もしかしたら、だれかが助けてくれるかもしれない、と彼女は考えました。そこで、友だちのリンをたずねました。

友だちのリンに会うと、「赤ちゃん用の毛布は、あまっていないかしら？来月、さがえりをするとき、毛布を何枚か持っ

ていって、村の人たちにあげたいと思っているの」と言いました。

リンは、しばらく考えて、うなずきながら、「ええ、あるわよ」と答えました。「何枚かしまつてある物があるはずよ。探しておくわ。」

ルスお婆さんが去った後、リンは忙しかったので、その日、毛布を探すのを忘れてしまいました。

数週間が過ぎて、ルスお婆さんから電話がかかってきました。「リン、今晚いよいよ飛行機で旅立つことになっているの。空港に行く途中、毛布をとりにもそちらへ寄ってもいいかしら？」

リンは、あわてて毛布を探し始めました。確かに、どこかにしまっておいたはずですが、ところが、毛布は見つかりませんでした。その時、ほとんどの毛布は、だいぶ前にあげてしまったことを思い出しました。残しておいた数枚は、とても特別なものでした。彼女は、特別な毛布の一枚を手にとって、それをなでました。彼女のことを思ってくれた親切な人たちが、わざわざ子供たちのためにつくってくれた、やわらかくて、かわいらしい毛布でした。い



つか自分に孫ができたら使おうと思って、
とっておいたのです。

しばらくの間、リンは、どうしてよいか
分かりませんでした。それから彼女は、
ほかの人に親切にするのは、イエス様
に親切にするのと同じことであるという、
聖書の言葉を思い出しました。イエス様
がお生まれになったとき、もし自分がその
場にいたら、喜んで自分の毛布をさしあ
げたことでしょう。

ルースおばさんが、リンの家の玄関を
たたきました。リンはにこにこしながら、
彼女を迎え入れました。「毛布はここに
あるわよ」と言って、ていねいに包まれ
た数枚の毛布を、ルースおばさんにてわ
たしました。「私にとって、とても特別な
毛布だけど、新しい主が見つかって、そ
こで喜ばれたらうれしいわ。」

毛布を腕にかかえながら、ルースおば
さんはにこにこして言いました。「まあ、ど
うもありがとう。私の故郷の村にいるお母
さんたちが、きっと喜んでくれるわ。」リ
ンは、大切にしていたこれらの毛布を手
にすることは、もう二度とないだろうと思
いましたが、心は喜びで満たされていま
した。貧しい家の赤ちゃんのために毛布
をあげるのは、イエス様にさしあげるのと
同じことなのです。イエス様は、私たちが
愛しておられるので、天のすばらしい住
いを捨てて、この世界で、貧しい無力な
赤ん坊となられたのです。彼女の親切は、
きっとイエス様を喜ばせたことでしょう。

だい しょう 第 8 章

はこぶねけんせつ ノアの箱舟建設



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「^{しんこう}信仰によって、ノアは・・・^{かそく}その家族を^{すく}救うために
^{はこぶね}箱舟を造^{つく}った。ヘブル人への手紙^{びと} 11 章^{てがみ} 7 節^{しょう} 7 節^{せつ}」

にちようび 日曜日

アダムとエバにはたくさんの子供がいましたが、^{せいしよ}聖書に記録されて^{きろく}いる名前は3人だけです。カインとアベルとセツの3人です。先週は、アダムとエバの最初の息子であったカインが、とても残念な道を選んだことを学びました。カインと彼の家族は、神様の必要を感じなかった^{したが}ので、サタンに従うことを選びました。**創世記 4:16** を読んでください。

アベルが死んだ後、セツが生まれました。セツは、ほかのどの子どもたちよりも、アダムに似ていました。セツと彼の子どもたちが、神様を愛し、神様に従うことを選んだので、アダムとエバはどんなに嬉しかったことでしょう。もしかしたら、セツが、この世界



をサタンから救う特別な人物になるのではないかと、^{かれ}彼らは期待しました。エバは、^{かれ}彼について何と言いましたか。**25 節**。

セツと彼の子どもたちは、成長する〔育って大きくなる〕につれて、サタンのうそを信じていた多くの人たちに神様のことを伝える、伝道者になっていきました。ところが、^{かれ}彼らの言うことを聞いた人は、ほとんどいませんでした。ほとんどの人は、ますます悪くなっていったのです。

^{かみさま}神様がこの世界をおつくりになってから、何百年もの年月がたちました。セツが生まれた時、アダムは何歳でしたか？**創世記 5:3~5**。あなたの知り合いに、だれか 100 歳の人はいますか？アダムは、900 年以上も生きてたんですね。

^{かみさま}神様がアダムとエバをおつくりになったとき、^{かれ}彼ら^{からだ}の体は完全に健康な状態

で、罪を犯しさえしなければ、永遠に生きることになっていました。罪を犯してから千年以上たっても、彼らの子孫は、何百年も生きることができました。

考えてみよう：神様を愛し、信頼し、従うことを選ぶなら、私たちは、イエス様がおいでになった後、彼とともにいつまでも生きることができるようになります。私たちは、毎日どちらかの道を選んでいるのだということを、決して忘れないでください。アベルやセツのようになることもできますし、カインのように自分勝手な道を選ぶこともできます。あなたは毎日、どの道を選んでいきますか？

げつようび 月曜日

セツの子孫の中で、神様をととても愛していた人がいました。それは、エノクという人です。毎日、エノクは神様と話をし、その大きな愛について思いめぐらしました。神様の律法を学ぶために、できるだけのことをしました。ほかの人たちも、神様に従うようになるために、彼らに神様の愛を示そうと、できるだけのことをしました。しかし、生き方を変えようとした人は、ほとんどいませんでした。

ある日、エノクが365歳のとき、神様は、彼を天国に移されました。創世記5:24。素晴らしいですね！エノクの気が変わって、彼がサタンに従うようになることは決してないことを、神様はご存じだったのです。

ある人たちは、エノクが天に移されるのをその目で見ただにもかかわらず、サタンのうそを信じつづけました。彼らは、さまざまな偶像を拜んでいました。さらに、彼らは平気で、殺したり、盗んだり、戦争をしたり、うそをついたり、よっぱらったり、かけごとをしたり、ほかにも多くの悪事を働いていたのです。

考えてみよう：エノクは、イエス様がおいでになるときに、生きて主をむかえる良い人々をあらわしています。神様を愛し、信頼し、従うことを選んだ人たちは、何が起ころうとも、エノクのように、イエス様といっしょに天国へ行くのです。私たちの多くも、イエス様が来られるときに、生きて主をむかえるかもしれません。エノクのように、天国までイエス様について行くには、どうすればよいのでしょうか？

かようび 火曜日

人間がどんどん悪くなっていくのを見て、神様は、とても悲しまれました。ついに、あまりにもひどくなったので、何かをしなければならぬ時がやってきました。

私たちの美しい世界がつくられてから、1000年以上の年月がたっていました。聖霊は、一人ひとりの心に何度も何度も語りかけていましたが、耳をかたむけた人は、ほんのわずかでした。創世記6:5、11~13に、当時の人々の状態が、どの



ようなものであったかが書かれています。
3節のはじめの部分で、神様は何と言っておられますか？

17節を読んで、ついに神様が、どのような決断をくだされたかを理解しましょう。神様は、たくさんの雨を降らせて、世界中を水でおおってしまうほどの洪水を起こそうとしておられました。その計画の手伝いをするために、選ばれた人はだれでしたか？ノアという人でした。

ノアはどのような人物でしたか？また聖書は、彼について何と言っていますか？
創世記6:8、9。「ノアは神とともに歩んだ」と書かれています。エノクについても、同じようなことが書かれていましたね。

神様はノアに、何をどのように命じられましたか？ (**14節**)。そしてもちろん、神様はどうやってそれをするかも教えておられました。必要な材料を、すべて集

めなければいけませんでしたし、さらに、手伝いの人たちをやとう必要がありました。

箱舟が完成する、120年前のことでした。建設をすすめていくうちに、たくさんの人たちが、見物にやってくるようになりました。ノアは人々に向かって、来る日もくる日も、何年も、いつかやってくる洪水について警告〔よくないことが起こりそうなので、気をつけるよう告げ知らせること〕したのでした。 (**22節**)。

箱舟が完成するころには、世界中の人たちが、ノアの大きな船について知っていました。そしてだれもが、洪水がやってくるという彼の警告について知っていました。ところが、ほとんどすべての人が、彼をばかにして笑ったのでした。ノアは気が狂っていると、彼らは思ったのです。

かんがえてみよう：エノクやノアのように「神とともに歩む」とは、どういうことだと思えますか？今日の人でも、それができるのでしょうか？子供でも、できるのでしょうか？では、どうすれば、それができるのでしょうか？

すいようび 水曜日

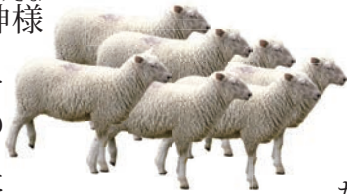
1 20年後に、箱舟は完成しました。しかし、それでもまだ、ノアは気が狂っていると、人々は思っていました。それまで、雨は降ったことがなかったのです。人々は、雨がどんなものかも知りませんで

した。先生と呼ばれている人たちは、みんなに向かって、心配しなくてもいいと言いました。たとえば洪水がやってきたとしても、ノアの箱舟が浮くことはないだろうと、彼らは考えました。

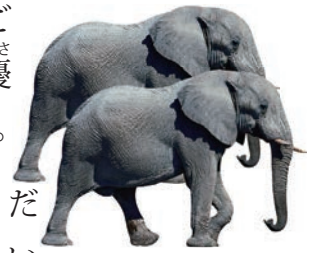
しかし、大事なものは、ノアが、神様から言われたとおりにすべてを行っていたということです。彼は、人々の言うことなど、気にしませんでした。ノアには信仰がありました。神様がなさろうとしていたことを、すべて分かっていたわけではありませんでしたが、ノアと彼の家族は神様に信頼し、神様の言われることに従っていました。ノアの家族は、全部で何人でしたか？創世記7:13。

何か月も箱舟の中で過ごすことになるので、たくさんの食べ物が必要でした。しかも、必要な食べ物は、自分たち家族の分だけではないことを、ノアはよく分かっていました。大量の食糧を集めてたくわえているノアを見て、彼は頭がおかしくなったにちがいないと、人々は思いました。創世記6:21。

そしてある日、びっくりするようなことが起こりました。あらゆる種類の鳥たちが、羽音をひびかせて、箱舟に向かっていっせいに飛んでいくではありませんか。ある鳥は2羽ずつ、またある鳥は7羽ずつ、箱舟に入っていきます。箱舟の中では、ノアと息子たちが、



用意してあったかごの中に、鳥たちを優しく入れていました。



しばらくすると、だれかが、「見て、たいへんだ!」と叫びます。今回は、あらゆる種類の動物たちがやってきます。2匹ずつでやってくるものもいれば、7匹ずつでやってくる動物もいます。おとなしく、完全な秩序をたもちながら、動物たちは、箱舟の入口に向かって歩いていきます。まるで、だれかが案内しているみたいです。船の入口からは、ノアと息子たちが、動物たちのために用意されたへやに連れていきました。

そのようすを見ていた人々は、びっくりしました。いったい、どういうことだろう？洪水のときもそのあとも、鳥や動物たちが生きのびることができるように、天使たちが彼らを導いていたことを、人々は知りませんでした。

考えてみよう: もしもあなたがその場にいたら、あなたには、神様を信じて従う信仰と勇気があったと思いますか？ノアは、手遅れになる前に、箱舟に入ってくださいと、人々に呼びかけていました。けれども、呼びかけに応じる人は、ほとんどだれもいなかったのです。今日の私たちは、神様のために勇気を出して、何をする事ができるでしょうか？



もくようび 木曜日

動物たちが箱舟に入っていくのを見ていた人々に向かって、ノアは、最後の呼びかけをしたことでしょうか。しかし、箱舟に入ることを選んだ人は、ひとりもいませんでした。

それから神様は、ノアとその家族に、箱舟に入りなさいと言われました。**創世記 7:1** 船の扉はあまりにも大きく、重たくて、自分たちでは閉じることができませんでした。とつぜん、稲光よりも明るい光が現れました。光り輝く雲が近づいてくると、扉がゆっくりと閉じたのです。人々は、そのようすをながめていました。(16節)。

人々は、おたがいを見ました。ある者は、おそ恐れていました。もしかしたら、ノアのほうから、ただ正しかったのかもしれない、との考えが頭をもたげました。それでも、先生とよ呼ばれている人たちは、心配する必要はないと、言いつづけていました。

一日がたち、さらに一日がたちました。一週間がたったころには、もうだれも心配してはいませんでした。得意になった人々は、箱舟のまわりに集まって、盛大なお祝いまでひらきました。箱舟の中では、ノアと彼の家族が、忍耐づよく待っていました。それは彼らにとって、つらい、がまんの時でした。外では、自分たちをはやしたてる、人々の笑い声や



叫び声が聞こえます。けれども彼らは、神様に信頼することにしました。

かんがえてみよう: 人々にご自分を信じさせるために、神様にできることが、ほかにありましたか? いいえ。私たちが神様の律法を愛し、それに信頼して従うことを決めるときに、神様は、箱舟の中のノアたちを守られたように、私たちを守ることができのです。もういちど、どんなことがあっても、神様に信頼して従う決心をしましょう。神様は、私たちを愛しておられるからです。

きんようび 金曜日

ノアと彼の家族が箱舟に入ってから、1週間がたちました。そして8日目に、大きな黒い雲が、空をおおい始めました。あのようなものは、これまでだれも見ることがありませんでした。それから、稲妻がひらめきました。雷が、ものすごい音を立てながら、雲をかけめぐります。そしていよいよ、大粒の雨が降りだしました。雨は、どんだん激しさを増すばかりです。人々の美しいえいえ、つぎつぎいなすま家々に、次から次へと稲妻がおそいかかり、建物は、あっという間にくずれ落ちていきました。偶像も祭壇も、くずれ落ちました。風はまるで、たつ巻のようでした。地面はふるえ、ゆれ動いています。



とつぜん地面から、ものすごい勢いで、水がふき出してきました。大きな岩でも、空中に吹きあげるほどの勢いです。今では、人間も動物も恐れおののいています。人々は、右往左往〔うろたえてあっちへ行ったりこっちへ来たりすること〕をしています。中には、祈っている人もいます。こぶしを天に向かってふりあげ、神様を呪っている者もいます。ある人たちは箱舟をたたいて、「頼むから、中に入れてくれ!」と叫んでいます。しかし、箱舟のとびらを閉じたのは神様であり、それを開けることのできる人は、だれもいませんでした。本当に悪かったと思っている人は、ひとりもいないことを、神様はごぞんじでした。彼らの心は、少しも変えられていなかったのです。

恐ろしい嵐は、6週間近くも続きました。水かさが増していくと、箱舟は浮かび始めました。中には、船にしがみつこうとしている人もいました。しかし、岩や木

にぶつかって船から引き離され、おぼれ死んでしまいました。風と波によって船は激しく揺れ、前と後ろ、右と左、さらに上と下に大きく揺さぶられました。箱舟の中の動物たちも、恐れおののいていました。ノアと彼の家族は、たえず祈っていました。天使たちのおかげで、危険がいつぱいのように思われた船旅は、安全に守られていました。

ノアの家族と箱舟に入った動物たちのほかに、守られたものがひとつだけありました。それは、エデンの園でした。洪水が起こる前に、神様が、園を天に移されたからです。アダムとエバをはじめとする、救われる人たちのために、園を残しておきたいと思われたのです。やがて、イエス様がおいでになった後に、人類はふたたび、エデンの園で楽しく過ごせるようになるのです。

かんがえてみよう: 私たちは、何かまちがったことをしたときに、「悪かった、ごめんなさい」と言うことがあります。本当に悪かったと思っているかどうか、神様はご存知ですか? まちがったことをしたら、いつでも心から悪かったと思ひ、「ごめんなさい」と言えるように、神様に助けていただきましょう。

もっと学ぼう!

- ★創世記 5-7 章
- ★人類のあけぼの上巻 p. 75-104
- ★あがないの歴史 p. 71-85



かみさま い みやこ
神様に「いやだ」と言った都

パティ・リン・ガスリー

かみさま
神様は、すべての
ひと あい
人を愛しておられ
ますか? 「いや、われわれ
は、あなたにしたが従いたくあり
ません」と言う人たちでも、
あい
愛されるのでしょうか? イ
エス様は、ご自分を殺し
ひと
た人たちでも、愛しておら
れるのでしょうか? そう、あい愛しておられる
のです。

かみさま うつく みやこ えら
むかし、神様はある美しい都を選んで、
そこにご自分の民を住ませ、そこに美し
い神殿をつくらせました。人々は、その都
をとても誇りに思っていました。その町の
ひとびと じんるい すく
人々が、人類を救うというすばらしい約束
について、世の人々に話すことを、神様
は望まれました。イエス様は、私たちが
たす じぶん りっぼう したが まな
助けて、ご自分の律法に従うことを学べる
ようにし、わたし 私たちが彼とともに、永遠に生
きることができるようになるために、わたし 私た
ちのために死のうとしておられました。

イエス様は、約束を守ってくださいまし
た。ところが、かれ 彼がせっかくそこに来られ
ても、おお 多くの人たちは、彼のことが好きで
はありませんでした。自分たちの敵を追
いはら びょうにん
い払って、すべての病人をなおしてくれる
おうさま かれ のぞ
王様を、彼らは望んでいたのです。みん
なをかねも お金持ちにしてくれる王様を、かれ 彼らは
のぞ
望んでいたのです。



その特別な都は、エ
ルサレムと呼ばれてい
ました。イエス様がお
いでになったとき、そ
の都の多くの人たちが、
かれ 彼に向かって「いやだ」
とい言ったのです。

イエス様は、かれ 彼らのまちがった考えかた
を正そうとなさいました。ところが、おほ 多く
の人が「いやだ」と言って彼を断ったの
で、イエス様は泣きました。彼を望まな
い人たちは、いつか敵がやってきたとき
に、あんぜん 安全でなくなることをご存じだったの
です。かれ 彼らの敵は、エルサレムと神殿を
焼きはらうようになるのです。その時に
は、すべてがあ 荒れはててしまうのです。
かな 悲しいことですね。

しかし、ほとんどの人がイエス様に「い
やだ」と言う中で、かれ 彼に「はい」と言うこ
とを選ぶ、えら わずかばかりの人たちがいるこ
ともご存知でした。そこでイエス様は、敵
がやってきたらどうすればよいかを、でし 弟子
たちに話されました。弟子たちは、イエス
様を信じるすべての人に、彼の言われた
ことを伝えようとしてしました。

それは、じっさいに敵がやってくる、40
年前のことでした。でし 敵がやってくる前に、
エルサレムは、多くの恐ろしい警告〔よく

ないことが起こりそうなので、気をつけるよう告げ知らせること]を受けていました。7年間、奇妙な人が、街じゅうを歩きまわって、悲しげに「エルサレムの住民は災いだ!災いだ!災いだ!」と叫んでいました。何か恐ろしいことが起こると、告げていたのです。

日が沈むころ、雲の上に、戦いに出ていこうとしている、兵隊と戦車のようなものが現れました。ある真夜中には、エルサレムの大きくて重たい門のひとつが、だれもさわっていないのに、ひとりで開いたことがありました。宮と祭壇の上に、奇妙な光が輝いたこともありました。地震もありました。「ここを出ていこう」という人々の声が、どこからともなく聞こえてきたこともありました。

ついに、敵の軍隊が攻めてきました。敵は、都を取り囲みました。ところが、奇跡が起こりました。敵が今にも都を占領しようとしたそのとき、とつぜん、軍隊が引きあげて行ってしまったのです。エルサレムを守っていた兵隊たちは、敵を追いかけました。クリスチャンたちは、そのすきに、都を離れることができました。イエス様の言われたことを覚えていたので、そのお言葉に従ったのです。**マタイ 24:16～20。**

敵が戻ってきたとき、エルサレムに残っているクリスチャンは、ひとりもいませんでした。全員、安全な場所に逃れていたのです。

敵の軍隊はエルサレムの都に侵入し、



何万という人たちを殺しました。さらに、イエス様がおっしゃったとおり、都と神殿を焼きはらってしまいました。

前もって、やるべきことを話しておられたイエス様に、クリスチャンの人たちは感謝したと思いますか? イエス様に「はい」と言ってよかったですと、彼らは思ったことでしょう。

あなたは今、イエス様に向かって「はい」と言っただけでいいのでしょうか? どうすれば、敵であるサタンから安全に守られるかを教えてくださっていることを、彼に感謝してはいかがでしょうか?

だい しょう 第9章

そら なか かみさま やくそく 空の中の神様の約束



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「すなわち、わたしは雲の中に、にじを置く。
これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。」

創世記9章13節



にちようび 日曜日

天使たちは恐ろしいあらしの間、
ずっと箱舟を安全に守っていました。ついに、40日という長い日にちがたってから、雨はやみました。今では、世界中が一つの大きな海でした。陸のたった一つの小さなかけらさえ、見わたす限りどこにもありませんでした。一番高い山の

頂上は、水の何メートルも下にありました。箱舟の中に入っていなかった人々や動物たちはすべて、おぼれ死んでしまっていました。

神様はノアとその家族、そして動物たちのことをひと時もお忘れになっていませんでした。それどころか神様は、風が吹き荒れて水を乾かしている間に、箱舟がそっと静かに停止していられるように、いくつかの山の頂上間に特別な場所を用意なさっていました。(創世記8:1~4)。

さて、何ヶ月も時がたちました。ノアと彼の家族は動物たちの世話に忙しく、それぞれにとって一番良いように、彼らができることを尽くしました。波の上に放り出されるのが止まったことは、ほっとすることだったにちがいません。

でも彼らは、山々の頂上が水から頭をのぞかせ始めるまでに、まだ約3ヶ月も待たなくてはなりませんでした。(5節)。それから、ある日のことです。ノアは箱舟の窓を開けました。どんなに彼と彼の家族たちが、水がだんだん引いて、陸地があ

らわれていくのを今か今かと待っていたか、想像してみてください。

ノアは地面が乾いているかどうか見るために、真っ黒なカラスを窓から放しました。カラスはどうしたでしょう？（6、7節）。ほかの鳥は陸を見つけることができましたか？（8、9節）。ハトはきっと箱舟の中のお世話とごはんのために、戻ってくるのがうれしかったにちがいありません。

かんがえてみよう：あなたはこれまでに、何かあなたが長いこと楽しみにしているできごとを待っていて、いらいらしたことがありますか？あなたはそのことでぐちを言ったり小言を言ったりしましたか？それらは何か助けになりましたか？いいえ、神様はノアと彼の家族が我慢できるように助けてくださいました。そして同じように私たちも我慢できるように助けることがおできになります。

げつようび 月曜日

もう少し水が引いていくのをノアが待つことにしてから一週間がたちました。それから彼はハトをもう一度外に放しました。今度はどんなことが起こりましたか？（創世記 8：10～12）。

みんながどんなに興奮したか想像できますか？葉っぱです！本物の、生きた、みどりの葉っぱです！ということは、再び植物が生えはじめたということなのです。

彼らはできるかぎり早く、箱舟の覆いを取り外しました。神様は中にいるものたちが新鮮な空気をいつでも吸えるように箱舟を設計なさっていました。とはいうものの、日の光はどんなに心地よかったですでしょう！

神様は、まだ箱舟の扉を彼らのために開けてくださらなかったで、そこでみんなは箱舟から出るためには、神様の用意がまだできていないことを知りました。

じっと、みんなはもう一週間待ちました。ついに、待ちに待ったすばらしい言葉を神様が言われるのをみんなは聞きました。ひとりの天使が下りてきて、大きな大きな扉を開けました。15～19節を読んでみてください。

鳥たちや動物たちが箱舟から出てきたとき、どのようにふるまったと思いますか？うれしかった？もちろんです。鳥たちは大空に舞いあがっていき、動物たちは、走り回ったり、地面を駆けまわったりしました。やっと、長い長い待ち時間は終わりました。みんなは乾いた地面にふたたび足をおろしました。

かんがえてみよう：あなたは今までにうれしい思いとかなしい思いを同時に感じたことはありますか？もしかしたら、ノアはあたりを見回して、洪水前とは世界がまるで違っているのを見たときに、そのように感じたかもしれません。でも一番に、ノアは感謝しました。そしてわたしたちが神様に信頼しているかぎり、わたしたちもまたいつも

かんしゃ
感謝することができるのです。

かようび 火曜日

アとその家族が箱舟から出て、一番最初にしたのは、犠牲をささげたことでした。ノアは箱舟の中ですごした何か月もの間、自分たちを生かし守ってくださった神様に、感謝しました。彼はだいぶ前に神様が約束してくださった、イエス様がおいでになり、わたしたちのために死んでくださり、それによってわたしたちが永遠に生きることができるようになることもまた、神様に感謝しました。ノアが犠牲をささげた時、神様はノアがまことに神様を信じることを選んでいることを喜びになりました。

でも、ノアはまた洪水がやってくる可能性があるのではないかと心配したかもしれません。神様は彼らになんと約束なさったでしょうか？(創世記9:11)。

神様はご自分の約束の美しいしるしを、彼らにお与えになるとおっしゃいました。それは虹でした。虹ですって？虹ってなんでしょ？誰も今まで虹を見たことがありませんでした。

「みてごらん」と誰かが言いました。そこには、みんなの前にアーチを描き、想像できないくらい



の美しい虹があったのです。12～17節を読んでください。神様の約束を私たちに思い出させる、なんと美しい方法なのでしょう！

かんが
考えてみよう：わたしたちが虹を見るときはいつも、それが一番最初に現われた時のことと、神様がわたしたちに与えてくださった約束を思い出すことができます。あなたは洪水のことを聞いたことがありますか？そうです。サタンはいくつか恐ろしい洪水を作り出します。でも最初の虹から全世界を覆うほどの洪水が起きたことがあるのでしょうか？いいえ。わたしたちはいつも神様の約束に信頼しているのです。ちがいますか？

すいようび 水曜日

アがわたしたちの知っている世界を見回した時、それはノアが洪水前に住んでいたのと同じ世界とは思えないほど違っていました。以前の世界は罪のせいだ、とげやアザミやほかの悪い部分があったとしても、まだどこもかしこもうつくしいと彼は思っていました。

緑があり、ゆるやかな丘はつづき、たくさんの種類の木々がなす

もり しょくもつ みの さいえん
森があり、食物がたくさん実った菜園が
ありました。どんなにノアの家族たちが菜園
からの新鮮な果物や野菜に飢えていたか、
想像できるでしょうか？

ところが今、この世界はからっぽのよ
うでした。ぎざぎざの岩が至る所にあり、
山々には一本だって木が立っていません
でした。洪水の前、そこには大きい湖や
小さい湖がありました。今はというと、大
きな海が広がっていました。

きん ぎん ほうせき じめん うえ ころ
金や銀、宝石が地面の上にそのまま転
がっていたのと同じ場所は、今やからっ
ぽで、醜い場所となっていました。美し
い森、金や銀、ダイヤモンド、その他の
宝石はすべて地面の中に深く深く埋められ
てしまっていました。

ひとびと た うつく いえ しんでん かれ
人々が建てた美しい家や神殿は、彼ら
の偶像と一緒にすべて、粉々に打ち壊さ
れ、なくなっていました。

それから、ノアはほかのことを思いま
した。強い動物たちが、野生になってし
まうとどうなるのでしょうか？彼らは簡単
に人々を傷つけ、殺すことができました。
天気はどうなってしまうのでしょうか？以前の
ように、食物は育つのでしょうか？

かみさま おも し
神様はノアのすべての思いを知ってお
られました。そしてノアにお答えになりま
した。

かんが
考えてみよう：地下深くに埋もれてしまっ
た洪水の前にあった大きな森が、わたし
たちの使っている石炭や油になっているこ

し かみさま
とを知っていましたか？神様は、わたした
ちすべての大きな、また小さい問題につ
いても、答えをご存知でしょうか？もちろ
んです。あなたは、神様が解決してくださ
った心配ごとを何か考えてみることができま
すか？

もくようび 木曜日

こうずい あと ちきゅう
洪水の後、地球はどのようになる
と神様はノアにおっしゃいました
か？**創世記 8:22**を読んでください。きつ
とノアは洪水の後のために、植物の種を
大切に保管していたのでしょうか。そして
今、種はちゃんと成長し、みんなが食べ
るために収穫することができました。

かみさま やせい どうぶつ
神様はノアに、野生の動物たちについ
てもお語りになりました。何といわれたで
しょうか？**創世記 9:1, 2**を読んでください。

かみさま はじ とり さかな どうぶつ
神様が初めに鳥や、魚、そして動物た
ちをおつくりになった時、みんなおだやか
で人になれていました。ところが、罪が
入ってきた後は、動物たちは以前のよう
に人々を信用しなくなりました。それどこ
ろか、彼らの多くが危険な生き物になりま
した。神様は彼らが人を傷つけることが
できることを知っておられたので、動物た
ちが人間たちをこわがるようになさいまし
た。

ひじょう おお きけん どうぶつ
非常に大きくて危険ないくつかの動物
たちは、箱舟の中に入れられませんでした
。彼らは洪水でおぼれ死んで、ほかの
動物たちや人間たちとともに地球に葬ら

れました。わたしたちはこれらの動物たちが洪水前は地上に生きていたということを知っています。なぜならある人々がこれらの動物たちの骨のいくつかを掘り出しているのを見るからです。

洪水前、神様はわたしたちがずっと健康で幸福でいられるような、もっともよい食物を教えてくださいました。それらがなんであったか、覚えていますか？たくさん種類のおいしい果物に穀物、そして木の実（ナッツ）がありましたね。今、神様はそれらに野菜をくわえられました。神様はわたしたちが健康でいるために、それらを食べることが重要であることをご存じであったからです。

かんが
考えてみよう：いったいどんな種類の動物たちがおだやかで、またどんな種類



の動物たちが野生となっているのでしょうか。野生の動物たちは、人間が彼らのじゃまをしない限り、たいていは今でも人を恐れず。あなたは彼らに気を付けていますか？どのようにして？あなたは野菜を好きになれるよう、がんばっていますか？もうすでに好きな野菜は何ですか？

きんようび 金曜日

洪水の前、神様は人々に動物を殺したり、食べたりしてよいとおゆるしを与えておられませんでした。ところが種が育ち、食べ物ができるまでには、まだしばらく時間がかかりそうでした。そこで神様は、ノアとその家族に、神様が「清い」と言われた、決まった動物をたべてよいとおゆるしになりました。

箱舟の中に動物たちや鳥たちが入ったとき、あるものは二匹ずつ、またほかのものは七匹ずつであったのを覚えていますか？神様が「清くない」と言われた動物たちは、二匹ずつ中に入りました。神様はこれらの動物たちは人にとって良い食べ物ではないことをご存知でした。これらの清くない動物たちのあるものたちは、ほかの動物さえも食べてしまいます。

鳥や動物の肉は決して私たちの体にとって、最も良い食べ物ではありません。その上現代では、動物たちには多くの病気があって、彼らを食べることは安全ではありません。神様はわたしたちに、イエス様がおいでになる前には、植物だけを食べ物として食べるようにと言われました。

レビ記の11章には、ちょうど神様が「清い」、また「清くない」とおっしゃった動物たちの種類がモーセによって書かれています。

神様は肉を食べるときには、決して肉の中に血を残してはならないと言われました。それは注意深く、抜き出さなくてはなりませんでした。なぜなら血液は、わたしたちの体の中のあらゆる器官を通じて大事なものを運んでいるだけでなく、細菌も一緒に運んでわたしたちを病気にすることができるからです。

そしてまた神様は、肉の中の脂肪は食べてはならないと言われました。わたしたちはお肉の中に入っている脂肪がどんなに危険であるかを知っています。それは重い病気の原因になります。どれほど神様は親切にノアとその家族が、洪水後の世界での生活を始めるにあたって、注意深くいろんなことを説明なさったことでしょう。

考えてみよう：神様は動物たちをこれ以上わたしたちに食べてほしくないのだとわたしたちが知ったときも、そのおいしい味を知ってしまったわたしたちは動物たちを食べ続けてもいいと思いますか？聖書はわたしたちの体は、わたしたちの心に語りかける神様の聖霊の宮であると言っています。わたしたちはいつでも、わたしたちの心を健康にたもち、聖霊がわたしたちに語りかけるのを聞くことができるようにしておく必要があります。

まな もっと学ぼう！

★創世記 8；9：1-7

★人類のあけぼの上巻 p. 105-111

★あがないの歴史 p. 85-87



ふんか やま 噴火した山

パティ・リン・ガスリー

みなさんは火山
皆を知っていますか？火山は恐
ろしいにちがいあり
ません。いったいい
つ火山が突然噴き
出すのか、誰も知
りません。地球の
地下深くで燃えている熱い火がガスを押
し出し、突然外側にガスが噴き出され、
大きな穴を作ってしまう。ホコリと
灰、炎と煙、熱い湯気、大きな岩、溶岩
が爆発します。それらは空気中に高々と
噴き出し、また落ちてきて、山積みになり、
火山と呼ばれる山を作ります。

上の写真で見れる、美しいヘレン山も
火山の一つです。その形はまるでアイス
クリームのコーンのような形で、その高
さは約2.4Km以上あります。年はきっと
1000歳以上でしょう。それほど年を取っ
ているというのに、まだ「生きて」います。
約25年前に、その地下深くでふたたび
噴火する用意ができました。

多くの人たちが美しいヘレン山のそば
に住んでいました。みんなはその山の家
が大好きでした。そしてみんなは、日に
日に危険が近づいているなんて、信じら
れませんでした。



政府は、人々に
ヘレン山が目覚めた
合図が現われたと
警告を発しました。そ
して再び、噴火する
だろうと、発言しまし
た。それにもかかわ
らず、ほとんどだれも
が警告に注意を払いませんでした。

4週間後、ヘレン山の片方がふくれ上
がり始めました。それから氷が爆発し、
灰、そして岩が山のでっぺんから噴き出
し始めたのです。しばらくすると、雪が積
もって美しかったヘレン山は、もう白くは
ありませんでした。灰色でみにくく見えま
した。政府は、この山のそばに住んでい
る人々に今すぐに家から出て避難するよう
にと言いました。多くの人たちが避難した
のですが、ある一人の男の人は、何が起

こつても自分は
絶対にこの家
からでていか
ないと、言い
張りました。そ
して彼はそうし
ました。また
数名のキャン
プ愛好家たち
は、警告に全



だい しょう 第 10 章

けんちくしゃ おろかな建築者たち



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「神は天から人の子を見おろして、賢い者、神を尋ね求める者があるかないかを見られた」。

詩編 53 編 2 節

にちようび 日曜日

洪水の水が引いた後、ノアと彼の家族はついに箱舟から出ました。

そしてまず最初にしたことは、みんなを守ってくださった神様に感謝をささげることでした。そして神様はみんなに一つの虹の約束をお与えになりました。神様のお約束は何だったでしょう？

さあ、今度は仕事を始めなくてはなりません。彼らが一番初めにしたことは何だったと思いますか？家を建てる？それとも耕して庭に植物を植えたでしょうか？みんな忙しかったと思いますか？もちろんです。

でも忘れてはいけませんが、箱舟から出た後、忙しかったのは、ノアとその家族だけではなかったということです。サタンも忙しかったのです。今彼は、ますます神様が大嫌いでした。サタンは、神様についての自分のウソをまた人々に信じさせるために、自分と悪天使たちができることは何でもしようと、固く決心しました。

天において、また罪が入ってくる前のわたしたちの世界では、天使たちと同じように、アダムとエバも全く幸福でした。彼らは自然と神様の律法に従っていました。実際に、だれもその規則について考えたことはありませんでした。

ルシファーが罪を犯してから、どれほどいろんなことが違っていったことでしょうか！天国では、一人一人の天使が、神様を信じるかそれともサタンを信じるかを選びました。ほとんどの天使は神様に忠実に従うことを選びました。ところが、サタンがエバにウソをついたとき、エバは神様を信じないでサタンを信じることを選んだのです。それからというもの、わたしたちは自然に神様に反抗するようになってしまったのです。

でも、わたしたちが決して忘れてはならないことは、わたしたちは今でも選ぶことができるということです。わたしたちはサタンに従わなくてもよいのです。そして神様は、もし私たちが神様に求めるなら、いつでも助けてくださいます。

かんが 考^{かんが}えてみよう^{みよう}：神様^{かみさま}は今^{いま}までもご自分^{じぶん}の律法^{りつぽう}に従^{したが}うように、わたしたちを強^{きやうせい}制^{せい}されたことがある^ありませんか？いいえ。神様^{かみさま}はわたしたちが神様^{かみさま}を愛^{あい}するから、喜^{よろこ}んで従^{したが}うことを選^{えら}ぶのを望^{のぞ}んでおられます。神様^{かみさま}はいつもそばにいて、わたしたちを助^{たす}けてくださるでしょうか？そうです。あなたは神様^{かみさま}に助^{たす}けてくださいと願^{ねが}いした時^{とき}のことを覚えていますか？あなたはいつもひざまずく必要^{ひつよう}はありません。ただ、サタンがあなたを誘^{ゆうわく}惑^なくするとき、心^{こころ}の中^{なか}ですぐに神様^{かみさま}に助^{たす}けを求^{もと}めてよいのです。



げつようび 月曜日

こう 水^{みづ}の後^{あと}、時^{とき}はながれて、たくさん
あか 洪^{あか}の赤^{あか}ちゃんが生まれま^うした。その
あか 赤^{あか}ちゃんたちが大き^{おお}くなると結^{けっ}婚^{こん}して、ま
あか たたくさん^{あか}の赤^{あか}ちゃんが生まれま^うした。そ
なが ねんげつ ほど長い^{なが}年月^{ねんげつ}をかけず^つに、わたしたち
せかい 何度も 何度も 何度^{おほ}も何度^{おほ}も話^{はな}してくるよ^うに、せが
ひとびと んの世界^{せかい}は再^{ふた}び多^{おほ}くの人^{ひと}々^{びと}でいっぱいにな
りました。

ひよっとすると、子^こどもたち^{おほ}の多^{おほ}くがノア
おじいちゃん^{おほ}のひざ^こにの^こって、洪水^{こうずい}のこと
や、も^せも^{かい}との世界^{せかい}はど^うだ^たたのか^ななど、
なん^{なん}ど^{なん}ど^{なん}も^{なん}も話^{はな}してくるよ^うに、せが
でいたこと^{こと}でしょう。

そして、ノアおじいちゃんも神様^{かみさま}がおつ
くりにな^うった美^{うつく}しい庭^{にわ}のこと^{はな}を話^{はな}したこと
でしょう。そしておじいちゃん^{おほ}は、エバ^あが
かみさま 神^{しん}様^{さま}を信^{しん}じないでサタン^あを信^{しん}じる^{えら}ことを選^{えら}
んだ時^{とき}に、ど^うや^つつて罪^{つみ}がこ^せの^{かい}世界^{せかい}ではじ

まったのか^{はな}を話^{はな}さなくてはな^りませ^んでし
た。

おじいちゃん^{おほ}は、や^ひがていつ^{いつ}の日^ひか、
サタン^あからみ^すんなを救^{すく}うた^まめにイエス様^{さま}が
おいで^すになる^すばという素^{やく}晴^{そく}らしい約^{やく}束^{そく}につい
て話^{はな}しま^した。そ^してみ^みんながそ^{やく}の約^{やく}束^{そく}
を決^{けつ}して忘^{わす}れな^いた^ために犠^ぎ牲^{せい}の動^{どう}物^{ぶつ}をさ
さげ^るの^だ、と教^{おし}えま^した。

と^まころがノア^{おほ}の孫^{まご}たち^{おほ}の多^{おほ}くは、そ^おの
お話^{はな}を聞^ききた^がりませ^んでし^た。彼^{かれ}らはそ
の^{はな}お話^{はな}を^から^かい、ま^た洪水^{こうずい}が地^ち球^{きゅう}に与^{あた}
え^たた^まめ^じのゆ^えに、神^{かみ}様^{さま}に文^{もん}句^くを言^い
いま^した。あ^る者^{もの}は偶^{ぐう}像^{ぞう}を作^{つく}り、そ^れを
礼^{れい}拜^{はい}し始^{はじ}めま^した。そ^のこ^とがノア^あをと^と
も悲^{かな}しま^せま^した。

ノア^{さん}の三^{さん}人^{にん}の息^{むす}子^こ—セム^あ、ハム^あ、ヤペ
テ^あーにはた^まく^まさん^まの孫^{まご}が^なでき^ました。長^{なが}
い^{あい}だ^だ、み^んな^なは、洪水^{こうずい}の^あ後^{あと}、箱^{はこ}舟^{ぶね}がとま^つ
つた山^{やま}の^{あい}だ^だに^す住^すんでいま^した。と^ところがサ^さタ

ンは神様の律法に従わないようにみんなを誘惑しました。

かんが
考えてみよう:ノアはあなたのずっとずつと前のおじいちゃんでもあります。わたしたち人類のすべての始まりはアダム、それからノアです。そしてわたしたち一人一人は神様の家族になることを選ぶことができます。あなたは毎日神様のものとなることを選んでいますか？

かようび 火曜日

ついに、ハムとヤペテの家族は荷物をもとめて大きな川のそばの平地に引っ越しました。土はとてもよく肥えていました。そして彼らは植物を育てたり、家を建てたり、じゃまされないで自分たちの偶像を礼拝できると知ったのでした。ノアはとても落ち込んでしまいました。

セムとその家族は、山々の間にとどまって、神様に忠誠を尽くすことを選びました。でも他の者たちは自分たちがしたいと思うことは何でもできると思いました。彼らは神様がいつも見ておられ、悲しんでおられるということを感じ

えていませんでした。彼らは大きな計画を立て、誰も自分たちに待ったをかけることはできないかと思っていました。自分たちの計画を実行するための必要をすべて準備してあったのです。(創世記 11:4)。

これらのおろかな人たちは実際に、もしまた洪水がやってきたとしても、頂上に上れば完璧に助かるような塔を自分たちは建設できると考えました。彼らは、あのような洪水は二度と起こさないと、神様の約束を信じていないようですね？そして、積み上げたブロックを赤ちゃんが遊んで簡単に崩してしまうのと同じように、神様には彼らの塔も滅ぼすことができになる力があるということを、まったく彼らは思いつきませんでした。

日を追うごとに、大きな塔が伸びていきました。彼らは塔の内側に、塔を建てた人たちが住める美しい部屋を作りました。そして彼らは自分たちの偶像を礼拝するための特別な部屋を作りました。

塔はどんどん高くなりました。どんなに建設者たちは誇り高かったことでしょうか！塔がとても高くなると、一番下のほうで働く人たちは、上の方で働く人たちがブロックやそのほかに必要なものを指示する声を聞くことができませんでした。



そこで建設者たちは考えて、上で働く人たちは真ん中の人に伝え、その人たちはまたその下の人たちに伝えるようにしました。

みんな同じ言葉を使っていました。そこで、もちろんみんなお互いにすべて理解しあうことができたのです。でも、たくさんの人たちが一緒に集まって一つのところにいることは良いことでしょうか?いいえ。

かんが **考えてみよう:** わたしたちが町で見たり聞いたりすること、簡単に買える食べ物の中なかで、神様の律法に従わないようわたしたちを誘惑するものを考えることができますか?もしわたしたちのお父さんとお母さんが町に住まなくてはならない時に、神様はサタンからわたしたちを守ってくださることができのでしょうか?もちろんできます。でもわたしたちは、サタンの誘惑に誘われることがないように、毎日そのことを覚えて、わたしたちを助けてくださるよう、神様にお願いする必要があります。

すいようび 水曜日

この世界の人々が一つところに集まってぎゅうぎゅうに暮らすことは、決して神様のご計画ではありませんでした。神様は世界中のいたるところに散らばって生活することのほうがよりよいことを、ご存知でした。また大きな町では、サタンが悪いことをするように人々をたや

すく誘惑できることもご存知でした。今日でさえ、都会ではどれほど多くの邪悪なことが行われているか、見るができますよね?そのうえ、たいていの都会には、大きな庭を作ったり野外で遊んだりする十分なスペースがありません。もしあなたが田舎に住むなら、とても恵まれます。



かみさま 神様は、この人々が彼らの塔の建設を仕上げさせないよう、決心なさいました。どうやって止めさせるのでしょうか? (創世記 11:5 ~ 7)。

なんて簡単な方法で、すべてが変わってしまったことでしょうか!上の方で働いていた一人の人が、ブロックが必要になり、彼のすぐ下にいる人に伝えました。多分、水を頼んだのだとこの人は思ったので、自分の次の人にそう伝えました。ひよっとすると、その次の人は、何か道具が必要だと思ったのです。

しばらくして、誰かが上にいる人に何か運んできました。それは彼が頼んだものとは全く違うものでした。なんてめちゃくちゃだったでしょう!労働者たちは怒り出しました。ケンカははじめました。人々はほかの人たちが何て言っているのか理解できませんでした。みんながみんな、気が狂ったと思いました。このまま建築を続け

ることは、できなくなりました。

ある日、大きないびかりが天から落ちてきて、この塔のてっぺんを打ち落としました。今となってはもう、誇りとするものは何もありませんでした。

かんが **考えてみよう**：神様より人々の方が賢い

ということはあるのでしょうか？もちろんありません。子どもたちはときどき、自分たちの両親よりも何でも分かると思いますか？それがそのようにわたしたちに考えるように仕向けるのでしょうか？あなたは今までお父さんやお母さんと言い争ったことはありますか？

もくようび 木曜日

その町の人が建てようとした巨大な塔は、バベルと名づけられました。「混乱」もしくは「不安定な」という意味です。神様は単純に彼らの話し方を混乱させたので、みんなは違う言葉を使いました。

どれほど多くの違った言語が話されたのか、わたしたちにはわかりませんが、サタンの悪賢い計画はだめになってしまいました。

人々がこれから何をしたらよいか考えた時、お互いのことを理解しあえるいくつかの家族がいることに、気が付きました。そこで、お互いのことが理解しあえる家族は一緒になることになりました。そして彼ら

の役に立たない偶像も含めて荷をまとめ、この世界のほかの場所へと移っていきましました。これが多くの国々の始まりなのでした。

ノアとセムと彼らの家族だけが、箱舟のとどまっている場所の近くにまだ暮らしていました。彼らは神様とその律法に従うことを選んでいました。

かんが **考えてみよう**：あなたはいろんな国の人々をどのくらい数えることができますか？どのくらい知っていますか？あなたは中国人を知っていますか？メキシコ人？ほかには？神様はその人たちのこともみんな愛していますか？わたしたちは神様がどれほど彼らのことを愛しておられるかを知らせるために、ほかの国々の人たちに伝道者を送っているのでしょうか？

きんようび 金曜日

神様がアダムを創造された時、アダムの体は完全でした。そして彼の背は今の人たちの二倍以上ありました。罪が入ってきてから、すべてのことが変わりはじめました。そして洪水の後、さらに変わってしまいました。

洪水の前、人々は何百年も生きることができました。ノアおじいちゃんは、洪水が始まった時、600歳でした。それから洪水の後、350年も生きました。合わせて950歳の時に、彼は亡くなりました。

洪水の後、神様は洪水の前には食べてよいとはなさらなかった、ある食べ物を人々に食べてよいとされました。それは何だったでしょう？そう、それは最善の食事ではないのですが、ある特定の動物を殺して食べてもよいとの許可をお与えになりました。

洪水の後、菜園がよく育ったとき、ノアと息子のセムはよい食物をほとんどいつも食べ続けたに違いありません。二人とも900年以上生きました。

時がたつにつれ、人々の背は伸びず、以前の人たちのように長生きはできなくなりました。病気や弊害がありました。人々

は悪い食べ物を食べ、飲み物を飲んで、自分たちの目にかなうことは何でもしました。なんて悲しいことでしょう！

考えてみよう：天国において、サタンは自分の計画のほうが神様の計画よりもすぐれていると自慢していました。そうだったでしょうか？わたしたちが愛し、信頼し、神様に従うことを選ぶとき、それは神様を喜ばせるのでしょうか？わたしたちもうれいしでしょうか？神様の律法に従わないと選ぶことは、いつでも最後は不幸をもたらします。違いますか？



今

むかし

もっと学ぼう！

- ★創世記 9:1-11:9
- ★人類のあけぼの上巻 p. 112-120
- ★あがないの歴史 p. 88-90



「不沈船」タイタニックーパート 1

パティ・リン・ガスリー

大 洋航路船はたくさんの人たちを
の 乗せて、大きくて広い海を行き
かうことのできる、とても大きな船です。
なんじゅうねん まえ の こと。イギリスでは、大き
な船を作る人たちが、巨大な大洋航路船
をつくることに決めました。それは世界で
いちばんおお たいようこうろせん ちが
一番大きな大洋航路船となるに違いあり
ませんでした。そしてとても丈夫でどんな
あらし しず 嵐がやってきても、沈まないはずでした。
かれ 彼らはこの船をタイタニックと呼びました。

タイタニックの船内はまるで壮大な宮殿
でした。高価な家具や素晴らしい飾りが
つか 使われた美しいホテルのようでした。航海
の間、人々がすることがたくさん用意され
ました。子どもたちの遊ぶところがたくさ
んあり、またプールに飛び込むこともでき
ました。大人の人たちは図書館で本を読
んだり、ゲームをしたり泳いだり、デッキ
や客室にただ座ってリラックスすることが
できました。

ついに、大きな船は大海への初船出の
よういができました。そしてもしあなたが約
100 年前のまだ肌寒い4月のある日、イ
ギリスの船着き場にいたとしたら、手を
ふったり拍手したりする興奮した人々の大
きな人だかりを見ることができたでしょう。
かれ 彼らはこの世界一大きな大洋航路船を見
るためと、この船旅に出る人たちに手を
ふ 振って見送るためにやって来ていました。

しばらくすると、この大きな船はゆっく
りとしきり岸から離れました。それはアメリカを
めざ 目指して大西洋を渡る旅の始まりでした。
2000 人以上の乗客がこの大洋航路船に
の 乗っていました。そして船や乗客の世話
をするための多くの従業員も乗ってしまし
た。スミス船長が全責任を負ってしまし
た。



だれもがこの素晴らしい旅をぜひ楽し
もうとしていました。すぐに、乗客たちは
自分たちの客室に落ち着きはじめ、くつろ
いでいました。みんなはきっと、これから
横断する海には氷山が浮かんでいること
など心配していなかったことでしょう。そ
してきっと、スミス船長がいつもの年より
氷山が多いと警戒したことを知らなかった
ことでしょう。

氷山はとても危険なものです。氷山の
ほんのわずかな一部だけが、水面上に見
えるのです。その氷山のほとんどが目には

見えない水の下にあるのです。船は冰山を迂回して、この見えない部分にぶつからないように行かなくてはなりません。

イギリスを出発してから、いく晩かたちました。大きな船は静かな水の上を早く、そして静かに進んでいました。従業員以外のほとんどの人がすでに眠りに入っていました。ほんのわずかの人たちだけがまだ起きていてゲームをして遊んでいました。従業員のある人たちは、明日の準備をしていました。

とても寒い日でした。月明かりのない夜でした。そして星さえも夜空に輝かない、とても暗い夜でした。スミス船長は、見張りの人に冰山を注意して見るように、指示を出しました。

真夜中になる20分ほど前に、見張り人の長の一人が、恐ろしい何かを見つけました。「右側前方に冰山発見！」その人は叫びました。

(つづく)

だいしょう 第11章



けっ 決していいことのない利己心

子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

ち じゅうぶん いち
「地の十分の一は、・・・すべて主のものであって、
しゅ せい もの
主に聖なる物である」。—レビ記 27章 30節

にちようび 日曜日

サタンは、いま せかいじゅう ち
ほとんどの人たちを、まんまとだ
ぐうぞうれいはい
まして、偶像礼拝をさせていました。ノア
おじいさんは死にましたが、その忠実な
むすこ
息子であったセムは、アブラムという男の
こ
子が生まれたときにも、まだ生きていま
う
した。生まれたのはウルというところで、ア
かぞく ゆうふく かねも
ブラムの家族は裕福〔お金持ち〕でした。



アブラムの家族は、かぞく かみさま ぐうぞう
神様と偶像をいっ
しよに礼拝しようとしていました。このよう
れいはい
に、家族の人たちは、いかげんなやり
かぞく ひと
方で神様に仕えていましたが、アブラムは、
かた かみさま つか
たとえひとりでも、じぶん かみさま
自分は神様のすべての
りつぼう したが おも
律法に従おうと思いました。セツやエノク
やノアのように、かれ かみさま ところ あい
彼は、神様を心から愛し
ていたのです。

アブラムはおとなになると、サライとい
う、たいそう美しい女の人と結婚しました。
うつく おんな ひと けっこん
サライとアブラムのお父さんは同じ人でした
が、お母さんは違う人でした。つまりサ
ライは、アブラムのとう おな ひと
腹違いの妹でもあった
のです。

アブラムは、ひじょうにゆうふく ひと
裕福な人でした。
かれ
彼とサライには、おおぜいの親せきや友
だちがいました。りっぱな家があり、多く
めしつか
の召使がいました。持っている土地も
も
たいそう広く、家畜として飼っている動物
ひろ かちく か どうぶつ
も数えきれないほどいました。しかしこの
かぞ
夫婦には、ひとつだけ、どんなにほしくて
も持てないものがありました。なん
か
わ
か分かりますか？それはあか ちゃんでした。

ある日、アブラムに向かって、神様が語りかけられました。創世記 12: 1~3 節を読んでみましょう。アブラムはいつも変わらず忠実な人で、きっと自分の子供たちにも忠実であることを教えるであろうと考えた神様は、彼を助けて、ある特別なことをさせたいと望まれました。しかしそのためには、アブラムを、偶像を拝んでいるウルの友だちや親せきから、離れたところに住ませる必要があったのです。

考えてみよう: 神様がアブラムに求められたことは、かんたんに実行できることであつたと思いませんか? 彼は、どんな言いわけをすることができたでしょうか? お父さんかお母さんから何かむずかしいことを言われたら、あなたは言いわけをして、それをやらないようにしますか?

げつようび 月曜日

荷物をまとめて引っ越しなさいと神様から言われたとき、アブラムは、行き先が分からないからと言いわけをしましたか? 創世記 12: 4 を読んでください。アブラムは、何の口ごたえも質問もしないで、ただ従ったのでした。

アブラムの友だちは、彼がりっぱなおうちを売って荷物をまとめ、これからテント暮らしを始めると言うのを聞いて、彼は気が狂ったかと思ったことでしょう。しかも彼は、自分がどこへ行くのかも分からないと



言ったので、大いにあきれてしまったことでしょう。本当に、行き先を知らなかったのですから。

アブラムの家族や親せきの中には、父親のテラや、お兄さんのナホル、甥〔兄弟・姉妹が生んだ男の子〕のロトのように、彼について行った人たちもいました。彼らはみんなで、しばらくハランという場所に住んでいましたが、年老いたテラはそこで死にました。彼は 200 歳以上になっていました。

お葬式が終わったあとで、神様はアブラムに、カナンちむの地たびに向かって旅つづを続けるように言われました。ナホルは、ハランにとどまることにしました。彼はまだ、神様と偶像のどちらも拝みかたったのです。けれどもロトは、アブラムと旅を続けることにしました。

ハランにいる間に、アブラムとサライは、伝道者として熱心に働きました。その結果、多くの人あいだが神様を愛して従うよ

うになり、アブラムがいよいよそこを去るときには、彼について行きたいと考えたほどでした。アブラムは、そういう人々たちを喜んで迎え入れました。創世記 12: 4、5 を読んでください。

ハラを出た彼らは、ゆっくり旅をしました。何百名もの人々と、多くの家畜やその他の動物たちがいっしょにいたので、夜にはかならず立ち止まって、キャンプをしなくてはなりませんでした。

ついに彼らは、カナンちの地かれにやってきました。カナンに住んでいたのは、危険で邪悪な〔心がねじ曲がって悪い〕人々でしたが、アブラムは神様に信頼していたので、こわくありませんでした。

考えてみよう: 神様はアブラムに、これまで家か土地を与えておられましたか？ 神様は、彼らに子供を授けたりも言っておられましたが、その約束は実現していませんか？アブラムは、神様を疑い始めていましたか？それとも、神様を信頼し続けましたか？

かようび 火曜日

アブラムは本物の伝道者でした。キャンプをしたところでは、どこでも祭壇を築き、その周りにみんなを集



めて礼拝をしました。動物が犠牲としてささげられるのを見た人々は、サタンから救うと言われた神様の約束を思い出しました。アブラムたちが去って、ほかの旅人がそこを通りかかると、あとに残された祭壇が目にとまりました。旅人たちは、アブラムがそこにいたことを知り、中には、立ちどまって神様を礼拝する者もいました。

アブラムがカナンに着いたあとで、何が起きましたか？ (創世記 12: 10)。国や地方に食べ物がなくなり、人々が飢え〔お腹をすかせること〕に苦しむことを、飢きんと言います。アブラムは、食べ物が豊かにあるウルに戻ろうとはしませんでした。彼はエジプトへ行きましたが、飢きんが終わったら、カナンに帰るつもりでした。

サタンはいつでも、私たちを誘惑する〔悪いことに誘うこと〕機会をうかがっていますね。エジプトにおいて、彼はアブラムを誘惑し、全くのうそでも本当でもない、あやふやな〔どちらともはっきりしない〕ことを言わせました。サライは腹違いの妹でしたが、彼の妻でもありました。サライはたいそう美しかったので、アブラムは、だれかが彼を殺して彼女を奪わないだろうかと心配しました。そこで彼は、サライを自分の妹だと言ったのでした。

けっきょく、それはうまくいきませんでした



した。もう少しで、エジプトの王様に、サライを妻にとられるところでした。しかし神様が、それをしないよう王様に注意したので、彼はサライをアブラムに返し、国から出て行ってくれるよう、ていねいに頼んだのでした。

かんが 考えてみよう: あなたは、あやふやなうそをついたことがありますか？あるていどは本当のことでも、語ったすべてのことが本当ではなかった、というようなことがありますか？それは、意外とよくあることです。しかし神様の律法のひとつは、いつでも本当のことを言いなさいと、私たちに命じているのです。私たちにうそをつかせようと、誘惑してくるのはだれですか？

すいようび 水曜日

アブラムがエジプトを去ったあとで、何が起こりましたか？創世記 13: 1~7。その時のようすが想像できますか？

おびただしい数の羊や牛を食べさせるだけの草原が、じゅうぶんになかったわけです。牧童〔家畜の世話をする者〕たちは、アブラムとロトの家畜を、つねに分けておこなうてはいけなかったため、動物たちを食べさせる場所をめぐる言い争いが起こってしまいました。

問題が起こったことを聞かされたアブラムは、悲しい気持ちになりました。彼は、甥のロトと話し合うことにしました。彼らはみな、山のほうに住んでいましたが、おたがいの距離が近すぎたのです。ヨルダンの谷間には、ヨルダン川の流れる美しい平原がありました。たくさん木や野原があり、家畜を飼うには、山よりもこちらのほうが適していました。アブラムは、ロトに何と言いましたか？（8、9節）。

アブラムはロトのおじさんでしたから、本当は彼のほうに、まず選ぶ権利がありました。ロトは、目上のアブラムから先に選んでもらうべきでしたが、彼はどうしましたか？（10～12節）。だれが利己的〔自分のことばかりを考えること〕で、だれが思いやりの持ち主でしたか？ロトは、むさぼってはならないという、神様の律法にそむいていたのでした。

かんが 考えてみよう: 「むさぼる」とは、どういう意味ですか？私たちは、生まれつき利己的ですか、それとも思いやりの精神を持っていますか？あなたは、サタンにそそのかされて、けんかをしてでも、いちばん大きい物やいい物を手に入れようとする

ことがありますか？^{わたし}私たちはみな、^う生まれつき^{りこてき}利己的な^{もの}者です。^{あか}赤ちゃんのころから、^{じぶん}自分さえよければいいという^{せいしん}精神を持って^もいます。しかし^{かみさま}神様は、^{わたし}私たちを、^{イエス}イエス様の^{さま}ような、^{ひと}人のことを思いやる、^{あい}愛の^{ひと}人に変えようと望んでおられるのです。

もくようび 木曜日

神様はなぜ、^{わたし}私たちが、^{とかい}都会には^{のぞ}なく、^すいなかに^{わたし}住むことを望んで^{とかい}おられるのですか？^{わたし}都会には、^{わたし}私たちを^{だらく}堕落〔^{あく}悪の道に^お落ちていくこと〕^{せせる}させる、^{ゆうわく}誘惑があふれているからです。^{アブラム}アブラムは、^{りこてき}ロトの利己的な^{えら}選^{かな}びを^{おも}悲しく思いました。^{ロト}ロトが^す住むことにした^{うつく}美しい^{へいや}平野には、^{わる}悪い^{まち}町がいくつもありました。それらの^{まち}町のひとつは、^よソドムと呼ばれていました。^{そうせいき}創世記 13:13 を読んでください。^{ロト}ロトは^{かみさま}神様を愛していましたが、^{あい}あのような^{まち}町に住んでいては、^す彼もその^{かれ}家族も、^{かぞく}か



んたんに^{ゆうわく}サタンの誘惑におちいることになるのでした。

ロトは、^{さいしよ}最初から^{まちなか}ソドムの町中^すに住んでいたわけではありませんでした。最初は、^{まち}町の近くに^はテントを張って^く暮らしていました。もしかしたら、^{おく}奥さんに^と説き伏せられたのかもしれない。いつしか、^{まち}もっと町の近くに^{うつ}テントを移していました。^{おく}奥さんと^{こども}子供たちは、この^{まち}町がすっかり^き気に入ってしまい、^でとうとうテントを出て、^{まちなか}ソドムの町中の^{いえ}家に^ひ引っ越してしまっただけでした。

ある日、^ひアブラムのところに^{ししや}使者がやってきて、^{おそ}恐ろしい^し知らせを^{つた}伝えました。いったい何が^{なに}起こったのでしょうか？^{せんそう}戦争があつて、^{おうさま}ソドムの王様が^{やぶ}敗れたというのです。^{ロト}ロトと彼の^{かれ}家族は、^{かぞく}捕えられてしまいました。それを^き聞いた^{アブラム}アブラムは、^{どう}どうしましたか？^{そうせいき}創世記 14:14～16。アブラムに^{すく}救い出された^だロトとほかの^{ほりよ}捕虜たちは、^{かれ}彼に^{かんじや}どれほど感謝したことでしょう。

^{おうさま}ソドムの王様は、^{なに}アブラムに何をあげようとしたか？^{アブラム}アブラムは、^{おうさま}王様に何と^{こた}答えましたか？^{せつ}21～23節を読んでください。^{アブラム}アブラムは、^{なに}何ひとつもらおうとはしませんでしたね。^{かれ}彼は、^{ほか}他の^{ひと}人を思いやる^{せいしん}精神にあふれていました。

かんが **考えてみよう:** ^{かんが}ロトを、^{くる}あれほどの苦し^おみへと追いやった、^{かれ}彼の^{ふた}二つの^{あやま}過ちとは^{なん}何でしたか？^{わたし}私たちは、^{じんせい}人生の^{えら}選^びびについて、^{かんが}よくよく考えてみるべきです。

きんようび
金曜日



ひとびと
トとソドムの人々
を救い出してから、
自分の家に帰る途中、アブラム
は、とても重要な人物に会いまし
た。その人も、神様を愛し敬って
いました。創世記 14:18~20。

聖書では、ここで初めて、什一のささげ
物のことが出てきます。什一とは、十分
の一のことです。つまり10円のうちの1
円を、100円のうちの10円を、1000
円のうちの100円をささ
げること、什一といいま
す。私たちのお金の一部
は、神様のものなのです。



もちろん、世界中のす
べてのものは、もともと神様のものです。
しかしとくべつに、私たちの持っている物
の十分の一は、神様に返しなさいと言わ
れているのです。什一のお金は、生活の
すべてを神様の働き、すなわち神様のこ
とを人々に教える働きにささげている人た
ちのために使われます。

世界中のすべては神様のものですから、
私たちの什一以外のお金も、本当は神様
のものです。けれども神様は、私たちが
生活していくために、またほかの人々を
助けるために、残りのお金を使いなさい
と言っておられます。

もし私たちが、自分のために、または

教会献金のためであっても、什一のお
金を使うならば、それは神様のもの
を盗んでいることになります。どん
なに小さい額であっても、什一
はすべて神様のものであり、た
とえ1円でも勝手に使うなら、
それは神様の律法を破ること
になります。盗むこと、とくに
神様のものを盗むことは、ささいな罪で
はないことを覚えましょう。レビ記 27:
30と、マラキ書 3:8~10 を読んでくだ
さい。

たまに、まったくお金のない人がいます
が、たとえ貧乏な人であっても、きちんと
什一をささげることを選ぶなら、神様はそ
の人を祝福して下さいます。そのような
人は、たとえどんなことがあっても、自分
は神様に信頼し、神様に従うつもりである
ことを証明しているのです。

かんが 考えてみよう: 私たちが什一を納めるべ
き神様の倉とは、教会のことです。生き
ているかぎり、什一を神様に返す決心を
してはいかがでしょうか？サタンはかならず、
あなたを誘惑して、そのお金を自分勝手に
に使わせ、盗みの罪を犯させようとするは
ずです。しかし決して、決してサタンに耳
をかたむけてはいけません。

まな
もっと学ぼう！

★創世記 11:27-32; 12-14章

★人類のあけぼの上巻 p. 121-136

★あがないの歴史 p. 91



ふちんせん 「不沈船」タイタニックーパート 2

パティ・リン・ガスリー

〔これまでのあらすじ：イギリスの豪華客船タイタニックは、アメリカへの初めての航海中でした。夜の海には、あちこちに氷山が浮いていました。とつぜん見張り人が、「前方に氷山!」と叫びました。〕

氷山についての警告を聞いた航海士のひとは、「面舵いっばい」との命令を出しました。しかし、遅すぎました。りっぱな巨大客船は、氷山に衝突し、船は大きな痛手を負いました。大量の水が入ってきました。警報器がけたたましく鳴っています。スミス船長は、何が起こったかを見に、あわてて部屋から出てきました。水が船内に流れ込んでいるのを見て、船が沈むのは時間の問題だと思いました。全員を避難させるだけの救命ボートもありません。

乗組員たちは、いそいで救命ボートをおろし始めました。ところが、救命ボートに乗ろうとする人はほとんどいません。タイタニックに乗っていれば大丈夫だと、思っていたのです。快適な船旅をさせてくれたこの船が沈むとは、とても信じられません。大きな船を捨てて小さなボートに乗り換え、冷たい大海原に出ていく気には、どうしてもなれませんでした。最初の救命ボートは、65名の人を乗せることができましたが、乗ったのはたったの28名でした。

その後の1時間20分の間、乗組員たちは、救命ボートを下ろすのにけん命でした。全員を乗せるだけのボートはありません。



せんでした。それでも、全部で1200名くらいは乗せることができたのに、救命ボートに乗ることを選んだ人の数は、たったの700名でした。

中には、救命ボートに乗ろうとして、狂ったように押し合っている人々もいました。しかし、落ち着いて、ほかの人たちに席をゆずっている人もいました。これらの思いやりのある人たちの多くは、救命ボートに乗ることができませんでした。多くの家族が、離ればなれになりました。救命ボートに乗れた人もいれば、乗れなかった人もいました。スミス船長も、最後まで船に残ったひとりでした。

とうとう、最後の救命ボートが、今にも

しず ふね はな ま
沈みそうな船から離れていきました。間も
なくして、ごうかきやくせん ごう
豪華客船タイタニック号はまっ
ぷたつに割れ、3000メートル下の海底
へと、どんどん沈んでいったのです。じき
べつ ふね ひとびと きゆうしゆつ
に別の船が、人々を救出しにやってきま
した。こうして、きゆうめい の ひと
ちは助かったのです。

ふね たよ ひと
あの船に頼っていた人たちのさいごは、
じつ
実にあわれなものでした。このニュース
き きせかいじゆう ひとびと しん
を聞いた世界中の人々は、信じられない
きも 気分
気持ちでした。みんなが、深く悲しみまし
た。

せかい わたし かくじつ たよ
この世界に、私たちが確実に頼れるも
のがありますか？

かみさま かみさま ことば せいしよ
はい、神様と、神様の言葉である聖書
だけは、いつでも頼ることができます。
せいしよ なか さま あたら てん あたら
聖書の中で、イエス様は、新しい天と新
しい世界について語っておられます。イ
エス様を愛し、信頼し、従うことを選んだ
すべての人たちには、このような世界が
やくそく ひと
約束されているのです。そして私たちは、
さま やくそく しん
イエス様の約束を信じることができます。
なぜなら、イエス様は、いつでも約束を
まも
守ってくださるからです。

だい しょう 第 12 章

てんし きゆうしゆつ 天使たちがロトを救出する



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

たびびと わす
「旅人をもてなすことを忘れてはならない。
このようにして、ある人々は、気づかないで御使たち
をもてなした」。—ヘブル 13 章 2 節

にちようび 日曜日

アブラムとロトは二人とも裕福でしたが、彼らはまったく異なった選
びをしました。アブラムがロトとその家族
を捕虜の状態から救出した後も、ロトた
ちは悪いソドムに戻りました。しかしアブ
ラムと彼と共にいた民はまだテントに住
んでいました。彼らは、うねうねと続く



うつく おか
美しい丘にあったオークの木の林の涼し
い木陰の下でテント暮らしをしていまし
た。そこにはオリーブの木々、ぶどう園、
穀物畑、彼の家畜のための十分な草、
そして新鮮な空気が豊かにありました。

しゆうい まち ひとびと た くにぐに おお
周囲の町の人々や他の国々の多くの
ひとびと
人々でさえも、アブラムのことを知ってい
ました。彼らはアブラムを尊敬し、彼のこ
とを強い王そして賢い族長と見なしていま
した。そして彼らはみな、彼が天の神様
を礼拝し、偶像を拝まないことを知ってい
ました。

うつ き すうねん
アブラムがカナンへ移って来て数年が
すぎ去りましたが、彼とサライにはまだ
こども おお
子供がいませんでした。アブラムが多くの
こくみん ちち やくそく かみさま
国民の父となるであろうとの約束を、神様
はどのように守るおつもりだろうと、彼は
ふ し ぎ おも はじ こども
不思議に思い始めていました。もし子供
がいないまま彼が死ねば、彼の財産は、
エリエゼルと言う名前の、彼の忠実な僕
ちよう
の長のものになるのです。

かみ なに かんが
神はアブラムが何を考えていたかを

ぞん 存じでした。ひ しず あと 日の沈んだ後の、ある夜の
 かれ かいわ ものがたり よ 彼らの会話の物語を読んでみましょう。
 (創世記 15:1～6)。アブラムが夜空の
 ほし み すがた そうぞう 星を見ている姿を想像できませんか?アブ
 ラムが神様に信頼することを選んだので、
 かみさま よろこ 神様がお喜びになってほほえんでおられ
 たことを想像できませんか?

かんが 考えてみよう:もしかみさま なに やくそく 神様が何かを約束さ
 れたら、かれ はその約束をお守りになります
 か?もちろん、いつもそうです。もしあなた
 わたし かみさま あい しんらい かれ ふくじゆう や私が神様を愛し、信頼し、彼に服従す
 ることを選ぶなら、私たちが心配する必要
 がありますか?

げつようび 月曜日

アブラムは、かみさま かれ むすこ あた 神様が彼に息子を与
 えてくださると本当に信じました。
 しかし今は、かれ がカナンに来てからも
 う 10 年になるのに、彼らにはまだ子供が
 いません。そのとき、サライは、あること
 を思いつき、それがよ けいかく かくしん 思いつき、それが良い計画だと確信し
 ました。かみさま りつぼう はん 神様の律法に反していましたが、
 どうじ ひとひと ひとり 当時の人々が一人ではなく多くの妻をも
 つ事はよくあることでした。もしサライの
 エジプトのつかえめハガルをアブラムの2
 ばんめ つま 番目の妻とならせるなら、もしかするとア
 ブラムとサライはハガルによって息子をも
 つことができるかもしれないとサライは考
 えました。その後またサライはアブラム
 のほんとう つま 本当の妻であるし、またハガルはなおも
 サライのつかえめであるのです。

ついにアブラムはどうい 同意しました。しかし



サライのけいかく さき しあわ ま 計画の先は幸せは待っていません
 でした。ハガルは、自分がアブラムの
 ためにこ う 子を生むとわかったとき、いぜん
 のよ れいぎただ じゅうじゆん うしな うな礼儀正しさと従順さを失いました。

サライがハガルに対してきびしくなった
 とき、なに お 何が起こりましたか?創世記 16:6
 ～16 のものがたり よ 物語を読んでみましょう。天使は
 ハガルをつま よ 妻と呼びましたか?それともつか
 えめ よ 呼びましたか?てんし かのじよ なに 天使は彼女に何をす
 るように告げましたか?彼女の息子は何と
 なづ 名付けられることになりましたか?このこ
 になに お 何が起こることになっていましたか?

かみさま なん にんたいづよ 神様は何とやさしく忍耐強いのでしょうか!
 そのどうじひとひと ひとり 当時人々が一人ではなく多くの妻をも
 つ事は、かみさま けいかく かつ 神様のご計画では決してありま
 せんでした。そして今もなお、かみさま 今もなお、神様のご
 けいかく はん しあわ かにい ふこう 計画に反するならば、幸せな家庭に不幸
 がもたらされてしまいます。

かみさま 神様は、アブラムとサライがやってし
 まったことにしゆくふく あた こと で き 祝福を与える事がお出来にな
 りませんでした。かみさま かれ あい 神様はなお彼らを愛

しておられました。神様はハガルをもあわれまれましたね。

神様は、アブラムがご自分に完全に信頼することを学ぶことがどれほど大切であるかを知っておられました。神様は何でもできるので、正しい時に、彼らに息子を与えることがおできになるのです。

考えてみよう: 誰が、神様の律法に反抗したいと望むでしょうか？あなたが何かを強く欲しがっている時、あなたのお父さん、またはお母さんが忍耐して待ちなさいと言ったとしたら、そうすることは簡単ですか？

かようび 火曜日

ハガルがイシマエルを生んで、長い時間が過ぎ去りました。アブラムとサライは、自分たちが子供を生むにはもう年を取り過ぎていると確信していました。しかし神様は考えを変えるお方でしょうか？いいえ、違います。実は、神様はアブラムの考えていたことをご存じでしたが、もう一度神様とアブラムはこのことについて話し合いました。創世記 17:1～9、15～22。

その時、アブラムとサライは新しい名前をもらいました。アブラムとは「多くの国民の父」という意味です。そしてサラとは、「王妃」という意味です。

考えてみよう: アブラムは、神様がご自分の約束を守ることがおできになるこ

とについてまだ確信がもてなかったでしょうか？もう1度、17節を読んでください。今日、人々は、私たちの神様がどれほど力強いかについて、聖書のすばらしい、真実の物語を読んでいながらも、神様が本当に彼らのことや彼らの悩みをみ心に留められるかについて、なお、心配してしまいませんか？子供たちでさえも、特に、彼らが言う事を聞かない子である場合、神様が本当に彼らのことを愛してくださるかどうかを疑うように誘惑されますか？あなたは、神様があなたを愛しておられることを確信していますか？神様はあなたをとて愛しておられます。サタンの言う事に耳を傾けてはなりません。

すいようび 水曜日

神様がアブラハムの名前を変えてから間もない、ある暑い日に、アブラハムは自分のテントの入り口に座っていました。彼が美しい景色を眺めていると、遠くに三人の人たちが彼のキャンプ場に向かって歩いているのが見えました。彼らは近づくと、立ち止まって、どの道を行くかを決めているかのように、互いに話し合っていました。

アブラハムは急いで立ち上がり、彼らのところへ走って行くと、「立ち寄ってしばらく休んでください」と、礼儀正しく彼らを招きました。この物語について創世記

18:1～8を読んでください。なるほど、多くの人々がアブラハムを愛し、りっぱな人だと思っていたのは少しも不思議ではあ



りません!彼はいつも親切で、礼儀正しく、
思いやりがありました。

食事の後、その訪問者たちはアブラハムに何とたずねましたか?主はサラについて何と言われましたか? (9～12節)。サラは笑いました。(13～15節)。

考えてみよう: 神様は、私たちが何を考
えているかいつもご存じですか?はい、ご
存じです。神様は、私たちが何をしている
か、何を考えているか、何を感じているか



をいつもご存じなのです。あなたはサラが
心の中で笑ったことを知っていましたか?
彼女はうたがいを表しましたね。ところが
神様はそれに気が付きました。私たちは
いつも信じるべきですね。少しなら疑って
もいいという事はないのです。

もくようび 木曜日

アブラハムは訪問者たちを見送り
ながら、彼らとしばらく共に歩
きました。その時までには、彼は三人のう
ちの一人が神様ご自身であり、また他の
二人は天使たちであることに気が付いてい
ました。やがて、神様は二人の天使に先
に進んで行くようにお告げになりました。
神様はアブラハムと二人だけで話すことを
望まれたのです。

その時、神様はアブラハムに、あるとて
も悲しい知らせをお伝えになりました。ロ
トと彼の家族の住んでいるソドムがものす
ごく悪くなったので、神様はその町を滅ぼ
さなければならぬということでした。ア
ブラハムはショックを受けました。彼は何
と、神様を相手に交渉を始めたのです。
それについて創世記 18:23～33 を読ん
でください。

神様は、ソドムを救いたがっているア
ブラハムをおしかりになりませんでした。
神様もアブラハムも、ソドムが滅ぼされ
るのを見たくはなかったのです。神様は、
誰かを傷つけたり滅ぼしたりすることを好
まれません。そして私たちが好むべきでは

ありません。

そうしているうちに、普通の人のように見えたあの天使たちは、ソドムに到着しました。ロトが彼らを見たとき、よそからの訪問者だと分かりました。おじのアブラハムは、ロトに礼儀正しくあることを教えていたので、ロトはさっそく自分の家に泊まるよう彼らを招きました。彼らはロトに感謝しましたが、自分たちは町の広場で夜を過ごしますと言いました。ロトは、そこが安全ではないことを知っていたので、強くお願いし続けたところ、彼らはロトの招待を受け入れました。創世記

19:1～3。

ロトは、自分のお客さまのことを誰にも知られなくなかったので、いつもの道を通らずに彼らを家に連れてきました。ところが町の人々は気がつきました。そしてソドムの人々がどれほど悪いかがすぐに示されました。人々はロトの家のドアをどンドンたたき始めて、お客さまを外へ出すよう、ロトをどなりつけました。人々がお客さまを傷つけたがっていることが、ロトにはわかっていたので、彼は外に出て人々を説得してみました。しかし人々は、おこり出しロトの家に押し入るぞとおどしました。

もちろん、これらの人々は、このお客さまが天からの天使たちであることなど全く分かっていませんでした。ロトでさえもまだ分かっていませんでした。しかし今、ロトは天使の助けを必要としていました。天使たちは、急いでドアを開けてロトを家

の中に引き入れ、ドアにかぎをかけました。そしてすぐに、天使たちは外にいる群衆の目をくらましました。こうなってさえも、この悪い人々は、入り口を手探りで探しましたが、とうとう疲れてしまいました。

かんが 考えてみよう: 一番良い土地を選んだのは、結局ロトのわがままだったのでしょうか?従う全ての者のためにイエス様が戻って来られる時に、準備が出来る選びを、私たちは毎日しているのです。

きんようび
金曜日

お 客さまが天使であるとわかったとき、この天使たちはロトに何をするように命じましたか? 創世記 19:12～14 を読んでください。神様の律法に服従することを選んだ人は、ソドムの町全体で10人もいませんでした。ロトの子どもたちでさえもある者は神様の律法に服従することを選ばなかったのです。

その時、天使たちは、ロトに彼の妻と彼らといっしょにまだ家にいた二人の娘を連れて、町の外へ急いで出るように命じました。(15節)。ぐずぐずしている時間はありませんでした。ところがロトは、自分の他の子供たちやりっぱな家、そして財産を置き去りにしたくはありませんでした。全ては短時間に起こるのでした。ロトを急がせるために、天使たちはついに何をしなくてはなりませんでしたが? 16～18節 を読んでください。彼らはすべてを置き去



りにしなければなりません。彼らの子どもたちでさえもです。やがてソドムは全て滅びようとしていたのです。

天使たちは、ロトと彼の家族の手を取って、ほとんど彼らを引きずりながら町の外へ連れ出し、その後ソドムを滅ぼしに戻って行きました。さて今度は神様ご自身がロトと彼の家族を助けに来られました。19～22節で彼らがどんな会話をしたかを読んでみましょう。

彼らはうしろをふりかえってはならないと警告されていました。ところがロトの妻は町の外にでても、彼女の心はまだソドムの中にありました。彼女はただ自分の子供たちのことを考えていたではありません。彼女もソドムのいろいろなことを楽しんでいました。そして彼女がうしろをふりかえったとき、何が起こりましたか？ (26節)。

アブラハムは次の朝早く、急いで山の上に行き、ソドムの方をながめました。

彼は何をみましたか？ (27～29節)。アブラハムのほおに涙が流れるのを想像できませんか？

ロトはゾアルの町も悪いとすぐに気が付きました。彼はとうとう何をしましたか？ (30節)。

神様はロトに正しい選びをするチャンスをとたくさん与えました。しかしサタンは、神様の律法への服従はたいせつではないと彼を誘惑しました。そしてロトはサタンのうそを信じることを選びました。今やロトは、とうとう、立派な自分の家にはではなく、ほら穴に住むことになりました。何と悲しいことでしょう！

考えてみよう： 聖書はロトの妻のことを思い出しなさいと言っています。ルカ 17:32。 私たちは、ロトの妻の選びから何を学ぶことができますか？

まな
もっと学ぼう！

★創世記 15-19章

★人類のあけぼの上巻 p. 136-144;
163-180



ピーターと彼のお金—パート 1

パティ・リン・ガスリー

ピーターは小さい時から、キッチンにすわってお母さんがパン生地からやわらかくてまるいパンを作るのを見るのが好きでした。お母さんは、自分が手を動かしている間、ピーターが遊べるように小さなパン生地を彼に手わたしてくれるのでした。ピーターはそれを自分の指のあいだで転がしたり、テーブルの上でぺっちゃんこにしたりするのが好きでした。そして、おもしろい形を作ってそれをお母さんに焼いてもらうのでした。

ピーターは大きくなって、自分でパンを作るところを学びました。はじめに、麦の粒を電気製粉機に入れました。製粉機が麦をきめの細かい小麦粉にすりつぶした後、彼はちょうどよい分量を注意深く計りました。それからその小麦粉を水、油、ハチミツ、イースト、そして塩といっしょにお母さんの大きなパン・ミキサーの中に入れました。そのミキサーは、パン生地がお母さんが作ってくれた、なめらかなまるいパンの形になるように、それをこねました。

次に、ピーターは、すべてのパンが同じサイズになるように、注意深くそのパン生地を分けました。彼はパンをパン焼き

用の鉄板の上に置いてから、温かいオーブンの中にそれを入れました。しばらくすると、そのパンはオーブンの中でちょうどよい大きさにふくらむのでした。それから彼はオーブンのタイマーをセットして、そのパンを焼き上げます。間もなくすると、パンを焼くいいかおりが家じゅうに広がります。



ピーターは、オーブンから出てきた美しく、黄金色のこんがり焼けたパンを見て満足に思いました。彼はそのパンをさますためにキッチン・カウンターの上に置きました。

ピーターの町の人々はすぐに、ピーターがうでのいいパンを焼く人だということに気が付きはじめました。「ピーターのパンを見たことあるかい?」「ピーターのパンを食べたことあるかい?」とお友達はお互いにたずねていました。やがて人々は、彼のおいしいパンを売って下さいとお願ひするようになりました。

ピーターはこのことをうれしく思いました。そのうちに彼は、ひまがあるたびに、パン作りにはげみしました。お母さんは、彼のお客さんへパンを配達するのを手伝いました。ピーターはクリスチャンでしたから、いつもお客さんには誠実でした。

週しゅうの終おわりごとにピーターは、自分じぶんのお金かねを注意ちゅういぶか深く数かぞえました。そしてその週しゅうのパンはんの販はん売ばいから彼かれが受うける分ぶんがいくらかが分わかると、彼かれがいつもまず最初さいしよにすることは、その十分じゅうぶんの一いちを取り分とけることでした。それは、什一じゅういち献金けんきんでした。ピーターはそのお金かねは自分じぶんのものではないことを知しっていました。それは神様かみさまのものでした。もし彼かれが自分じぶんのために什一じゅういちを使つかってしまうと、彼かれは神様かみさまから盗ぬすむことになるのでした。
 (マラキ 3:8)

ピーターにとって、いくらかみさまが神様かみさまのものをみだだかんたんに見つけ出すことは簡単かんたんでした。10セントごとの1セント、または1ドルごとの10セントが、十分じゅうぶんの一いちです。ドルとセントあいだの間にはいつも小さな点ちいがあります。そこでピーターはただ、小さな点ちいをその点てんの左ひだりにある次つぎの数かずの反対側はんたいがわに動かうごかすだけでした。例たとえば、\$4.00 からの什一じゅういちは、\$0.40 です。これは40セントといっしょです。\$25.00 からの什一じゅういちは、\$2.50 となります。

ピーターはお金かねをかせぎました。ああ、彼かれは、自分じぶんのお金かねで買かいたかった、どんなおほに多くおほのものについて考かんがえることができたでしょう。

(つづく)

Date _____
 Name ピーター
 Address _____
 City _____ State _____ Zip _____
 Church _____
*God's Tithe
 and Our Love Offerings*
 Tithe (10% of Income) \$ 40セント
 Local Church Budget (4% to 7%) \$ _____
 Capital Improvement \$ _____
 Conference Advance (1% to 2%) \$ _____
 (_____) Academy \$ _____
 World Budget (2% to 3%) \$ _____
 Ingathering \$ _____
 Total Enclosed \$ 40セント

だい しょう 第 13 章

かみさま しんらい 神様に信頼した アブラハムとイサク



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「見よ、世の罪をとりのぞく神の小羊」。
—ヨハネによる福音書 1 章 29 節

にちようび 日曜日

かみさま う やくそく
神様が、生まれるであろうと約束さ
れたその時に、男の赤ちゃんを
もうけたアブラハムとサラの喜んでい
る姿を、あなたは想像することができますか？

アブラハムとサラには、たくさんの友だ
ちがいました。彼らに赤ちゃんが生まれ
たとの知らせは、あっという間に遠くの地



Darrel Tank

まで広まっていきました。「奇跡だ！サラは
90歳で、アブラハムは100歳にもなる
のに、そのふたりに赤ん坊が生まれるな
んて！」人々は、喜びにわきました。アブ
ラハムとサラにとっては、人生で最大の喜
びでした。

まさしく、それは奇跡でした。だれもが
そのことを認めました。それが奇跡以外
の何ものでもないことは、アブラハムと
サラが一番よく知っていました。彼らは、
自分たちの子供に、「笑い」という意味の
名前をつけました。イサクとは、そのよう
な意味なのです。創世記 21: 1~7。

これほどの幸せを損なうものが、ひとつ
だけありました。それは、ねたみ〔人をう
らやましく思っ**て**憎むこと〕でした。ハガ
ルとイシマエルは、ねたみの心をいだき
ました。そのころ、イシマエルは14歳に
なっていました。これまで、サラには子供
がいなかった**ので**、イシマエルこそが、
神様がアブラハムに約束な**さ**った息子で
あると、みんなが思っていました。けれど

もイサクが生まれると、すべてが変わりました。イサクこそが、神様の約束なされた奇跡の子でした。そのことを、みんなが知るようになりました。そのために、ハガルとイシマエルは、イサクを憎むようになりました。

かんが
考えてみよう: アブラハムとサラがはじめから神様に信頼していたら、どれほどの困難や面倒が避けられたことでしょうか。神様はなぜ、約束の実行を遅らせたと思いますか？神様にとってむずかしすぎるものは一つもないことを、アブラハムとサラが心から信じるようになるまで、神様は待っておられたのでしょうか？神様は、あなたのためにも、何でもしてくださるお方だと思いませんか？その事を私たちが心から信じるのを、神様は望んでおられるのです。

げつようび 月曜日

イサクが生まれてから間もなくして、アブラハムは盛大なお祝いをしました。創世記 21: 8。恐らく、まわりの人たちみんなが、そのお祝いに駆けつけたことでしょうか。ところがサラは、ある良からぬことに気づきます。その良くないこととは、何でしたか？(9節)。(ここでいう遊びはあざけることを意味します) あざけるとは、何かを、または誰かをばかにすることです。この時サラは、イシマエルとハガルがいるかぎり、家庭に平和と幸福は決してやってこないことを悟りました。何

としても、彼らを去らせなくてはとサラは決心しました。サラは、アブラハムに何と言いましたか？(10節)。

サラが夫に言ったことは、いじわるな言葉に聞こえませんか？それを聞いたアブラハムは、とても悲しくなりました。(11節) 彼にとっては、イシマエルも大切な息子です。アブラハムでさえ、長年の間、イシマエルが約束の子であると思っていたわけですから。しかし神様は、サラの息子こそが、ご自分の約束された子であると、彼に何度か伝えておられました。もちろん今となっては、アブラハムも、イサクが約束の子であることを悟っていました。

これからのことについて、神様は何と言われましたか？(12～13節)。アブラハムは、神様から言われたとおりにしましたか？(14～16節)。恐らく彼は、十分なお金をハガルに与えていたことでしょうか。しかし、砂漠で水がなくなってしまった彼らにとって、お金が何になるでしょうか？彼らは、ひじょうにのどが渴いていましたが、



だれも助けてくれる人はいません。はたして、助けは与えられたのでしょうか？（17～21節）。

考えてみよう：だれも自分の気持ちを分かってくれない、と思うことがありますか？ 友だちから見捨てられ、置き去りにされたと思ったことはありますか？どんな時でも、あなたのそばには天使がいることを、また神様はいつもあなたの気持ちを分かってくださることを、決して忘れないでください。

かようび 火曜日

アブラハムとサラは、どれほど息子^{むすこ}を愛し、かわいがったことでしょうか。愛情^{あいじょう}をたっぷり受けて育ったイサクは、親によく従う子供になりました。彼は、美しい大自然の中で、のびのびと育ちました。また家畜の世話や、畑仕事もよくできるようになりました。

また何よりも大事なこととして、アブラハムは、朝夕のいけにえ〔動物を神に供えること〕の意義〔そのことの価値〕を、注意深くイサクに教えていました。私たちがサタンから救うという神様のすばらしい約束について学んだイサクは、神様を心から愛し、信頼し、従うようになっていきました。

ノアには、セム、ハム、ヤペテという三人の息子がいましたね。彼らは大洪水の前に生まれ、洪水を生き延び、洪水



のあとも長い間生きました。神様に忠誠をつくすことを選んだセムは、洪水の数百年後にイサクが生まれたころも、まだ生きていました。洪水前の世界のように、洪水のときのようすなどを、その場にいた本人から聞くことのできたイサクは、たいへん恵まれていたと言えるでしょう。彼は、虹を見るたびに、神様がノアに約束なさったことを思い出したはずです。

イサクが生まれたころには、世界中のほとんどの人が、またもやサタンのうそを信じ込んでしまい、偶像を拝んでいました。神様は、特別にアブラハムを選んで、神様に信頼し、その律法に従い、伝道者となることを選ぶ、特別な民をおこそうとしておられることを、イサクは教えられていました。神様に従うことを選ぶ人々がたいそう祝福され、どんなに幸せな人生を送ることができるかを見て、多くの人々が神様に従いたいと望むようになることを、彼は知っていました。

かんが **考えてみよう**：**てがみ** **ヤコブの手紙2:23** **よ** **を** **読**
んでください。アブラハムは、**じぶん** **かみさま**
の **とも** **だち** **である** **こと** **を**、**どう** **や** **っ** **て** **し** **よ** **う** **め** **し**
ま **し** **た** **か**？**かれ** **は** **い** **つ** **で** **も**、**かみさま** **に** **ま** **っ** **た** **く**
しん **ら** **い** **し** **て** **い** **ま** **し** **た** **か**？**かみさま** **は**、**かれ** **と** **は** **な**
ま **し** **た** **か**？**かみさま** **が** **かれ** **に** **か** **た** **て** **ら** **れ** **る** **せい** **し** **よ**
の **かん** **じ** **を**、**い** **く** **つ** **か** **お** **も** **い** **だ** **す** **こ** **と** **が** **で** **き** **ま**
す **か**？**あ** **な** **た** **も**、**かみさま** **の** **とも** **だ** **ち** **に** **な** **り** **た**
い **で** **す** **か**？

すいようび 水曜日

ア **ブ** **ラ** **ハ** **ム** **と** **かみさま** **は** **し** **た** **とも**
だ **っ** **た** **の** **で**、**かれ** **は** **い** **つ** **で** **も**、**かみさま**
の **こ** **え** **を** **き** **き** **わ** **け** **る** **こ** **と** **が** **で** **き** **ま** **し** **た**。あ
る **ばん**、**かみさま** **が** **かれ** **に** **か** **た**
ア **ブ** **ラ** **ハ** **ム** **は** **す** **ぐ** **に**、**こ** **え** **の** **ぬ** **し**
り **か** **い**、**こ** **た** **に** **か** **み** **さ** **ま**
理 **解** **し**、**す** **み** **や** **か** **に** **こ** **た** **え** **ま** **し** **た**。 **かみさま** **は**、
なん **い** **と** **い** **わ** **れ** **ま** **し** **た** **か**？ **そう** **せい** **き** **22:1~2**。

アブラハムは、**う** **を** **う** **け** **ま** **し** **た**。 **か** **れ** **は**、**ゆ** **め** **を** **み** **て** **い** **た** **の** **で** **し** **よ** **う** **か**？ **い** **い** **え**。
かれ **に** **は**、**かみさま** **の** **こ** **え** **が** **わ** **か** **り** **ま** **し** **た**。 **し** **か**
し **今** **回** **は**、**どう** **や** **っ** **て** **かみさま** **の** **い** **い** **つ** **け** **に**
したが **従** **う** **こ** **と** **が** **で** **き** **る** **で** **し** **よ** **う**？ **ま** **た**、**ほん** **た** **ん** **に**
したが **従** **う** **べ** **き** **な** **の** **で** **し** **よ** **う** **か**？ **かれ** **は** **し** **ず** **か** **に** **お** **き**
そ **と** **で**、**外** **へ** **出** **ま** **し** **た**。 **そ** **ら** **の** **ほ** **し** **を** **み** **あ** **げ** **た** **と**
な **に** **お** **も** **だ** **を** **お** **も** **い** **だ** **し** **た** **と** **お** **も** **い** **ま** **す** **か**？ **そ** **う** **で**
かみさま **は**、**い** **さ** **く** **を** **お** **お** **し** **て**、**かれ** **を** **お** **お** **の**
こ **く** **み** **ん** **の** **ち** **ち** **と** **す** **る** **と**、**やく** **そ** **く** **を** **お** **ら** **れ** **た** **の** **で**
し **た**。

な **か** **は** **い** **つ** **ま** **に** **入** **っ** **て**、**つ** **ま** **の** **み** **を** **み** **ま** **し** **た**。 **い** **や**、
かみさま **に** **い** **わ** **れ** **た** **こ** **と** **を**、**か** **の** **じ** **よ** **に** **か** **た**
よ **そ** **う**。 **次** **に**、**い** **さ** **く** **の** **と** **こ** **ろ** **へ** **い** **き** **ま** **し**

た。 **ま** **だ**、**す** **や** **す** **や** **ね** **て** **い** **ま** **す**。 **かみさま** **に**
い **わ** **れ** **た** **こ** **と** **を**、**お** **こ** **な** **に** **い** **わ** **せ** **な** **い** **よ** **う** **に**、**サ** **タ** **ン**
は **けん** **め** **に** **かれ** **を** **い** **た** **く** **せ** **し** **て** **い** **た** **こ** **と** **で** **し** **よ** **う**。
あ **く** **ま** **は**、「**ころ** **を** **あ** **く** **ま** **に** **り** **つ** **ぽ** **う**
を **や** **ぶ** **る** **よ** **う** **な** **こ** **と** **を**、**かみさま** **が** **め** **い** **る** **は** **ず** **は**
な **い** **で** **し** **よ** **う**」 **と** **さ** **さ** **や** **い** **た** **か** **も** **し** **れ** **ま** **せ** **ん**。
い **け** **れ** **ど** **も** **ア** **ブ** **ラ** **ハ** **ム** **は**、**かみさま** **に** **い** **わ** **れ** **た** **こ** **と** **を**、
は **っ** **き** **り** **と** **り** **か** **い** **し** **て** **い** **ま** **し** **た**。
かれ **は**、**ね** **む** **す** **こ** **に** **む** **か** **っ** **て**、「**い** **さ** **く**
よ、**お** **き** **な** **さ** **い**。 **き** **ょう** **は**、**と** **く** **べ** **つ**
え **を** **さ** **さ** **げ** **る** **た** **め**、**さ** **ぐ** **に** **で** **い** **だ** **け** **な** **く** **て** **は** **な**
ら **な** **い**」 **と**、**やさ** **か** **た** **に** **か** **た** **り** **か** **け** **ま** **し** **た**。

これまでにも、イサクは父親といっしょに、いけにえを捧げに出かけたことがありました。彼は急いで、出かける用意をしました。

アブラハムはふたりの召使いを呼び、食べ物や水やたきぎやナイフや火だね〔火をおこす種とする火〕などの、したくをさせました。ふたりの召使いがロバにもつ荷物を負わせると、間もなく四人は出発しました。 **そう** **せい** **き** **22:3~6** **を** **読** **ん** **で** **く** **だ**



さい。

アブラハムにとっては、とてもつらい三日間でした。心は重く、口数も少なくなりました。神様に言われたことをイサクに話す勇氣は、どうしてもわいてきません。

親子が最後の山を登っているとき、息子のイサクは、父親がもっとも恐れていた質問をしました。それは、どのような質問でしたか？アブラハムは、どう答えましたか？(7～8節)。まだイサクには、本当のことを話せません。もしかしたら彼は、イサクがいけにえとして殺されなくて済むように、神様が何かをなさることを期待していたのかもしれませんが。

考えてみよう: アブラハムは、自分が全く神様に信頼していることを、その行いによって証明していました。神様にとって、むずかし過ぎてできないことは何もないことを、彼はすでに学んでいました。しかし、そのようなアブラハムにとっても、これは最大の試練でした。神様にとって、むずかし過ぎてできないことは何もないことを、あなたはどうかやって学んでいますか？

もくようび 木曜日

アブラハムとイサクが山の頂上に着いたとき、ふたりでいっしょに祭壇を築きました。

今こそアブラハムは、息子に本当のこと



を話さなくてははいけません。イサクの驚きようを、想像することができますか？彼は、もう小さい子供ではありませんでした。20歳くらいの、たくましい若者に成長していました。かんたんに父親をふり切って、家に逃げ帰ることができたはずですが。けれどもイサクも、神様に信頼することを学んでいました。「お父さん、神様が言われたことは、何でもやってください」と彼は言いました。

ふたりは、しばらく互いに抱き合い、最後の別れを惜しみました。それからイサクが祭壇の上に横たわると、アブラハムは彼を注意ぶかくしぼりました。アブラハムの目からは、涙が次から次へとあふれ出てきます。ナイフをにぎりしめ、ふりあげたときの彼の手は、ふるえていました。

するととつぜん、声が聞こえてきて、アブラハムを止めました。(創世記 22:10～12)。彼の手から、ナイフが落ちました。アブラハムとイサクは、どれほど嬉しかっ



きんようび
金曜日

この時もアブラハムは、神様に信頼し従うことを選んだわけです。神様のすばらしい約束は、イサクを通して果たされると言われたことを、アブラハムは覚えていました。その日、イサクが祭壇で死んだとしても、神様は彼をよみがえらせることができになると、アブラハムは信じました。

たことでしょう。ふたたび抱き合ったふたりの目からは、喜びの涙があふれていました。

その時、「メー、メー」という声が聞こえてきました。いったい何だろう？ 13～19節を読んでください。神様が、代わりのいけにえを用意してくださったのです。神様は私たちを愛してくださり、彼にとってむずかしすぎることは何もないことを、ふたたび証明なさいました。

かんが 考えてみよう：神様が与えてくださった
創世記 17:19 の約束にまったく信頼して
いることを、アブラハムは証明しましたか？
私たちは、自分が神様に信頼していること
を、どうやって証明しますか？

アブラハムとイサクの物語から学んでみましょう。人々は、毎日さげられる子羊のいけにえから、何を学ぶことになっていましたか？バプテスマのヨハネの言葉を読んでください。(ヨハネ1:29)。み子である神、イエス様は、神様の律法にいちども背きませんでした。その彼が、神の小羊として、私たちのために死のうとしておられたのです。

罪を犯す人はかならず死にます。ですから神様にそむいた私たちは、みな死ぬ運命にあることを、神様はご存知でした。けれども神様は、私たちをととても愛しておられるので、すばらしい計画を立ててくださいました。み子であり、創造主である神、イエス様が、罪を犯さない生き方を私たちに示すばかりでなく、罪を犯したすべての人の身代わりとして死なれることになったのでした。

神様が、どれほど私たちが愛しておられるか、考えてみてください。神様の愛についての聖句を、いくつか読んでみてく

ださい。(ヨハネ3:16～17)。サタンは、
私たちが永遠に滅びることを望んでいま
す。神様は、私たちが永遠に生きること
を望んでおられるのです。

かんが
考えてみよう: イサクのときには、身代
わりのいけにえが用意されましたが、イ
エス様の身代わりになれる人や天使、あ
るいは動物はいませんでした。イエス様
は、ひとりぼっちでした。その後、アブラ
ハムとイサクは、毎日のいけにえをささげ
るたびに、山での出来事を思い出したこと
でしょう。そして彼らは、これまで以上に、
ますます神様を愛したことでしょう。私た
ちも、神様の愛について知れば知るほど、
神様をもっと愛するようになるのです。

まな もっと学ぼう！

★**創世記** 21:1-21 ; 22:1-19

★**人類のあけぼの上巻** p. 150-162

★**あがないの歴史** p. 96-101



ピーターと彼のお金—パート 2

パティ・リン・ガスリー

〔これまでのあらすじ：ピーターのお母さんは、彼にパンの作り方を教えました。彼は、作ったパンを売って、お金をもうけています。もうけたお金で買いたい物が、いっぱい出てきました。〕

毎週ピーターは、神様にお返しする
 一のお金を分けたあとで、お母さんにパンの材料費を支払いました。
 お母さんは、パンを配達するために車の
 運転もしてくれたので、彼女にガソリン代も支払いま
 した。それからピーターは、残ったお金を銀行に預けました。
 こうして少しずつ、彼の貯金は増えていきました。

最初のころ、ピーターは何だかうきうきしていました。いろんなカタログを見て、何を買おうかとあれこれ考えるのは、楽しいひと時でした。ところが、本当に欲しい物ほど値段が高くて、彼がためたお金ではまだまだ足りません。お金をもっとためたら、欲しい物が買えるようになるだろうかと、心配になることもありました。

何週間かたつと、貯金は少しずつ増え

ていきましたが、ピーターはちっとも嬉しくありません。それどころか、みじめで悲しい気持ちになっていました。

ある安息日のこと、教会へ行ったピーターは、外国でイエス様のことを人々に伝えている宣教師たちが、お金を必要としていることを耳にしました。ある国では、毎日多くの人が、食べ物がないために死んでいき、しかもこれらの人々のほとんどは、イエス様について聞いたことのない人たちでした。

「悲しいことだなあ!」とピーターはひとりごとを言いました。イエス様のことを知らないなんて、彼には考えられないことでした。たくさんのお金があれば、自分もかわいそうな人々を助けてあげられるのに、と思いました。

その時ピーターは、こつこつとためてきたお金のことを思い出しました。とつぜん、自分のお金は、まだ神様にささげていないことに気づきました。一献金はささげていましたが、それはすでに神様のものです。パン作りと配達にかかった代金をお母さんに支払った後の残りのお金は、ぜんぶ自分のためにたくわえてきたのでし



た。自分^{じぶん}でもうけたお金^{かね}なので、ぜんぶ自分^{じぶん}のために使^{つか}おうと考^{かんが}えていたのです。嬉^{うれ}しい気持^きちがなくなっていたのも、無理^{むり}はありません。わがま^{わがま}な人^{ひと}は、決^{けつ}して幸福^{こうふく}になれないこと^{こと}を知^しっていたのに、自分^{じぶん}自身^{じしん}がわがま^{わがま}な人間^{にんげん}になっていたのです。

ピーターは、すぐ^{すぐ}に決^{けつ}心^{しん}しました。「ぼくのお金^{かね}は、自分^{じぶん}のために使^{つか}うのではなく、伝道^{でんどう}の働^{はたら}きのためにささげよう。」彼^{かれ}は、そのこと^{こと}をお母^{かあ}さん^{はな}に話^{はな}しました。お母^{かあ}さん^も、たいへん喜^{よろこ}んでくれました。

ピーターは、貯金^{ちよきん}がどれだけあるか調^{しら}べてみました。そして、たくわえたお金^{かね}を、すべて伝道^{でんどう}の働^{はたら}きにささげたのです。

ピーター^{ピーター}の心^{こころ}には、ふたたび明^{あか}るさと喜^{よろこ}びが戻^{もど}ってきました。彼^{かれ}がささげたお金^{かね}は、それほどたくさんではないけれど、人々^{ひとびと}にイエス様^{イエスさま}のこ^{こと}を伝^{つた}える働^{はたら}きのお手^て伝^{つた}いが少^{すこ}しでもでき^{でき}れば、それで満^{まん}足^{ぞく}でした。ピーターは、イエス様^{イエスさま}に自分^{じぶん}のお弁^{べん}当^{とう}をささげた男^{おとこ}の子^このこ^{こと}を思^{おも}いました。イエス様^{イエスさま}は、そのお弁^{べん}当^{とう}を使^{つか}ってすばらしい奇^き跡^{せき}を行^{おこな}い、何^{なん}千^{ぜん}人^{にん}ものお腹^{なか}をすかせたひとびと^{ひとびと}に食^たべさせたのです。

ピーターは、神^{かみ}様^{さま}の強^き力^{りき}で忠^{ちゆう}実^{じつ}な働^{はたら}き人^{ひと}へと成^{せい}長^{ちやう}していきま^いきました。パン^{ぱん}を売^うってもうけたお金^{かね}を神^{かみ}様^{さま}にささげた彼^{かれ}のお話^{はなし}は、多^{おほ}くの人の心^{こころ}に勇^{ゆう}気^きと愛^{あい}をめばえさせ、自分^{じぶん}中心^{ちゆうしん}の生^いき方^{かた}から、自己^じ犠^ぎ牲^{せい}の生^いき方^{かた}へと導^{みちび}いてくれました。あなたも、その一^{ひとり}人^{ひと}になりませんか？